

令和5年度 開講科目一覧

生活デザイン専攻							
対象年次	授業科目		読み替え科目	担当者	開講期間	Page	
	1年次	2年次	()内対象入学年度		前・後		
共通科目	教養基礎演習			中野都、渡辺淳、江木伸子、平尾和子	前	5	
	情報技術			教授 前田 康智	前	8	
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル		教授 前田 康智	後	11	
	ビジネスワード	ビジネスワード		教授 前田 康智	後	14	
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント		教授 前田 康智	後	17	
	心理学			非常勤講師 原島 雅之 非常勤講師 佐久間 直人	前	20	
		現代日本の社会問題		教授 渡辺 淳	前	23	
	異文化と世界			教授 渡辺 淳	後	26	
		日本国憲法と法律		非常勤講師 友寄 隆信	前	29	
	ボランティア論			教授 中野 都	前	32	
	キャリア形成 I			講師 佐藤 清香	前	35	
	キャリア形成 II			教授 前田 康智	後	38	
	ビジネスマナー	ビジネスマナー		講師 佐藤 清香	前	41	
	運動と健康			非常勤講師 佐藤 久乃	後	44	
	標準英語スキルズ			教授 渡辺 淳 非常勤講師 リチャード・オステン	後	47	
	応用英語スキルズ		教授 渡辺 淳	前	50		
英会話	英会話		非常勤講師 リチャード・オステン	前	53		
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師 木林 祥子	前	56	
	食生活論			講師 佐藤 清香	前	59	
	衣・住生活論			准教授 畑 久美子 非常勤講師 山村 美保里	前	62	
		妊娠・出産・保育の科学		客員教授 岩倉 弘毅 非常勤講師 川上 美子	前	65	
		家庭経営学		非常勤講師 木林 祥子	後	68	
	家族関係学			教授 渡辺 淳	後	71	
		介護概論		教授 中野 都	前	74	
		消費生活と環境		教授 渡辺 淳	後	77	
ライフ・デザイン	生活デザイン概論			准教授 畑 久美子	前	80	
	グラフィックソフト実習			非常勤講師 李 子木	後	83	
	工芸実習			非常勤講師 本郷 芳哉	後	86	
	店舗空間デザイン演習			非常勤講師 山村 美保里	後	89	
	サービス英語コミュニケーション			非常勤講師 リチャード・オステン 非常勤講師 江口 眞由美	後	92	
		カラーコーディネート演習		准教授 畑 久美子	前	95	
		デジタルデザイン演習		非常勤講師 李 子木 非常勤講師 山中 将司	前	98	
		ユニバーサルデザイン概論		准教授 畑 久美子	後	101	
		商品開発・企画演習		平尾、中野、畑、米山、木林、山村、森崎	後	104	
	専攻科目	食べ・ストラデザイン実習			非常勤講師 パッケ 伊東	前	107
		パティシエ実習 I		製菓製パン実習 I	講師 米山 陽子	前	110
		ベーカリー実習		製菓製パン実習 II	講師 米山 陽子	後	113
		調理学			教授 平尾 和子	前	116
		調理学実習			講師 米山 陽子	後	119
		食品衛生学		准教授 三星 沙織	前	122	
		食文化論		講師 米山 陽子	前	125	
フードデザイン・マネジメント論				講師 米山 陽子	後	128	
フードプランニング論				非常勤講師 森崎 繭香	後	131	
		フードコーディネート実習		非常勤講師 佐野 雅	前	134	
レストランサービス論				非常勤講師 真島 久美	後	137	
	レストランサービス実習		非常勤講師 真島 久美	前	140		
ファッション・アパレル	アパレル素材・管理学			准教授 畑 久美子	後	143	
	ファッション販売演習			准教授 畑 久美子	後	146	
	テキスタイルデザイン実習 I			非常勤講師 秋山 敦子 非常勤講師 木林 祥子	前	149	
		テキスタイルデザイン実習 II		准教授 畑 久美子	前	152	
		ファッション造形実習		准教授 畑 久美子	前	155	
		インテリアコーディネート演習		非常勤講師 山村 美保里	後	158	
	アロマセラピー概論			非常勤講師 久保田 裕子	前	161	
	アロマセラピー演習			非常勤講師 久保田 裕子	後	164	

生活デザイン専攻							
授業科目		読み替え科目		担当者	開講 期間 前・後	Page	
対象年次	1年次	2年次	()内対象入学年度				
専攻科目	福祉・医療・介護	社会福祉概論			教授 中野 都	前	167
			介護食実習		教授 小田島 祐美子	前	170
			福祉住環境コーディネーター概論		非常勤講師 山村 美保里	前	173
			医療事務サービス論		非常勤講師 内藤 麻紀	前	176
			医療事務サービス演習		教授 中野 都	前	179
支援科目		生活数理演習			教授 前田 康智	前	182
		英語基礎演習a			教授 渡辺 淳	前	185
		英語基礎演習b			教授 前田 康智	前	188
支援講座		情報技術活用講座	情報技術活用講座		教授 前田 康智	前後	191
		ファッション資格対策講座	ファッション資格対策講座		准教授 畑 久美子	前後	191
		フード系資格支援講座	フード系資格支援講座		講師 米山 陽子	前	192
		医療事務支援講座	医療事務支援講座		教授 中野 都	前	192
			パティシエ実習Ⅱ(講座)		非常勤講師 森崎 繭香	前	193

要素番号	手法	概要	アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項
【1】	Problem Based Learning, Project Based Learning	Problem Based Learningとは、問題解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。Project Based Learningとは、具体的な学修課題をたて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。	「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせ実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるといふ、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。
【2】	クリッカーを用いた レスポンス	教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見や他の学生の意見を即時に知ることができる。意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。	教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるような授業設計をする工夫が必要となる。
【3】	調査研究	教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、DVD映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。	単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつなげたり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。
【4】	フィールド・ワーク	教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。	学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深める必要がある。
【5】	実験	理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめる力を身につけることが期待される。	特に自然科学分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。
【6】	実習	講義などで学んだ技術や方法等を実際の場で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取り組みの姿勢の向上が期待される。	したがって、単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。
【7】	演技	技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。	実習・演技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・演技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。
【8】	ロール・プレイング・シミュレーション	現実起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。	ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めていくなど、学生相互の関わりも重要になる。

アクティブ・ラーニング要素表

	<p>【9】 ペア・グループワーク</p>	<p>作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。</p>
<p>【10】</p>	<p>ディベート</p>	<p>多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけでなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながり、授業を設計する必要がある。</p>
<p>【11】</p>	<p>ディスカッション</p>	<p>プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかをふり返る機会も設けることも重要である。</p>
<p>【12】</p>	<p>プレゼンテーション</p>	<p>単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計には必要であり、例えば50名の受講者なら、発表者が5名で、10回で全員が担当する場合には、各回で残りの45名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴った成績評価方法も必要である。</p>
<p>【13】</p>	<p>輪読学習</p>	<p>与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とコミュニケーションをとることにより、学修意欲を引き出すねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見いだすことが期待される。</p>
<p>【14】</p>	<p>双方向型問題演習</p>	<p>授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト）、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。</p>
<p>【15】</p>	<p>双方向型執筆演習</p>	<p>学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考え方に基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的）学修へつなげることが重要である。</p>
<p>【16】</p>	<p>振り返り</p>	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>
<p>【17】</p>	<p>体験型学習</p>	<p>学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	なかの 中野・わたなべ 渡辺・えぎ 江木・ひらお 平尾	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 8, 9, 11, 12	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>本学の学生として身につけてほしい基礎的な知識・技能を学び、その中から豊かな生活をするために必要なことを自ら選びとることができるようになるために設定している科目である。はじめに本学園の礎となる、建学の精神・校訓・歴史・伝統について学ぶ。そのうえで、社会で活動するために必要となる基礎的な知識及び能力・豊かな教養を身につける。さらにこの学習成果を獲得するために欠かせない、円滑なコミュニケーション方法やマナー、社会常識について理解し、活用できるようにする。また、短期大学で必要とされる学修方法を習得するために、レポートや文章の書き方、プレゼンテーション技術および聴講姿勢を身につけ、まとめとして礼節をもって短大での学びの成果を報告する方法を学ぶ。</p>							
成績評価方法							
授業内課題等及びプレゼンテーション(65%)、文章表現力(30%)、受講態度(5%)の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S～C:以下参照

D(59-0点):単位修得目標を達成できていない

Z:評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

- ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑に双方向のコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・社会生活に必要なマナー・社会常識を十分に理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・プレゼンテーションのために構成を考えて論理のある原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・話者の話を「聴く」ことができ、質問することができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、文献を基に自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手にも配慮しながら状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価A)目標

- ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑にコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・プレゼンテーションのために構成を考えて原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問することができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手に対し状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

- ・コミュニケーションやマナーの必要性を理解し、短大生としてコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力、表現力等】
- ・社会生活に必要なマナー・社会常識を理解し、使うことができるようになる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前で自分らしくスピーチすることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力、表現力等】
- ・話者に対して聴く姿勢を示すことができ、質問が思い浮かぶようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・レポートの書き方を理解したうえで、必要条件を満たした内容のレポートが提出できるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力、表現力等】
- ・主体的にプロジェクト学習に取り組み、基本に則った内容の文章を書くことができるようになる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得(成績評価C)目標

- ・コミュニケーションやマナーの必要性を概ね理解し、短大生としてコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・社会生活に必要なマナー・社会常識を概ね理解し、使うことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・プレゼンテーションのための原稿を作成し、聴衆の前でスピーチすることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・話者に対して聴く姿勢を示すことができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
- ・レポートの書き方を理解したうえで、内容のレポートが提出できるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・主体的にプロジェクト学習に取り組み、文章を書くことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
教養基礎演習	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	なかの 中野・江木・渡辺・平尾	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 8, 9, 11, 12	
教科書 なし							
参考書・資料 各授業の講師が必要に応じて資料を配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担) 特になし							
課題に対するフィードバック スピーチ原稿などは添削等ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ ・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。 ・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。 ・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。 ・授業中のスマートフォンの使用および私語は禁止する。 ・欠席した場合は、出校した際に必ずその回の担当講師に連絡を取る。課題提出の場合が多い。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	建学の精神、オリエンテーション当	愛国学園の建学の精神・校訓・学園の歴史を学ぶ、本科目の意義と進め方、短大生活におけるマナーについて。	複数
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。建学の精神と校訓を音読してくる(キャンパスガイド参照)。	
	事後学習 10分	授業の内容を振り返り、短期大学で学ぶということを再度確認する。	
2	コミュニケーションスキル	円滑なコミュニケーションの方法や必要性を学ぶ(外部講師)。	複数
	事前学習 10分	円滑なコミュニケーションの必要性を考えてくる。	
	事後学習 30分	授業の内容を振り返り、日常的に継続して実践する。	
3	自己紹介(プレゼンテーション1)	簡易のスピーチ原稿を作成し、自己紹介のスピーチを行う。他の人のスピーチを聴く。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	1分間で自分自身を紹介するための題材について考えてくる。	
	事後学習 20分	自分のスピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。	
4	防犯セミナー、ボランティア活動について	小岩警察署による防犯セミナーを聴講する、ボランティア活動を理解し、実践への心構えを作る	外部講師・中野
	事前学習 10分	自分または周囲の人に危険を感じたことを整理する。ボランティア活動とは何か調べてみる。	
	事後学習 30分	防犯のために必要なことを実践する。自分がどのようなボランティア活動ができるか考え、実践に向けて計画をたてる。	
5	短期大学に必要な学修方法(初年次教育1)	資料のファイリング法、学生生活における時間管理、試験と成績評価について、メールの仕方	江木
	事前学習 20分	事前に配布するプリントを読んでくる。資料を参照し、フリーメールアドレスを取得しておく。	
	事後学習 30分	ファイリング、時間管理、メール等について、日常生活において実践する。	
6	短期大学に必要な学修方法(初年次教育2)	レポートの書き方	江木
	事前学習 10分	事前に配布するプリントを読んでくる。資料を参照する。	
	事後学習 30分	レポートを完成させ、提出する。	
7	挨拶・訪問の実践、図書館の使い方	学生生活に必要な挨拶・訪問等をロールプレイング方式で学ぶ	クラス分け 複数
	事前学習 30分	先輩の話し方やマナーを観察しておく。伝え方や表現方法を自分なりに考えてくる。	
	事後学習 60分	日常生活で必ず実践する。	

8	テーマに沿ったスピーチ1	テーマに沿ったスピーチをするための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 60分	事前に提示されたテーマから一つ選びスピーチに用いる内容を考えてくる。	
	事後学習 30分	スピーチの原稿の構成を考える。	
9	テーマに沿ったスピーチ2 (プレゼンテーション2)	スピーチ原稿を完成させ、スピーチの練習をする。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	原稿の内容をまとめる。	
	事後学習 40分	スピーチの練習をする。	
10	テーマに沿ったスピーチ3 (プレゼンテーション2)	個人発表と他の人の発表の聴講	複数
	事前学習 30分	発表の練習をする。	
	事後学習 60分	発表した人は自分の課題を見つけ、修正した原稿を清書して提出する。聴講のみだった人は次回の自分の発表に活かせる点を見つける。	
11	プロジェクト学習1	手紙の書き方の基本を学ぶ。	中野
	事前学習 30分	手紙の種類や時候の挨拶などを調べる。	
	事後学習 60分	学習をふり返し、今後の生活への活かし方を考える。	
12	プロジェクト学習2	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	短大入学後の学びの成果の要点を整理し、全体の下書きをする	
	事後学習 30分	手紙を推敲する	
13	プロジェクト学習3	短期大学における学びの成果を出身高校に報告するための原稿を作成する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	原稿の仕上げを行う	
	事後学習 60分	封筒のあて名書き等を行う	
14	プロジェクト学習4	手紙（出身高校への報告文）を清書する。	クラス分け 複数
	事前学習 30分	原稿を清書する	
	事後学習 40分	高校訪問または手紙を投函して、短大における学びの成果を出身高校の先生に伝える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7,14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。また、情報を取り扱うためのマナーについて学ぶ。</p>							
成績評価方法							
受講態度(10%)、毎回授業の課題提出(20%)、定期試験(70%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を十分熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを十分熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを十分熟知した上で、大学生として求められる表計算を十分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を大部分熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを大部分熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを大部分熟知した上で、大学生として求められる表計算を大部分熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能をある程度熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーをある程度熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方をある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションをある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーをある程度熟知した上で、大学生として求められる表計算をある程度熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器の基本操作や基本機能を基本的に熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・コンピュータ及びコンピュータ含む周辺機器を利活用する上で必要となるモラルやマナーを基本的に熟知している。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、ビジネス文書や大学生として求められるレポート文書の書き方を基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、大学生として求められるプレゼンテーションを基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】
- ・上記操作と機能・モラルやマナーを基本的に熟知した上で、大学生として求められる表計算を基本的に熟知し、かつ実施することができる。【DP1:知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
情報技術	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				6・7,14	
教科書							
『情報利活用基本演習Office2019対応』 日経BP社 ¥1,815 『情報倫理ハンドブック』 noa出版 ¥440							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・専攻別に分けて授業を行う。aクラスは食物栄養専攻、bクラスは生活デザイン専攻である。 ・毎回の授業に演習課題を課す。 ・13回目の授業では情報操作の総復習の問題を課す。 ・14回目の授業では定期試験前の総まとめの問題を課す。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、コンピューターの基本操作1／文書の作成と管理	情報演習室の利用、コンピュータの基本操作、ファイル・フォルダの操作／新規文書の作成・保存、文字の装飾	/
	事前学習 30分	シラバスを読んでくる。教科書の該当ページを読んでくる（コンピューターの基本操作のP2～P9とLesson1のP21～31）	
	事後学習 60分	情報演習室の利用方法を確認、ファイル・フォルダの操作、Wordの文書の作成と管理を復習する	
2	コンピューターの基本操作2／一般的なビジネス文書の作成	ファイル・フォルダの操作、ファイルの種類と拡張子、PDFファイルの作成／社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（コンピューターの基本操作のP8～P11とLesson2のP35～45）	
	事後学習 60分	ファイルの種類、PDFファイルの作成、Wordのビジネス文書の書き方とインデント・タブを復習する	
3	コンピューターの基本操作3／レポート・報告書の作成	キーボードのキー機能、かな変換、タッチタイピング練習／大学レポートの書き方、段落設定、書式設定	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（コンピューターの基本操作のP16～P18とLesson3のP48～59）	
	事後学習 60分	キーボードのキー機能、Wordの段落設定、書式設定を復習する	
4	メールの書き方／他データを利用した文書の作成	メール文章の書き方と添付ファイルの添付方法／他文章、Excel、写真の挿入と編集	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（Lesson4のP64～75）	
	事後学習 60分	メールの使い方全般、Wordから写真の挿入と編集を復習する	
5	情報を正しく取り扱う1／プレゼンテーションの基本操作1	情報のモラルとマナー／プレゼンテーションの目的、自己紹介スライドの作成（展開の仕方、見せ方、作り方の基本）	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（情報倫理ハンドブックP2～P3と情報利活用Lesson5のP81～95）	
	事後学習 60分	情報のモラルとマナー、PowerPointスライドの作成を復習する	
6	情報を正しく取り扱う2／プレゼンテーションの基本操作2	著作権の遵守／特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（情報倫理ハンドブックP4と情報利活用Lesson6のP97～105）	
	事後学習 60分	著作権の順守について、PowerPointのグラフ、表の挿入を復習する	
7	情報を正しく取り扱う3／プレゼンテーションデザイン1（レイアウト）	著作権法と著作物・著作者、各種権利／センスアップのためのレイアウトデザイン（フォント・テーマの適用、スライドマスターの活用）	/
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでくる（情報倫理ハンドブックP5と情報利活用Lesson7のP107～120）	
	事後学習 60分	著作権法、PowerPointのフォント、テーマ、スライドマスターなどの操作を復習する	

8	情報を正しく取り扱う4/プレゼンテーションデザイン2 (イラスト・写真の活用)	著作物の引用/センスアップのためのレイアウトデザイン (イメージを伝えるためのイラスト・写真の活用)	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる(情報倫理ハンドブックP4~P6と情報利活用Lesson8のP122~136) レポート課題における著作物の引用、訴求効果のあるPowerPointのデザインを復習する	
9	情報を正しく取り扱う5/プレゼンテーションデザイン3 (写真・ファイル容量)	肖像権と肖像権侵害、ネットワークトラブル/ファイル容量とPowerPoint作成、データ量と通信	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる(情報倫理ハンドブックP7~P9とP42~P52) 配布資料を復習する	
10	表作成の基本動作	文字・数値・数式の入力、ブックの保存	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる (Lesson9のP141~P154) Excelの表作成の基本動作を復習する	
11	表の編集操作	幅の調整、表構成の変更、セル内編集	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる(Lesson10のP156~P167) Excelの表の入力・編集を復習する	
12	数式・関数による集計表の作成	絶対・相対参照、合計・平均、最大・最小、四捨五入、条件式など	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる(Lesson11のP170~P184) Excelの数式・関数による集計表の作成を復習する	
13	グラフの作成・編集	グラフのラベル・目盛、要素の書式	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の該当ページを読んでくる(Lesson12のP187~P199) Excelのグラフの作成と編集を復習する	
14	情報操作総復習	全体の振り返り (Word2019、Excel2019、PowerPoint2019総復習)	
	事前学習 30分 事後学習 60分	教科書の全ページを読んでくる(Lesson1~11) 今までの授業の操作全てを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7,14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現在の学生生活、その先の仕事や社会生活で使われる可能性の高いものを例に挙げ、表計算ソフトEXCELを活用して処理する方法を取り上げる。時間・金額等のデータ記録管理、検索抽出などのデータ操作と活用、グラフを活用した視覚的な表現力の向上を目指しながら、入力ミスを防ぐ方法や、データベースを表に集計する方法などを学ぶ。							
成績評価方法							
受講態度(10%)、授業中と授業後の課題提出(20%)、定期試験(70%)の総合評価							

成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、総合的に処理することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価A）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてほぼミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、大部分処理することができる。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてほぼミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、大方処理することができる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

さまざまな社会的活用事例を通じて、EXCELの基本・応用的な機能を使いこなしながら、必要に応じてミス無く作成・修正・追加を練習し、一から自分の必要な事例を作成し、基本的な部分処理することができる。【DP1:知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスエクセル	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7,14	
教科書							
なし（毎回資料を配布する）							
参考書・資料							
なし（適宜プリントを配布する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
毎回の授業に演習課題を課す。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	アンケート集計	表作成、式・関数計算、条件付き書式、データの抽出	/
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
2	アルバイト勤務表	日付、時刻の管理、金額計算	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
3	案内状、納品書	納品書とは、商品コード、商品名の検索、入力規則	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
4	請求書	請求書とは、商品コード、商品名の検索	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
5	売上分析、栄養成分表、体制表	表の印刷、特殊なグラフ、SmartArtグラフィック	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
6	家計簿	日付関数、収入残高計算、月単位と年単位の管理	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
7	売上分析	シートの連携、複合グラフ、スパークライン	/
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

8	売上分析	レコードの条件抽出・並び替え、小計の出し方	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
9	売上分析・アンケート集計1	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
10	売上分析・アンケート集計2	3D集計の方法（ピボットテーブル、ピボットグラフ）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
11	点数管理	順位関数、条件付き書式、分布グラフ、照合関数（INDEX・MATCH）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
12	顧客住所録	データの管理・修正（全半角、空白文字の扱い、文字列の取り出し）	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
13	その他便利な機能	金銭の計算、度数分布表に関する関数、賃金計算書の応用	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	
14	まとめ	今までの問題の総復習	
	事前学習 60分	資料にある操作手順を確認する	
	事後学習 60分	操作手順が間違っていないかを確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>文書作成ソフトウェアWordについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職に向けて実践的な技能を得ることを目指す。資格取得が十分可能な学生に対して、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指すための試験対策を行う。</p>							
成績評価方法							
授業中の態度(20%)、作品課題提出(80%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>
到達（成績評価S）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、総合的かつ最大限のビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
到達（成績評価A）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、求められるビジネス文書処理が大部分できるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
到達（成績評価B）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、求められる中程度のビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
単位取得（成績評価C）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定する。資格取得が十分可能な学生に対しては、Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の2級取得を目指す。この資格は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業では、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、基本的なビジネス文書処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスワード	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
Wordの活用に必要な知識を得ながら、実技として、美しいWord文書の例に従い、資料作成の練習を行う。すなわち、前半の1～7回目はWordの目的や機能毎の課題に取り組み、後半の8～14回目は資格取得対策も兼ねた実践的な正確で美しく訴求力のある文書作成を目指した課題作成に取り組む。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	表・入力フォームの作成	入力フォームの作成、コンテンツコントロールの作成	
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。情報技術で学習したワードの章を読んでくる	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
2	縦書き文書の作成	縦書き文書の作成、段組み、縦中横などの機能	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
3	スタイルの活用・Word内表とグラフの使い方	A4紙1枚配置のための文字・表・グラフの配置と機能	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
4	差込印刷	宛名データの差込印刷	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
5	目次の作成	アウトラインの作成	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
6	見出しの作成とアウトライン	大見出し・小見出し、ヘッダーとフッターなど	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
7	ビジネス文書の作成・セクション区切り	セクション区切りによる1ファイル内別文書の作成など	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	

8	Word実技課題の解説	Word試験の2級レベルの実技問題の解説（ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置など）	
	事前学習 60分	1～7回目の資料を総復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
9	PowerPoint実技課題1	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
10	PowerPoint実技課題2	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
11	PowerPoint実技課題3	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
12	PowerPoint実技課題4	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
13	PowerPoint実技課題5	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
14	PowerPoint実技課題6	実技課題に取り組み、ヘッダーとフッター、ワードアート、スタイルの作成と適用、表の作成、画像・図形の配置などをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>プレゼンテーションソフトウェアPowerPointについて、決められた目的や課題に対して正確に、美しく、速く作るための基礎・応用を学びながら、繰り返しの演習を通じ、他授業や就職後に向けて実践的な技能を得ることを目指す。また、資格取得が十分可能な学生に対して、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指すための試験対策を行う。</p>							
成績評価方法							
<p>授業中の態度(20%)、作品課題提出(80%) の総合評価</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>
到達（成績評価S）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、総合的かつ最大限のプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
到達（成績評価A）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、求められるプレゼンテーション処理が大部分できるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
到達（成績評価B）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、求められる中程度のプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>
単位取得（成績評価C）目標
<p>各自のレベルに合わせた指導を通じて、目標も段階的に設定し、資格取得が十分可能な学生に対しては、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)の上級取得を目指す。この資格は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、基本的なプレゼンテーション処理ができるようになる。【DP1:知識・技能】</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスパワーポイント	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田 やすとも 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		情報技術単位取得者				6・7	
教科書							
なし（必要に応じて資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題説明と説明後の課題作成を経て、受講学生の課題を授業最後に一人一人教員が確認する。問題があればその場で指摘する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
PowerPointの活用に必要な知識を得ながら、最終的には、美しいPowerPointプレゼンテーションの例に従い、資料作成の練習を行う。すなわち、前半の1～7回目はPowerPointの機能毎の課題に取り組み、後半の8～14回目は資格取得対策も兼ねた実践的な正確で美しく訴求力のあるプレゼンテーションを目指した課題作成に取り組む。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	画像の加工	アート効果、色のトーン、トリミング、画像の背景の修正など	/
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる。情報技術で学習したパワーポイントの章を読んでくる	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
2	訴求力のあるちらしの作成	グリッド線の使い方、文字・図形の配置や色合いなど	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
3	動画・音声の加工	動画の挿入と加工、音声の挿入と加工	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
4	スライドマスターの活用・ハイパーリンク	スライドマスターによる編集（文字・画像・図形・フッター・ヘッダーなど）／リンクによるスライド移動と動作設定ボタン	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
5	Word・Excelとの連携・他のPowerPointの再利用	アウトラインの活用、スライドのリセット、Excelデータの貼り付け方、他のPowerPointのスライドの利用方法など	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
6	検索・置換、コメントの使い方、校閲	文字の検索と置換、コメントの機能、校閲（プレゼンテーションの比較作業など）	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
7	セクション・ドキュメント検査	セクションの使い方、アクセシビリティチェック、暗号化、PDFとして保存など	/
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	

8	PowerPoint実技課題の解説	PowerPoint試験の上級レベルの実技問題の解説（デザイン、スライドマスター、オブジェクトの配置、アニメーション、画面切り替えなど）	
	事前学習 60分	1～7回目の資料を総復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
9	PowerPoint実技課題1	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
10	PowerPoint実技課題2	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
11	PowerPoint実技課題3	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
12	PowerPoint実技課題4	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
13	PowerPoint実技課題5	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	
14	PowerPoint実技課題6	実技課題に取り組み、デザイン、スライドマスター、訴求力あるオブジェクト、アニメーション、画面切り替えなどをマスターする	
	事前学習 60分	前回の内容（配布資料など）を復習する	
	事後学習 60分	配布資料を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年 前学期	講義	2	さくま なおと・はらしま まさゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニ バス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
心とは何でしょうか。自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思えます。そのような対象について、心理学は100年以上にわたって科学的に解明しようと様々な試みを行ってきました。多くの先人たちがどのような工夫を行い、そしてその結果どのようなことがわかってきたのか、色々な心理学の分野における知見について紹介していきます。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 定期試験(70%) リアクションペーパーなどの課題(30%)							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における身近な心理学的現象について、授業で学んだ知見をもとに説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」における社会的機能や適応的意義について、説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】 「心」を科学的に扱うということについて、基本的な説明ができるようになる。【DP1：知識・技能】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ心理学的知見について、日常における具体的な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 「心のはたらき」について、心理学的用語を使って説明をすることができるようになる。【DP1：知識・技能】 心理学における実験や調査的手法について、具体的な例を挙げて説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
心理学	選択	共通	1年 前学期	講義	2	さくま なおと・はらしま まさゆき 佐久間 直人・原島 雅之	オムニ バス
科目区分		履修条件				AL	
共通科目（社主事）		特になし				6・7,16	
教科書							
特になし							
参考書・資料							
毎回の授業においてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	心理学とは	心理学という学問の概要と歴史	佐久間
	事前学習 10分	シラバスを読む	
	事後学習 10分	配布資料について復習する	
2	感覚・知覚①	ものを見る仕組みと錯視	佐久間
	事前学習 10分	心理学が扱う「心」について考えを整理しておく	
	事後学習 20分	身近にある錯視を探してみる	
3	感覚・知覚②	感覚の測定法と法則	佐久間
	事前学習 10分	対象と背景の区別や奥行き把握など「見る」ことに必要な要素を考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
4	学習・条件づけ①	古典的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	自分の癖や好き嫌いについて考えておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
5	学習・条件づけ②	道具的条件づけによる行動の形成	佐久間
	事前学習 10分	好き嫌いについて、古典的条件づけを用いた説明を考えておく	
	事後学習 20分	自分の癖や好き嫌いについて心理学的に説明し、修正方法を考える	
6	認知・記憶	記憶の仕組みと認知	佐久間
	事前学習 10分	うっかり読み間違いをした単語を思い出し、メモしておく	
	事後学習 20分	配布資料について復習する	
7	認知・思考	論理的な推論と意思決定の法則性	佐久間
	事前学習 10分	自分が下した決定の理由や決め手について考えてみる	
	事後学習 20分	これまでに自分がした法則的な意思決定や誤謬を説明してみる	

8	動機づけ①	モチベーションとは、基本的欲求と目標の追求	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分の目標について考え、整理しておく 配布資料について復習する	
9	動機づけ②	目標設定と計画の立て方、自己制御	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分の目標を達成するための計画を考える 配布資料について復習する	
10	社会的認知①	他者に対する印象、バイアスとステレオタイプ	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	身近な他者についてのイメージを考え、整理しておく 配布資料について復習する	
11	社会的認知②	自己呈示、社会的自己と自尊心	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分自身についてのイメージを考え、整理しておく 配布資料について復習する	
12	パーソナリティ①	性格の諸理論、性格の一貫性	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	自分や他者の性格について考え、整理しておく 配布資料について復習する	
13	パーソナリティ②	性格の測定、性格の背景	原島
	事前学習 10分 事後学習 20分	人の性格はどう調べられるか、どう形作られるかについて考えておく 配布資料について復習する	
14	まとめ	シンリガク ナニ 心理学とは何かー全体の振り返り	原島
	事前学習 60分 事後学習 30分	これまでの学習内容を振り返り、心理学とはどのような学問か、「心のはたらき」とは何かについて、自分の考えを整理しておく 定期試験に向けての準備をする	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年前学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の社会問題について、家庭をめぐる経済の問題に始まり、民主政治の条件、教育のあり方を論じ、死をめぐる問題を扱う。講義としているが、できるだけ履修者が積極的に発言できるような進行を予定している。そのために、毎回配布するプリントをよく予習して自分なりの問題点を見つけておくことが望まれる。タイムリーな話題については、DVD等で追加的に学習する。							
成績評価方法							
取組み姿勢 (20%) 提出物 (小テストを含む) (80%) の総合評価							

成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
 Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

- ・現代日本の社会問題について基礎事項を修得する。【DP1：知識・技能】
- ・現代日本のさまざまな社会問題について説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- ・現代日本のさまざまな社会問題について、他の人と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

- ・現代日本の社会問題について基礎事項を概ね修得する。【DP1：知識・技能】
- ・現代日本のさまざまな社会問題について述べるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
現代日本の社会問題	選択	共通	2年前学期	講義	2	渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		なし				16	
教科書 なし（プリントを配布する）							
参考書・資料 特になし（授業において必要に応じて紹介する）							
教科書以外にかかる費用（自己負担） 特になし							
課題に対するフィードバック ミニットペーパー（印象に残ったこと、疑問に思ったこと）は翌々週の授業時に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ ・遅刻厳禁 ・私語は禁止							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	国民経済における家庭経済(1)	家庭経済の設計（1）、家計と企業のつながり	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
2	国民経済における家庭経済(2)	家庭経済の設計（2）、家事労働と市場労働	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
3	国民経済における家庭経済(3)	就業と生涯賃金、労働市場	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
4	少子高齢社会と社会経済政策(1)	税、社会保障制度と財政負担・人口構造	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
5	少子高齢社会と社会経済政策(2)	少子高齢社会と外国人労働政策	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
6	社会問題としての格差	格差社会としての日本	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	民主政治について(1)	民主主義と全体主義	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

8	民主政治について(2)	選挙と政権交代	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
9	民主政治について(3)	テロリズムと日本	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
10	教育について(1)	民主主義と教育	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
11	教育について(2)	グローバル化の中の教育	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
12	死について(1)	死刑と安楽死	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
13	死について(2)	消費者としての患者と医療	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
14	死について(3) 及びまとめ	葬送のあり方及び全体の振り返り	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>現在、私たちの日々の生活が外国(企業・人)との関係なしには成り立たなくなっている。このようなグローバル世界において生きる知的土台を築くため、異文化理解についての基本的な考え方、その問題点を学びつつ、国際社会の成り立ちの過去から現在を経て未来へと向かう変動の中での人々の価値観・文化の揺らぎを理解する。各種ホームページからの資料や国内・海外のテレビニュース等を利用する。授業進行は、議論の論理的構築及び話題性の両方を考慮して、柔軟に行っていくものとする。</p>							
成績評価方法							
<p>取組み姿勢 (20%) 提出物 (80%) の総合評価</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>
到達（成績評価S）目標
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための基礎事項を修得し、これについて説明できるようになる。 【DP1：知識・技術】 ・異文化理解のための基本的な考え方を修得する。【DP1：知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について基本的に理解し、説明することができるようになる。 【DP1：知識・技術】 ・日常生活における異文化をめぐる問題について、明確な関心を持ち、意見を表明し、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル世界の現状や文化状況の理解するための概ねの基礎事項について述べるようになる。 【DP1：知識・技術】 ・異文化理解のための基本的な考え方を概ね修得する。【DP1：知識・技術】 ・国際社会の現在に至るまでの成り立ちの歴史について概ね基本的に理解しこれについて述べるようになる。【DP1：知識・技術】 ・日常生活における異文化をめぐる問題について、関心を持ち、自分なりの意見を表明することができるようになる。 【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
教科書							
必要に応じてプリント等を配布する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパーは翌々週の授業時に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される ・遅刻厳禁 ・私語は禁止 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	なぜ「異文化と世界」を学ぶか	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 60分	授業計画の説明を再確認する	
2	日常生活とグローバル化（1）	消費生活、雇用、企業、地域社会	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
3	日常生活とグローバル化（2）	反グローバル運動、反グローバルナショナリズム	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
4	異文化理解のための知識（1）	必要な文化情報、価値観	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
5	異文化理解のための知識（2）	例としての銃社会アメリカ	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
6	異文化コミュニケーション（1）	コミュニケーションのルール	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	
7	異文化コミュニケーション（2）	例としての闘牛	/
	事前学習 60分	配布プリントを読む	
	事後学習 60分	プリントを復習する	

8	異文化接触とステレオタイプ	文化還元主義、解釈、スキーマ	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
9	国際秩序の歴史(1)	ウェストファリア条約と西欧国際システムの誕生	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
10	国際秩序の歴史(2)	2つの大戦の反省としての第2次世界大戦後の秩序(安全保障と経済、社会)	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
11	国際秩序の歴史(3)	東西冷戦と冷戦後の世界(地域紛争及び国際テロリズム)	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
12	現在の世界	始まった新冷戦(中国の台頭とロシアの復活)の特質	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
13	これからの日本	多民族社会日本の安全保障と経済	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	
14	オリンピックおよびまとめ	オリンピックの理念・歴史・問題点及び全体の振り返り	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布プリントを読む プリントを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	ともよせ たかのぶ 友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
憲法に定める財政民主主義に関連し、国家財政の会計検査、諸外国との意見交換のための国際会議への出席、国会の予算委員会、決算委員会などでの予算執行等に関する議員質問への答弁などの経験を有した教員より、我が国における憲法の運用実態を学ぶことができる。							
授業の概要							
憲法の基本的枠組み（基本的人権、統治機構）を、出来るだけ身近な事例を取り上げて説明することで、憲法とは何かを理解する。現代法のうち日常生活に密接な関連を有する民法や労働関係法などの初歩を理解する。							
成績評価方法							
学修成果確認のための試験(50%)、学期の途中で提出するレポート(25%) 授業態度(25%)の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

到達（成績評価A）目標

憲法及び現代法の基本を学ぶことにより、政治・社会の仕組みを理解し、世の中の様々な出来事について自らの考え方を整理し意見表明できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】そしてそれを踏まえて試験やレポート課題の設問に対してある程度の分量の答案文を作成できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

単位取得（成績評価C）目標

憲法教科書等の内容を十分理解することにより、日本の統治機構や基本的人権保障の仕組み及びその現状についての理解を深めることができる。またその理解内容を文章で表現できるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
日本国憲法と法律	選択	共通	2年前学期	講義	2	友寄 隆信	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				—	
教科書							
木山泰嗣：『マンガでわかる日本国憲法』 池田書店（最新版） ¥1,485							
参考書・資料							
①池上彰：『超訳 日本国憲法』 新潮新書（2015） ¥842 ②伊藤真：『伊藤真の日本一わかりやすい憲法入門』 中経出版（初版） ¥1,620 ③中川淳：『現代法学を学ぶ人のために』 世界思想社（第二版） ¥2,530							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出されたレポートにコメントを加え改善点などを指導する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
授業中、前後の質問大歓迎。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	社会生活と法律	法とは何か、法の歴史と発展、法の分類、解釈と適用	/
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書③の関連箇所での復習	
2	憲法の歴史	憲法は何のためにあるか、近代憲法の誕生、日本国憲法の制定	/
	事前学習 40分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
3	憲法の基本原理と平和主義	国民主権と象徴天皇、憲法9条と自衛隊・日米安保条約	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
4	基本的人権の原理	人権の意味・特徴・分類、公共の福祉による制限、個人の尊重	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
5	法の下での平等	法の下での平等の意味、一票の格差、男女の平等など	/
	事前学習 10分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②の関連箇所での復習	
6	自由権	表現の自由とプライバシー、思想・信教の自由、経済的自由権など	/
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所での復習	
7	福祉国家と社会権、参政権	生存権、教育を受ける権利、労働権	/
	事前学習 20分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 20分	参考書②③の関連箇所での復習	

8	国会	健力分立の原理、国権の最高機関、二院制	
	事前学習 30分	教科書該当箇所を読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所を復習、配付プリントを復習	
9	内閣、司法、財政	議院内閣制、司法権の独立、財政民主主義	
	事前学習 30分	教科書該当箇所、配付プリントを読むこと	
	事後学習 30分	参考書②の関連箇所を復習、配付プリントを復習	
10	民法入門、財産権	民法とは何か、権利能力、物権と債権、時効など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	
11	社会生活と契約、不法行為	契約の自由とその限界、不法行為の意義、損害賠償など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
12	就職と労働法	労働契約の成立（採用）、労働基準法、働き方改革など	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 20分	同上などで復習	
13	家庭生活と法	親子、婚姻・離婚、扶養、相続	
	事前学習 30分	参考書③の関連箇所を読むこと	
	事後学習 30分	同上などで復習	
14	まとめ	憲法改正など全般の振り返り、学修成果確認のための試験	
	事前学習 100分	教科書全般、配布プリントをよく読んで理解すること	
	事後学習 60分	同上で復習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	なかの 中野 都 ^{みやこ}	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、課題を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する知見を広げる。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。							
成績評価方法							
定期試験(40%) ボランティア体験の活動報告書・レポート(40%) 受講態度(20%) の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
到達（成績評価A）目標
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
単位取得（成績評価C）目標
講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。 1. ボランティアの理念、目的、基本原則を踏まえて自分で興味のあるボランティア活動に参加し、活動の意義について考えることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 2. ボランティア活動を通じて自己、他者を知り、活動の場を広げることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ボランティア論	選択	共通	1年 前学期	講義	2	中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				11, 17	
教科書							
授業中に資料・プリントを配布する。							
参考書・資料							
桜井政成、津止正敏編著：『ボランティア教育の新地平』 ミネルヴァ書房 ¥3,080 岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』 社会福祉法人大阪ボランティア協会 ¥1,980							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。 2. 授業中のスマートフォンの使用を禁止する。 3. パソコン室では音楽や動画、ゲームの操作及び授業内容に関連のないインターネットの視聴を禁止する。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ボランティア活動について (1)	ボランティアの理念・目的	
	事前学習 15分	シラバスを読み、学習内容を把握する。	
	事後学習 30分	ボランティアの理念と目的について確認する。	
2	ボランティア活動について (2)	ボランティア活動の基本原則	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような姿勢で臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の基本原則を確認する。	
3	ボランティア活動について (3)	実際のボランティア活動	
	事前学習 15分	ボランティア活動にはどのような種類があるか考える。	
	事後学習 30分	ボランティア活動の種類を理解する。	
4	ボランティア活動について (4)	ボランティア参加の意義	
	事前学習 15分	なぜボランティア活動に参加するのかについて考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
5	ボランティア活動について (5)	ボランティア活動と公共	
	事前学習 15分	自分ができる地域貢献について考える。	
	事後学習 30分	社会参加としてのボランティア活動を捉える。	
6	ボランティア活動について (6)	ボランティア活動とNPO法人 (特定非営利活動)	
	事前学習 15分	NPO法人の意味を調べておく。	
	事後学習 30分	NPO法人の活動について関心を持つ。	
7	ボランティア活動について (7)	NPO法人の種類とその具体的な活動	
	事前学習 15分	自分が興味ある分野のNPO法人の活動について情報を得る。	
	事後学習 30分	NPO法人の種類とその具体的な活動について理解を深める。	

8	ボランティア活動について（8）	ボランティアセンターの役割と機能	
	事前学習 15分	居住地のボランティアセンター設置の有無を知る。	
	事後学習 60分	居住地のボランティアセンターの活動内容をまとめる。	
9	ボランティア活動について（9）	自分にあったボランティア活動とは	
	事前学習 30分	自分がどんなボランティア活動ができるか、したいかを考える。	
	事後学習 60分	自分にあったボランティア活動を探す。	
10	ボランティア活動について（10）	ボランティアの心構え	
	事前学習 15分	ボランティア活動に参加するにはどのような心構えで臨めばよいかを考える。	
	事後学習 30分	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考える。	
11	ボランティア活動の実践（1）	国際ボランティア活動とは	
	事前学習 15分	国際ボランティア活動について関心を持つ。	
	事後学習 30分	国際ボランティア活動について情報を収集する。	
12	ボランティア活動の実践（2）	JICA国際協力出前講座	
	事前学習 30分	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	
	事後学習 60分	出前講座内容をまとめる。	
13	ボランティア活動の実践（3）	学外ボランティア活動の実践（環境フェア）	
	事前学習 30分	参加するボランティア活動について内容を把握する。	
	事後学習 60分	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。	
14	まとめ	学外ボランティア活動の報告会	
	事前学習 60分	ボランティア活動内容についてまとめる。前学期全体の学習内容を振り返る。	
	事後学習 60分	報告会の内容を振り返り、自分が関心興味あるボランティア活動について理解を深める。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	さとう 佐藤 きやか 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>キャリアの形成とは、仕事の経歴を積むことだけで実現するものではなく、働くことの意味や人生をどう過ごしたいかという目標を明確にすることが必要であり、実現においては、社会で必要とされるための適応能力を身につけていくことが求められる。本授業では、そのために必要な心構えやマナー、身だしなみ、言葉遣いを学ぶ。また、就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項の習得を行う。</p>							
成績評価方法							
<p>提出物 (60%) 受講態度 (40%) の総合評価</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S～C:以下参照

D(59-0点):単位修得目標を達成できていない

Z:評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

1. 自分のキャリアデザインについて、具体的に示し、十分な説明ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
2. 就職活動を行うための知識と心得を身につけられるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 自分を分析し、適切な自己表現ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
4. 就職活動に必要な企業の情報を目的に応じて得ることができるようになる。【DP1:知識・技術】
5. 就職活動に必要な履歴書を適切かつプレゼン力を備えて作成できるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達(成績評価A)目標

1. 自分のキャリアデザインについて、具体的に示し、説明ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
2. 就職活動を行うための知識と心得を身につけられるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 自分を分析し、自己表現ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
4. 就職活動に必要な企業の情報を正しく得ることができるようになる。【DP1:知識・技術】
5. 就職活動に必要な履歴書を適切に作成できるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達(成績評価B)目標

1. 自分のキャリアデザインについて、示すことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
2. 就職活動を行うにあたり基本的な知識と心得がわかるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 自分を知り、自己表現ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
4. 企業研究の方法を説明することができるようになる。【DP1:知識・技術】
5. 就職活動に必要な履歴書を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

単位取得(成績評価C)目標

1. 自分のキャリアデザインについて、概ね示すことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
2. 就職活動を行うにあたり基本的な知識の概要と心得がわかるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 自分を知り、自己表現ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】
4. 企業研究の方法を概ね説明することができるようになる。【DP1:知識・技術】
5. 就職活動に必要な履歴書を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年前学期	演習	1	佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				15	
教科書							
キャリアタス就活『就職支援ブック 就職活動編』DISCO（最新版）¥1,320							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 2. 体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止（活用する場合は指示する）。 3. 進行の都合により、内容が前後することがある。 4. セミナーは制服着用のこと。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス、就職活動の流れ、自己分析1	授業について、今後の予定、就職活動の流れ、自分史の作成	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。教科書Lesson1, 2を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
2	自己分析2	自分の長所と短所、自分の強み	/
	事前学習 10分	教科書Lesson3を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
3	自己PR	自己PR	/
	事前学習 10分	教科書Lesson14, 15を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
4	キャリアデザイン1	セミナー1（生涯設計について）（公）生命保険文化センター	/
	事前学習 10分	将来の生活設計について考えてくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
5	キャリアデザイン2、就職活動のマナー1	キャリアデザインを考える、敬語と身だしなみ	/
	事前学習 10分	教科書p. 110～112を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
6	就職活動のマナー2	メール分、添え状、封筒の書き方	/
	事前学習 10分	教科書p. 108～109を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
7	就職活動のマナー3、インターンシップ	電話のかけ方、インターンシップについて	/
	事前学習 10分	教科書p. 108～109、Lesson12を読んでくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	

8	業界・企業研究1	セミナー2（企業研究、業界と業種）（株）マイナビ	
	事前学習 10分	教科書Lesson10を読んてくる。	
	事後学習 15分	セミナーの内容を復習する。	
9	業界・企業研究2	企業研究、業界と業種、企業研究	
	事前学習 10分	教科書Lesson6, 7, 8を読んてくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
10	履歴書の作成1/キャリア支援室の使い方	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	
	事前学習 10分	教科書Lwaon20を読んてくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
11	履歴書の作成2/キャリア支援室の使い方	履歴書の書き方の説明、履歴書の作成	
	事前学習 10分	教科書第4章「アプローチを開始しよう！」を読んてくる。	
	事後学習 15分	課題を完成させる。	
12	インターンシップの実際	オンラインインターンシップへの参加	
	事前学習 10分	参加企業について調べてくる。	
	事後学習 10分	希望職種について考える。	
13	卒業生セミナー	卒業生セミナー（体験談の聴講）	
	事前学習 10分	希望職種の卒業生に対する質問事項を考えてくる。教科書Lesson13を読んてくる。	
	事後学習 15分	希望職種について考える。	
14	全体の振り返り	全体の振り返り	
	事前学習 15分	課題に取り組む。	
	事後学習 10分	全てのを完成させ、提出期限まで提出する。就職活動の流れについて復習する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。							
成績評価方法							
受講態度（20%）、模擬面接（50%）、課題提出物(30%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で最大限発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 実際の面接での確な対応が総合的にきるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で十分発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 実際の面接での確な対応が十分できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 就職活動において、適切な時期に適切な行動をほぼ自発的に行えるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で大方発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 相手の求めに応じて実際の面接で大方的確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> 身につけた知識や技能が必要な場面で基本的に発揮できるようになる。【DP1：知識・技能】 相手の求めに応じて実際の面接での確な対応ができるようになる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】 就職活動において、適切な時期に適切な行動を心がけて実行することができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		キャリア形成Ⅰを履修していること				3, 6・7, 17	
教科書							
『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』(株)ディスコ(キャリア形成Ⅰで使用したテキスト) ¥1,263							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。 ・自らの今後の生き方を前向きに捉え、就職活動を主体的に行う心構えを持つこと。 ・やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。 ・授業の進捗やセミナーによっては、スケジュールを変更することがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール	/
	事前学習 15分	シラバスをよく読んでくる	
	事後学習 10分	自分の就職活動のスケジュールを考える	
2	就職活動にむけて(1)	就職セミナー(1) 就活メイク	/
	事前学習 5分	就活メイクについて調べる	
	事後学習 10分	就職セミナー(1)で学んだことをまとめる	
3	就職活動にむけて(2)	就職セミナー(2) 「志望動機」「学生時代力を入れたこと」の書き方	/
	事前学習 10分	履歴書の書き方を復習する	
	事後学習 20分	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる	
4	就職活動にむけて(3)	履歴書裏面の書き方・SPI試験について	/
	事前学習 10分	履歴書裏面の書き方・SPI試験の準備をする	
	事後学習 20分	履歴書裏面を仕上げる・試験の結果から今後の対策を考える	
5	業界・企業研究(1)	企業とは、業界と職種、企業分析ノート作成	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(1)を仕上げる	
6	業界・企業研究(2)	学内企業研究会の事前学習	/
	事前学習 10分	教科書第3章を読んでくる	
	事後学習 10分	企業研究シート(2)(3)を仕上げる	
7	業界・企業研究(3)	就職セミナー(3) 学内企業研究会参加	/
	事前学習 10分	訪問順序について確認する	
	事後学習 20分	就職セミナー(3)で学んだことをまとめる	

8	履歴書の作成	履歴書の作成	
	事前学習 10分 事後学習 30分	教科書第4章を読んでくる 履歴書を清書し提出する	
9	面接試験の研究（1）	面接試験の形式と心得・自己PRの見直し	
	事前学習 10分 事後学習 30分	面接についてP94～97を読んでくる 自己PRシートを完成させ覚えてくる	
10	面接試験の研究（2）	就職セミナー(4) 「面接の基本」	
	事前学習 10分 事後学習 20分	面接についてP98～100を読んでくる 就職セミナー(4)で学んだことをまとめる	
11	模擬面接の実際（1）	模擬面接の準備、模擬面接のロールプレイ	
	事前学習 10分 事後学習 10分	面接のロールプレイについて資料を読む 模擬面接の受け方をまとめる	
12	模擬面接の実際（2）	模擬面接(1)	
	事前学習 10分 事後学習 10分	模擬面接の準備をする 模擬面接の報告書を書く	
13	模擬面接の実際（3）	模擬面接(2)	
	事前学習 10分 事後学習 10分	反省点を生かした模擬面接の準備をする 模擬面接の報告書を書く	
14	模擬面接の実際（4）	模擬面接の反省と対策	
	事前学習 10分 事後学習 20分	模擬面接を振り返る 模擬面接の対策をまとめる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	さとう さやか 佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>社会人となるための必要な知識を備えていることの証明として有効な資格の一つが秘書検定であり、「社会について理解するとともに、社会における行動のための基礎的な知識及び能力を身につける」ことにもつながる。就職活動においても、話し言葉や礼儀作法、話し相手へのマナーなどが評価されるため、ロールプレイングを実施し身につける。秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から成り、出題されるため、章ごとに説明を行い、例題や過去問題に取り組むとともに、振り返りの小テストを行う。また、授業内で模擬試験を実施し、その時点での実力を判定し、今後の各自の検定試験対策を行う。</p>							
成績評価方法							
定期試験(30%) 模擬試験(30%) 小テスト(30%) 受講態度(10%)の総合評価							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
秘書検定2級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇について十分に理解し活用できるようになる。【DP1：知識・技術】 2. 技能の知識について理解し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 3. 一般知識について修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質について理解し、応用力を備えて社会で実践できるようになる。【DP1：知識・技術】 5. 職務知識について十分に理解できるようになる。【DP1：知識・技術】 6. 社会人としてのマナーを自らすすんで実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】							
到達（成績評価A）目標							
秘書検定2級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇について理解できるようになる。【DP1：知識・技術】 2. 技能の知識について理解できるようになる。【DP1：知識・技術】 3. 一般知識について修得し、説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質について理解できるようになる。【DP1：知識・技術】 5. 職務知識について理解できるようになる。【DP1：知識・技術】 6. 社会人としてのマナーを自らすすんで実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】							
到達（成績評価B）目標							
秘書検定3級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇についてわかるようになる。【DP1：知識・技術】 2. 技能の知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技術】 3. 一般知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質についてわかるようになる。【DP1：知識・技術】 5. 職務知識についてわかるようになる。【DP1：知識・技術】 6. 社会人としてのマナーを実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】							
単位取得（成績評価C）目標							
秘書検定3級に合格することを目標とする。 1. マナー・接遇について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】 2. 技能の知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】 3. 一般知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】 4. 必要とされる資質について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】 5. 職務知識について概ねわかるようになる。【DP1：知識・技術】 6. 社会人としてのマナーを実践できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ビジネスマナー	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 14, 16	
教科書							
西村この美:『現役審査委員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集』 成美堂出版 (最新版) ¥1,210							
参考書・資料							
授業内に適宜指示、プリントで配布 実務技能検定協会編:『秘書検定 実問題集2級 2022年度版』 早稲田教育出版 ¥1,540 実務技能検定協会編:『秘書検定 実問題集3級 2022年度版』 早稲田教育出版 ¥1,320							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。 小テストは、実施後解説を行い、学習の定着を図る。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、スマートフォン使用禁止。 2. 進行の都合により、内容が前後することがある。 3. 秘書検定を受験予定者は、さらに参考書資料欄の過去問題集を揃え、取り組むとよい。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス マナー・接遇1	秘書技能検定について 敬語 接遇用語	
	事前学習 10分	シラバスを読んでくる。「マナー・接遇」の章を読んでくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
2	マナー・接遇2	電話応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
3	マナー・接遇3	来客応対	
	事前学習 20分	「マナー・接遇」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
4	技能1	会議の知識 社内文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
5	技能2	社外文書 社交文書	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
6	技能3	受信文書の取り扱い 「秘」扱い文書の取り扱い 郵便の知識	
	事前学習 20分	「技能」の該当ページを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	
7	一般知識	企業の基礎知識 ～ 企業会計・債務・税務の知識	
	事前学習 20分	「一般知識」の章をを読んでくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をする。	

8	必要とされる資質	秘書としての心構え ～ 求められる能力	
	事前学習 20分	「必要とされる資質」の章を読む。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をし、次週実施される小テスト対策を行う。	
9	職務知識	秘書の役割と機能 秘書の業務	
	事前学習 20分	「職務知識」の章を読む。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 20分	授業内容と例題の復習をし、次週実施される小テスト対策を行う。	
10	3級模擬試験演習 解答および解説	3級模擬試験演習	
	事前学習 60分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 60分	間違えた問題の解き直しを行う。模擬試験に向けての試験対策を行う。	
11	3級模擬試験演習 解答および解説	3級模擬試験演習	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。 「カタカナ用語・略語」の指定語句を覚えてくる。	
	事後学習 30分	間違えた問題の解き直しを行う。	
12	2級模擬試験演習 解答および解説	2級模擬試験演習	
	事前学習 60分	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。	
	事後学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。	
13	2級模擬試験演習 解答および解説	2級模擬試験演習	
	事前学習 60分	模擬試験に向けての試験対策を行う。	
	事後学習 30分	間違えた問題の解き直しを行う。	
14	まとめ	全体の振り返り、定期試験対策	
	事前学習 30分	苦手分野の復習をする。	
	事後学習 240分	定期試験および秘書検定に向けての試験対策に取り組む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	さとう ひさの 佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 9, 11, 12, 16	
実務経験のある教員による科目							
長年にわたって高校での体育教師をしていることからその経験を活かして、運動が人々の健康、維持増進に欠かせない役割を果たしていることから運動の大切さ、楽しさを伝えます。							
授業の概要							
様々な運動を通じてその大切さ、楽しさを知る。また、自分の体について知り、どのようにしたら健康を保持増進できるかを考える。そして、どのような運動をしたらより効果的かを考え、実践できるようにする。また、人生100年時代における健康寿命を延ばすために必要となる運動について知識、技術を身につける。							
成績評価方法							
プレゼンテーション試験(70%) 取り組み姿勢(30%) の総合評価							

成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、生涯体育を意識し日常生活で実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】 エアロビクスの技能を学び、グループの皆と協働して豊かな表現力をもって独創性のあるダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】 エアロビクスの技能を学び、グループで創作したダンスを表現する。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
運動と健康	卒業必修	共通	1年 後学期	実技 講義	1	佐藤 久乃	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 9, 11, 12, 16	
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 ・髪は邪魔にならないようにまとめる。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、ストレッチ	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
2	体づくり運動、エアロビクス(1)	ストレッチ、グループゲーム、基本ステップ	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
3	体づくり運動、エアロビクス(2)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
4	体づくり運動、エアロビクス(3)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
5	体づくり運動、エアロビクス(4)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
6	体づくり運動、エアロビクス(5)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
7	体づくり運動、エアロビクス(6)	ストレッチ、グループゲーム、ルーティーンの練習	/
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	

8	体づくり運動、エアロビクス(7)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
9	体づくり運動、エアロビクス(8)	ストレッチ、筋力トレーニング、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
10	体づくり運動、エアロビクス(9)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
11	体づくり運動、エアロビクス(10)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 10分	ストレッチを日常生活の中に取り入れる。	
12	体づくり運動、エアロビクス(11)	ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
13	体づくり運動、エアロビクス(12)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 10分	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	
	事後学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
14	体づくり運動、エアロビクス(13)、まとめ	プレゼンテーション試験	
	事前学習 20分	プレゼンテーション試験に向けて練習をしておく。	
	事後学習 10分	試験の反省とストレッチ	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳 りちやーど S おすてん Richard S Austen	オムニバス クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
習熟度別の2クラス編成とし、リスニング・スピーキングと文法・リーディングの授業を交互に行う。リスニング・スピーキングの授業では、ネイティブスピーカーと話すことにより英語を楽しみ、異文化を知りつつ、「使える英語」を学ぶ。履修者の状況に対応した課題を設定する。							
成績評価方法							
取組姿勢(20%)4回の小テスト(80%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

- ・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】
- ・世界の国々における生活や社会のさまざまな話題となることについて、英語で読解するのに必要な総合的な能力を修得する。【DP1:知識・技術】
- ・日常的な場面において必要となるリスニング・スピーキング力を修得し、実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

- ・英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。【DP1:知識・技術】
- ・世界の国々における生活のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な基礎的な能力を身につけることができる。【DP1:知識・技術】
- ・日常的な場面において必要となる基礎的なリスニング・スピーキング力を修得し、一定程度は実際に使うことができるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
標準英語スキルズ	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳 りちやーど S おすてん Richard S Austen	オムニバス クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7, 16	
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）¥2,090 英語基礎演習と同じ必要に応じてプリントを配付する							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。 ・読解課題は添削ののち、各自に返却する。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ①毎回課題を出すので、真剣に取り組むこと。 ②積極的な授業参加を特に求める。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業についての説明	渡辺 リチャード
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
2	食べ物・飲み物	リスニング・スピーキング(1)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
3	天候	文法・リーディング・ライティング(1)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	趣味	リスニング・スピーキング(2)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	健康・病気	文法・リーディング・ライティング(2)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	音楽	リスニング・スピーキング(3)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	職業	文法・リーディング・ライティング(3)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	

8	家族	リスニング・スピーキング(4)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
9	オリンピック	文法・リーディング・ライティング(4)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
10	動物とペット	リスニング・スピーキング(5)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
11	犯罪	文法・リーディング・ライティング(5)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
12	気持ち	リスニング・スピーキング(6)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
13	マス・メディア、天災・人災	文法・リーディング・ライティング(6)	渡辺 リチャード
	事前学習 60分	指定されたプリントの予習	
	事後学習 60分	課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと2年次科目「応用英語スキルズ」の紹介及び例題演習	渡辺 リチャード
	事前学習 120分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 30分	今後の自らの英語学習について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
応用英語スキルズ	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
eラーニング利用により受講者各々のレベルによって、A1、A2、B1の3つのコースに分割し、個人の意志と努力により、最高でTOEICの740点まで目指すことができる。課題は、写真描写問題・応答問題・会話問題・文法語彙問題・読解問題からなり、仕事・生活における表現の学習を深めていく。eラーニングという学習方法に慣れ親しむ。							
成績評価方法							
課題web提出(30%)小テスト(30%)定期試験(40%)の総合評価。取組姿勢によっては5%の範囲で減点あり。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

- ・ TOEIC の比較的平易な問題を十分に解けることができるようになる。【DP1:知識・技能】
- ・ 一つのレベルの全てのweb 課題に合格し、内容を修得できるようになる。【DP1:知識・技能】
- ・ eラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

- ・ TOEIC Bridge のレベルを修得する。【DP1:知識・技能】
- ・ TOEIC の比較的平易な問題を解くことができるようになる。【DP1:知識・技能】
- ・ eラーニングという学習方法を十分に修得する。【DP1:知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
応用英語スキルズ	選択	共通	2年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				6・7,16	
教科書							
eラーニングで使用するWEB教材が事実上の教科書となる。eラーニングのためにニュートン社に対するソフトウェア使用料が必要となる（下記参照）。通常は一定期間内に履修者がコンビニより送金する形で支払う。							
参考書・資料							
プリントを必要に応じて配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
3,168円(eラーニング利用料)+300円(決済手数料)							
課題に対するフィードバック							
Web課題の達成状況についてweb上でコメントを返す。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・辞典の持参が必要。 ・eラーニングによる積極的な予習復習(毎日約10分)が必要となる。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	イントロダクション	eラーニング及び機器使用の仕方等についての説明	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	プリントの指定されたページを読む	
2	レベル決定	レベルチェックテスト	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	プリントの指定されたページを読む	
3	写真描写描写問題(1)	Step 1-5	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	写真描写描写問題(2)	Step 6-10	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	応答問題(1)	Step 1-5	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	応答問題(2)	Step 6-10	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	文法・語彙問題(1)	Step 1-4	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	

8	文法・語彙問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
9	文法・語彙問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
10	会話問題(1)	Step 1-4	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
11	会話問題(2)	Step 5-7	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
12	会話問題(3)	Step 8-10	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
13	読解問題	Step 1-4	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントを読む 課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと次のレベルの例題演習	
	事前学習 120分	全体の学習内容を振り返り、足りなかったことを確認する。	
	事後学習 30分	今後の英語学習について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	リチャード S おすてん Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
なし							
授業の概要							
現在の日本社会で、英語のニーズが増えつつある。この授業の目標は、様々な場面において、履修者が自信をもって、怖がらずに、英語でコミュニケーションを取れるようになることである。授業ごとに英語を実際に話せるための、役に立つテーマについて学ぶ。授業内容は、スピーキングとコミュニケーション(40%)、リスニング(20%)とリーディング(20%)で身につける。							
成績評価方法							
スピーキングテスト(30%)、定期試験(50%)、授業態度(20%)の総合評価。							

成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達(成績評価S)目標
到達(成績評価A)目標
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より会話で実際に使える語彙とフレーズを増やす(口頭テスト)。【DP1:知識・技能】 授業のテーマごとに、ある程度自信をもって、コミュニケーションを取れるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 いろいろなトピックにおいて自分の好みと意見を述べるができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達(成績評価B)目標
到達(成績評価C)目標
<ul style="list-style-type: none"> 最初の授業より理解できる語彙とフレーズを増やすことができる(筆記テスト)。【DP1:知識・技能】 毎回の宿題に積極的に取り組み授業では会話を楽しむことができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 自己紹介ができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英会話	選択	共通	1,2年前学期	演習	1	Richard S Austen	単独
科目区分		履修条件				AL	
共通科目		特になし				8, 9, 16	
教科書							
なし							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
なし							
課題に対するフィードバック							
課題をチェックし、コメントや修正を付け、返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。 ・欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること。 ・意欲的に授業に取り組むことー 英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	Introduction Class	自己紹介を行う ・ 授業の流れに慣れる	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
2	Food and Drink	飲食についての話し方を学ぶ (好みや味など)	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
3	Hobbies and Interests	趣味について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
4	Countries and Culture	行きたい国や旅行先でしたいことについて話す・異文化について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
5	Family and Friends	自分の家族や友達について詳しく話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
6	Appearance and Clothing	ファッション・服・外見・芸能人について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
7	Japanese Food and Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	

8	Travel	旅行先での役に立つフレーズや質問を学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
9	Weather	天気や日本の四季について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
10	Jobs	職場で使える英語の単語やフレーズを学び・様々な仕事について話す	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
11	Making Foreign Friends	外国人とコミュニケーションを取ることについて学ぶ	
	事前学習 10分	前回のワークシートの確認および口頭練習	
	事後学習 15分	ワークシートの復習と宿題	
12	Review and Practice(1)	総合問題(1)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(1)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること	
13	Review and Practice(2)	総合問題(2)以前の授業で学んだことを復習し練習する。 ロールプレーなどを通して、スピーキングに集中(2)	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：スピーキングテストに向けて授業で学んだフレーズや語彙などを覚えること 定期試験のための復讐をしておく	
14	まとめとスピーキングテスト	スピーキングテストを行う。	
	事前学習 10分	前回のワークシートを復習する	
	事後学習 20分	復習：この授業で学んだフレーズや語彙を生活の中で使ってみる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年 前学期	講義	2	きはやし しょうこ 木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
持続可能な社会における、質の高い生活および生活環境のありようを提案できるようになるため、生活に関する知識を、地球環境を視野に入れながら学ぶ。家族生活問題が多発している現在、家政学は対人サービス専門としての役割を持っている。家政学の全体像を把握して、現代社会における家政学の役割と可能性について考察し、社会に貢献する力を身に付ける。							
成績評価方法							
小レポート2回(20%+20%)、授業時の課題(45%)、小テスト(10%)、授業態度(5%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

--

到達(成績評価A)目標

・持続可能な社会における質の高い生活および生活環境のありようを地球環境との関わりから具体的に提案することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・現代社会における家政学の役割と可能性について理解した上で、自分にできる具体的な社会貢献について述べるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

--

単位取得(成績評価C)目標

・質の高い生活および生活環境のありようを調べることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
・家政学の役割と可能性について理解した上で、具体的な社会貢献について調べることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (社主事)		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
教科書							
(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社 (2014) ¥2,420							
参考書・資料							
(一社)日本家政学会家政学原論部会編：『やさしい家政学原論』 建帛社 (2018) ¥2,750							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	
1	家政学とは	家政学を学ぶ意義	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	家政学と家庭科教育	家庭科教育の変遷と昨今の家庭科教育を知る	
	事前学習 20分	これまで受けた家庭科教育について振り返る	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	家族生活の変化	家族生活問題の発生	
	事前学習 20分	教科書P1～P4を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	人間関係とコミュニケーション	アサーショントレーニング	
	事前学習 20分	教科書P5～P12を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	ライフサイクルと家族生活の課題	自分年表	
	事前学習 20分	教科書P31～P37を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	食生活のベーシックスキル	食生活の現状と課題	
	事前学習 20分	教科書P124～P128を読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	日本の食文化	地球の食卓・フォトランゲージ	
	事前学習 20分	教科書129～P130を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	

8	衣生活のベーシックスキル	ファッションの裏側	
	事前学習 20分	教科書P130～P135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	住生活のベーシックスキル	世界と日本の住まい	
	事前学習 20分	教科書P130～P135を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	家庭経済と消費生活	貿易ゲーム	
	事前学習 20分	教科書P143～P153を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
11	気候変動	大量廃棄社会	
	事前学習 20分	気候変動に関する新聞記事やニュースを調べておく	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
12	持続可能な社会に向けて	小テスト・ソーシャルアクション	
	事前学習 20分	持続可能な開発目標SDGs17の目標を調べておく	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
13	生活文化について	生活文化の伝承と創造	
	事前学習 20分	生活文化から想像することがらやイメージを挙げておく	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	家政学の社会的役割と可能性	家政学の社会貢献	
	事前学習 20分	前学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	さとう 佐藤 きやか 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
食生活とは食に関わる生活全般を指し、心身の健康を培うために、望ましい食生活の在り方を正しい知識・認識のもと考える事が重要である。本授業では、豊かな食生活を送るための知識や考え方を、食文化や栄養面の知識を身につけることにより構築する。また、授業内容の一部は、家庭料理技能検定3級のI次試験（筆記）にも対応している。							
成績評価方法							
定期試験(40%) 課題・小テスト(40%) 受講態度(20%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S～C:以下参照

D(59-0点):単位修得目標を達成できていない

Z:評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について論理的に説明できるようになる。【DP1:知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせについて十分に理解し、バランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1:知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性を理解することから自身の食習慣を見直し、健康的な食生活を営む知識と能力を実生活で活用できるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価A）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について説明できるようになる。【DP1:知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせについて理解し、バランスのよい献立を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1:知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性を理解することから自身の食習慣を見直し、健康的な食生活を営む知識と能力を身につけ、説明できるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について理解できるようになる。【DP1:知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせがわかり、適切な献立を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴を説明できるようになる。【DP1:知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性の基本的事項について理解し、健康的な食生活について自分の考えを説明できるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

単位取得（成績評価C）目標

1. 食生活の意義について理解し、現代の食の問題点について概ねわかるようになる。【DP1:知識・技術】
2. 栄養素の種類とその働き、食品群、料理の組み合わせがわかり、献立を作成できるようになる。【DP1:知識・技術】
3. 食生活の歴史や文化について理解し、和食の特徴がわかるようになる。【DP1:知識・技術】
4. ライフステージごとの栄養特性の基本的事項について理解し、健康的な食生活について自分の考えを説明できるようになる。【DP1:知識・技術】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食生活論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	佐藤 清香	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目 (FC)		特になし				16	
教科書							
家庭料理技能検定専門委員会編：『家庭料理技能検定公式ガイド3級 改訂版』女子栄養大学出版部（最新版）¥2,860 日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2023 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店（2023）¥3,300							
参考書・資料							
家庭料理技能検定専門委員会編：『家庭料理技能検定 過去問題集』女子栄養大学出版部（最新版）							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。 小テストは、実施後解説を行い、学習の定着を図る。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 3. 進行の都合により、内容が前後することがある。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション 食生活と社会の関わり1	授業概要の説明、食べることの意味	/
	事前学習 15分	シラバスを読む、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
2	食生活と社会の関わり2	健康によい食習慣、朝食摂取の重要性	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
3	栄養素の種類とその働き1	たんぱく質、脂質、炭水化物	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習と小テストに向けて対策を行う。	
4	栄養素の種類とその働き2	小テスト1、ビタミン、ミネラル、水	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
5	日本人の食事摂取基準	小テスト2、BMI算出、栄養素の指標、エネルギー産生栄養素バランス	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
6	食品群と食品構成	小テスト3、三色食品群、6つの基礎食品群、4つの食品群	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	
7	食事の構成	小テスト4、料理区分、食事バランスガイド1	/
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習および小テストで間違えた箇所の復習を行う。	

8	季節の料理	食事バランスガイド2、旬の食材、盛り付けの基本	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 50分	課題を完成させる。	
9	献立作成	1日分の献立作成	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	課題を完成させる。	
10	日本の食文化	和食とその特徴、食事の歴史と献立形式、日本食のマナー	
	事前学習 15分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	授業の復習を行う。	
11	ライフステージ別の食生活1	妊娠・授乳期、新生児、乳児期	
	事前学習 15分	妊娠期の食事、離乳食について調べる。	
	事後学習 30分	授業で学んだ事柄について、図書館や書店の本を読んでみる。	
12	ライフステージ別の食生活2	幼児期、学童期、思春期	
	事前学習 15分	高校生の頃の食事を振り返る。	
	事後学習 30分	ダイエットについてインターネット上での情報の偏りを含め調べてみる。	
13	ライフステージ別の食生活3	成人期、高齢期	
	事前学習 15分	現在の自分の食生活についてまとめる。	
	事後学習 30分	自分に適した具体的な食事の摂り方を復習する。	
14	生活習慣病と食生活	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防	
	事前学習 15分	生活習慣病について調べる。	
	事後学習 240分	これまでの学習を振り返り、定期試験に向けた対策を行う。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	はた くみこ やまむら みほり 畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>自らの人生を作り出し、社会に貢献する力を身につけるために、家庭を中心とした衣生活・住生活を総合的、科学的に認識し、衣生活・住生活の質の向上を目指す。住生活分野では、世界の伝統的住居にみられる風土に適した住まい及び我が国の住まいの変遷を通して住宅の役割を学ぶ。更に、安全と防災、環境、ライフスタイル等の住まいの計画に必要な要素を学ぶ。衣生活分野では、人間にとって衣はどのような存在かを考え、人と社会と衣の関係について学ぶ。人間が被服を身につけるようになってから現代までの服装の変遷をはじめ、健康や環境とのかかわり等について学ぶ。</p>							
成績評価方法							
<p>以下の項目の総合評価とする。 分野ごとの学修成果確認のための筆記試験(住分野30%+衣分野30%=両分野で60%) 授業内課題(20%) 受講態度(20%)</p>							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、自分の言葉で住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康な住まいを営むための提案ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、自分の言葉で衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための提案ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・風土と住まい、住まいの機能と役割を学び、住まいの意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・学んだ知識を活かし、安全で健康的な住まいを営むための情報収集ができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・人間が衣服を着用する意味を知り、衣服の意義を説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 ・衣服や衣生活、アパレル産業に関する知識を活かし、主体的で快適な衣生活を営むための情報収集ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
衣・住生活論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	畑 久美子・山村 美保里	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				15, 16	
教科書							
必要な資料は適宜配布							
参考書・資料							
岡田宣子他：『ビジュアル衣生活論』 建帛社（2010）¥2,484 間瀬清美 他：『新版 衣生活の科学 テキスタイルから流通マーケットへ』 アイ・ケイコーポレーション（2015）¥2,808							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
レポートを提出した後、評価して返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォンの操作禁止 ・私語厳禁 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス 風土と住まい	講義の目的及び方針、基礎事項の解説等 世界の伝統的住居	山村
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	プリントを復習する	
2	日本の住まいの変遷Ⅰ	日本の気候風土と住まいの関係 前近代までの住まいの変遷	山村
	事前学習 30分	伝統的住居について参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
3	日本の住まいの変遷Ⅱ	住まいの近代化	山村
	事前学習 30分	日本の気候風土と伝統的住居の資料を参照しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
4	現代の住宅	住宅政策と課題	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
5	住環境Ⅰ	住まいの危険と防災	山村
	事前学習 30分	自宅及び町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
6	住環境Ⅱ	まちづくりと関連法規	山村
	事前学習 30分	町を観察しておく	
	事後学習 30分	プリントを復習する	
7	住生活分野の復習	1～6回までの学修成果確認のための試験と総括	山村
	事前学習 30分	これまでのプリントを復習する	
	事後学習 30分	プリントを復習する	

8	衣生活とは、気候風土と装い	衣とは何か、装いの起源、衣の基本型、衣の民族性・地域性	畑
	事前学習 10分 事後学習 30分	シラバスを読む。 学習した内容を復習し自分の考えをまとめる。	
9	被服の変遷	西洋服装史、日本服飾史	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	プリントを読んでおく。 衣服の変遷について振り返り、現代の衣服との違いを考える。	
10	和服と日本の生活文化	和服の種類と着装形態、和服の構成、ライフステージと和服	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	プリントを読んでおく。和服について関心を持つ。 学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
11	アパレル産業と既製服	アパレル産業と既製服生産システム、環境保全活動、衣服の選択、サイズ表示、素材と管理	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	プリントを読んでおく。所持する衣服のサイズ表示を見ておく。 学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
12	衣服の快適性と健康	被服衛生と健康、衣と福祉、衣服内気候、衣服圧と着心地、体型と衣服	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	プリントを読んでおく。着心地の良い衣服とは何か考えておく。 学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
13	服飾文化と流行	色彩文化、ファッション、心理と流行、衣服と個性・社会性	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	プリントを読んでおく。現代の流行を調べておく。 学習した内容を実際の衣生活へ活かすために自分にできることを考える。	
14	衣生活分野の復習	8～13回までの学修成果確認のための筆記試験と総括	畑
	事前学習 30分 事後学習 30分	これまでのプリントを復習する プリントを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠・出産・保育の科学	生デ：卒必 食栄：選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき・かわかみ よしこ 岩倉 弘毅・川上 美子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
【岩倉】60年近く産婦人科医として診療に携わった経験を活かし、妊娠から出産に至る迄を講義します。 【川上】長年保育者養成の大学で保育士資格、幼稚園免許取得の授業を担当した。自身の保育現場の経験も活かし講義します。							
授業の概要							
【妊娠・出産】女性のライフサイクルにおける思春期から妊娠・出産・産褥までの知識を理解する。①主として口頭による講義、筆記による説明を行う。②ビデオを用い妊娠中のケアについて説明する。③ビデオを用い出産の様子を供覧する。④各種プリントを用いる。 【保育】乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期である。青年期の今、子どもとは、保育とは、育ちを支える環境、遊びの意義、学生自身の体験も振り返りつつ学習する。幼稚園見学を行い、保育の実際から子どもの生活と遊びについて考える。子どもが人として育つうえで大切なこと、少子化問題、子育て支援など社会的な課題も取り上げる。							
成績評価方法							
【妊娠・出産】 受講態度（15%）・定期試験（35%）の総合評価。 【保育】 受講態度（10%）・授業内・宿題レポート（20%）・成果物（20%）の総合評価。							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育、子ども理解、家庭のあり方、保育環境、保育施設について重要な事柄を理解し、問題意識を持ってさらに学ぼうとする。他者との話し合いにおいて、互いに理解が深まるように配慮し、広い視野に立って自分の考えを述べることができる。							
到達（成績評価A）目標							
【妊娠・出産】女性のライフサイクルを理解し、その中で妊娠出産に関する生理、および病理の知識を習得する。そして、将来の自分自身にあてはめて考えられるようになる。【DP1：知識・技能】 【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育、子ども理解、家庭のあり方、保育環境、保育施設について基本的に重要な事柄を理解し、自分の考えを他者との話し合いにより多様な考えも取り入れて深め、他者に自分の考えを説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】							
到達（成績評価B）目標							
【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育、子ども理解、家庭のあり方、保育環境、保育施設について、重要な点を理解し説明をすることができる。							
単位取得（成績評価C）目標							
【妊娠・出産】生理的な正常妊娠と異常妊娠、正常出産と異常出産、新生児の生理を学び、将来、自分自身の結婚、妊娠、出産に対する心構えを構築する。【DP1：知識・技能】 【保育】出生から乳幼児の発達の過程とその育ちを支える保育、子ども理解、家庭のあり方、保育環境、保育施設について基本的に重要なことを習得する。【DP1：知識・技能】							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
妊娠・出産・保育の科学	生デ：卒必 食栄：選択	共通	2年前学期	講義	2	岩倉 弘毅・川上 美子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
教科書							
【妊娠・出産】特になし 【保育】岡野雅子他著：『新保育学（改訂5版）』 南山堂（最新版） ¥2,090							
参考書・資料							
【妊娠・出産】特になし 【保育】特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
【妊娠・出産】特になし 【保育】特になし							
課題に対するフィードバック							
【妊娠・出産】特になし 【保育】授業で学んだことや課題について毎回レポートを作成し、教員は添削指導する。その後の授業で重要な事柄を確認し、理解を深める。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
【妊娠・出産】・授業の前後で質問を受け付ける・私語厳禁・携帯電話、スマートフォン操作厳禁・遅刻厳禁 【保育】・意欲的に授業に取り組んでほしい。・携帯電話の操作を禁じる。・遅刻をしない。 ・子どもに関心を持ち、子どもと接する機会を持つよう努力してほしい。 ・新聞、テレビなど保育に関わる記事やニュースに関心をもってほしい。 ・自分でよく考え、グループで話し合い視野を広げてほしい。 ・幼稚園見学やDVDや絵本などから、子どもの姿や心に触れて、感じる心を培ってほしい。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	妊娠の徴候と診断	ヒトのライフサイクル、妊娠の徴候	岩倉
	事前学習 15分	思春期の変化と更年期の変化について調べる	
	事後学習 20分	妊娠の症状、確実な徴候について復習する	
2	妊娠の経過と妊婦健診の流れ	胎児の発育、妊娠時の諸検査	岩倉
	事前学習 15分	妊娠した時の対処法について調べる	
	事後学習 20分	妊娠時諸検査と妊婦健診の流れを復習	
3	妊娠初期と中期後期の異常		岩倉
	事前学習 20分	妊娠中の生活について注意すべき事を考える	
	事後学習 20分	異常妊娠について復習する	
4	出産の経過とその対応	経膈出産と帝王切開出産	岩倉
	事前学習 20分	流産、早産、正期産、過期産について調べる	
	事後学習 20分	帝王切開による出産について復習する	
5	異常出産とハイリスク妊娠	分娩三要素の異常と母体合併症	岩倉
	事前学習 20分	ハイリスク妊娠について考えてみる	
	事後学習 20分	分娩の三要素の異常について復習する	
6	産褥期の経過と新生児	出産後の変化と新生児の生理	岩倉
	事前学習 20分	乳房の管理について調べる	
	事後学習 20分	産褥異常と新生児の異常について復習する	
7	不妊症と出生前診断・法規	不妊症の検査、避妊法、出生前診断 関係法規	岩倉
	事前学習 15分	家族計画とは？について調べる	
	事後学習 20分	避妊法と関係法規について復習する	

8	保育とは、保育を学び意義	命の大切さ、子どもという存在、育つこと、育てること	川上
	事前学習 20分	シラバスを読む。自分にとって子どもとは。子どもの時楽しかったこと・厭だったこと	
	事後学習 20分	自分の誕生の話を聞く。保育を学ぶ意義を確認する。	
9	子どもの心身の発達	子どもの発達の特性と発達過程	川上
	事前学習 20分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習 20分	生理的早産と養育について、子どもの精神発達について復習する	
10	子どもを育てる	愛着と信頼感の形成、養育態度の重要性	川上
	事前学習 20分	教科書の該当するところを読んでおく。	
	事後学習 15分	授業内容を復習し、理解を深める。	
11	子どもの生活と遊び	子どもの生活習慣の形成	川上
	事前学習 15分	自分の家庭の教育で大切にされていたことを思い出す。	
	事後学習 20分	教科書を読んで復習する。	
12	保育の実際 幼稚園見学	幼稚園での子どもの生活・遊びの姿を観察し、保育の実際を知る	川上
	事前学習 15分	子どもの時の遊びについて考えておく。	
	事後学習 30分	観察記録を作成し、体験を深める。	
13	保育の実際から学ぶ	家庭保育と集団保育、保育の実態から学ぶ。	川上
	事前学習 20分	幼稚園、保育園の役割について調べる。	
	事後学習 20分	保育の基本を確認し習得する。	
14	これからの社会と保育の課題	児童福祉、子育て支援、子どもが健やかに育つ環境の整備、保育の心	川上
	事前学習 20分	子どもや保育に関する記事を持参する	
	事後学習 30分	保育に関し、広い視野で自分の考えを深める。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	きはやし 木林 しょうこ 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
自分らしい人生を作り出すため、家庭を中心とした生活を総合的、科学的に認識し、各ライフステージにおける様々な課題を把握してライフプランを作成する。生活にかかわる諸問題は、個人・家族の努力や工夫の範囲を超えて、地域や国の政策、さらには地球規模の連携まで視野に入れないと解決できない。社会的な課題も視野に入れて、その改善や解決のために、自分は何ができるかを考え社会に貢献する力を身に付ける。							
成績評価方法							
小レポート2回(20%+20%)、授業時の課題(45%)、小テスト(10%)、授業態度(5%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

・自分らしく生きることの大切さを認識し、社会的な課題も視野に入れてライフプランを作成できるようになる。
【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】
・ライフステージごとの具体的な課題について理解した上で、自分なりの解決策を考え提案できるようになる。
【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

・自分らしく生きることの大切さを認識し、ライフプランを作成できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】
・ライフステージごとの具体的な課題について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家庭経営学	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	木林 祥子	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				1, 8, 10, 11, 16	
教科書							
1年前学期「家政学概論」で使用した教科書を使用する。 ※(一社)日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援—理論と実践—』 建帛社 (2014) ¥2,420							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	家庭経営の考え方	家庭経営学の内容	
	事前学習 5分	シラバスをよく読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
2	価値判断と意思決定	価値観オークション	
	事前学習 20分	教科書P13～P22を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
3	家庭生活とジェンダー	日本におけるジェンダー平等をめぐる状況	
	事前学習 20分	教科書P46～P49を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
4	セクシュアリティ	さまざまなセクシュアルマイノリティ	
	事前学習 20分	教科書P54～P59を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
5	恋愛とパートナー関係	デートDV	
	事前学習 20分	教科書P61～P63を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
6	パートナーの選択	結婚オークション・紙上ディベート	
	事前学習 20分	教科書P64～P67を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
7	結婚とパートナー関係	結婚の歴史	
	事前学習 20分	教科書P64～P67を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	

8	生活時間のマネジメント	生活時間にみる家庭生活の課題	
	事前学習 20分	教科書P136～P142を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
9	親になる準備	子どもを生む・生まない・生めない	
	事前学習 20分	教科書P143～P149を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
10	子育て・子育ち	乳幼児期の子どもと家族	
	事前学習 20分	教科書P77～P96を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
11	高齢者と家族生活	高齢期をどう生きるか	
	事前学習 20分	教科書P108～P122を読む	
	事後学習 40分	課題プリントの演習	
12	ライフキャリアレインボー	小テスト・ライフプランの作成	
	事前学習 20分	これまでの学習を振り返り自分らしい生き方について考えておく	
	事後学習 60分	ライフプランを完成させる	
13	人生の終わり方	死ぬ前までになすべきこと	
	事前学習 20分	教科書P116～121を読む	
	事後学習 20分	課題プリントの演習	
14	世界の人々とかかわって生きる	エコ・ロールプレイ、持続可能な社会の構築	
	事前学習 20分	後学期の学習内容を振り返る	
	事後学習 20分	自分にできる具体的な社会貢献について考える	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
現代日本の家族は、現代社会の変化に応じて大きく変化している。家族の機能や役割も変化し、そうした中で家族が抱える問題も社会問題として注目を集めている。こうした家族の問題を捉えるために、家族についての基本的な概念や家族の普遍性と多様性を学び、現代人が持っている「家族」概念の再検討を行う。現代家族をめぐるさまざまな側面を理解するために、社会・心理的な側面から家族の傾向性を学ぶとともに、問題解決のために必要なコミュニケーションについて考える。学んだことを踏まえて、家族の現代的な問題について学生が自ら発言することで理解を深めていく。							
成績評価方法							
取組み姿勢(15%) 提出物(50%) 小テスト(35%) の総合評価							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を理解し、これを論理的に説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について明確な関心を持ち、論理的に自分なりの考えを述べられるようになり、他者との意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を理解し、これを説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、自分なりの考えを述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を理解し、これについて述べるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・家族についての基本的な概念を概ね理解し、これについて述べるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代家族が抱える諸問題についてある程度の関心を持ち、概ね説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
家族関係学	卒業必修	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				16	
教科書							
長津美代子・小澤千穂子編著：『三訂 新しい家族関係学』 建帛社（2023） ¥2,640							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー（質問、感想等）については授業においてコメントする							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁 ・授業の中での積極的な発言が求められる 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	はじめに	自分の家族を振り返る	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
2	家族の起源、家族の文化	家族の起源・文化による家族の意味の相違を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
3	家族の歴史	日本における家族の歴史をたどる	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
4	「近代家族」の歴史	現代人の持つ家族イメージが歴史的に作られたものであることを知る	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
5	「近代家族」の終焉	「近代家族」の理想が崩壊した社会的背景を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
6	現代家族の多様化	現代において家族が多様化している実態を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
7	結婚と家族	結婚の意味の変化から家族を考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んでくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	

8	夫婦間のコミュニケーション	夫婦間のコミュニケーションを考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
9	離婚と再婚	離婚・再婚と家族について学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
10	家計と夫婦	家計と夫婦の関係を考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
11	育児期の家族	育児期の家族の実態を学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
12	父親の役割	家族における父親・父親の育児参加について考える	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
13	親子の関係	成長後の子どもと親との関係について学ぶ	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	
14	まとめ（家族の問題を越えて）	全体の振り返り（DV・児童虐待・機能不全家族等、現代家族の問題を 考えることを含む）	
	事前学習 60分	テキストの指定箇所、配布プリントを読んてくる	
	事後学習 60分	授業で学んだことを復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生デ：卒必 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目（社主事）		教科書購入者				15, 17	
実務経験のある教員による科目							
居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、介護に対する基本的な知識及び介護支援全般について学ぶ。							
授業の概要							
高齢化の急速な伸びと同時に、寝たきりや認知症といった要介護者の増加が顕著となっている現代社会においては、介護を社会的に支援する必要がある。高齢者の身体的特性及び心理を学び、介護の役割と範囲を理解し、看護・医療及び家政との関係を具体的な展開過程を活用して考える。							
成績評価方法							
定期試験(50%) 受講態度(30%) 授業内レポート(20%) の総合評価							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
介護に対する十分な知識を得た上で、介護と自分を関係づけ、積極的に行動することができるようになる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的に理解しており、自身の表現で説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 介護の理念について十分に理解を深め、日常生活において支援が必要な高齢者に対して自ら積極的な援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】							
到達（成績評価A）目標							
介護に対する知識を得た上で、介護と自分を関係づけ、積極的に行動することができるようになる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的に理解して説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 介護の理念について理解を深め、日常生活において支援が必要な高齢者に対して積極的な援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】							
到達（成績評価B）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができるようになる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 介護の理念について理解し、日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動ができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】							
単位取得（成績評価C）目標							
介護に対する基本的な知識を得た上で、介護と自分を関係づけることができる。 1. 講義で学ぶ理論と在宅・施設介護現場の課題把握を通して、「介護」とは何かについて論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 介護の理念について概ね理解し、日常生活において支援が必要な高齢者に対して援助活動を行う心構えを持つ。 【DP3：主体性、多様性、協働性】							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護概論	生デ：卒必 食栄：選択	共通	2年 前学期	講義	2	中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目（社主事）		教科書購入者				15, 17	
教科書							
菊池信子編著：『福祉実践をサポートする介護概論 第2版』 保育出版社（最新版）¥2,619							
参考書・資料							
適宜資料を配布							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
提出課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 高齢者介護に関する新聞記事やニュースに常に興味をもち、介護に対する意識を高め、資料収集する。 2. 授業中は携帯電話の使用及び私語は禁止する。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	介護の概念（1）	介護の理念と定義	/
	事前学習 15分	シラバス及び教科書の該当ページを読み、授業内容を把握する。	
	事後学習 30分	介護の理念と定義について確認する。	
2	介護の概念（2）	介護の対象	/
	事前学習 30分	介護の対象について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	介護の対象者について復習する。	
3	高齢者の全体像（1）	高齢者の身体的特性	/
	事前学習 30分	加齢に伴う身体的変化について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の身体的特性について復習する。	
4	高齢者の全体像（2）	高齢者の心理的特性	/
	事前学習 30分	高齢者の心理的特性について調べる。	
	事後学習 30分	高齢者の心理的特性について復習する。	
5	高齢者の生活実態の把握（1）	生活（衣食住）の実態	/
	事前学習 30分	高齢者の生活実態について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
6	高齢者の生活実態の把握（2）	介護の社会化	/
	事前学習 30分	介護の社会化について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	高齢化の推移と介護の社会化についてまとめる。	
7	高齢者の生活実態の把握（3）	介護保険制度	/
	事前学習 30分	介護保険の申請方法及びサービス内容について調べる。	
	事後学習 30分	介護保険制度の概要をまとめる。	

8	高齢者の生活実態の把握（４）	介護の実態と課題	
	事前学習 30分 事後学習 60分	介護の実態と課題について、教科書の該当ページを読む。 介護の実態を確認し、課題解決に向けての取り組みについて理解する。	
9	高齢者の生活実態の把握（５）	寝たきり高齢者の実態	
	事前学習 30分 事後学習 30分	寝たきりに高齢者の課題について考える。 寝たきり高齢者の生活実態を理解し、意向に沿った介護について考える。	
10	高齢者の生活実態の把握（６）	認知症高齢者の実態	
	事前学習 30分 事後学習 30分	認知症高齢者の課題について考える。 認知症高齢者の生活実態について理解し、意向に沿った介護について考える。	
11	介護を支える技術	生活行為を成立させるための技術・家事機能を維持拡大する生活技術	
	事前学習 30分 事後学習 30分	介護を支える技術について、教科書の該当ページを読む。 学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考える。	
12	介護の過程 在宅における介護	ケアマネジメントの必要性 在宅援助の基本 福祉住環境整備の重要性	
	事前学習 30分 事後学習 30分	介護の過程・在宅における介護について、教科書の該当ページを読む。 利用者や家族の意向を重視したケアマネジメントとは何かを考える。	
13	施設における介護	施設介護の役割、機能	
	事前学習 30分 事後学習 60分	高齢者施設の種類を調べる。 高齢者施設における介護の役割と機能とは何かを考える。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 60分 事後学習 60分	前学期全体の学習内容を振り返り、介護の全体像をわかるようにする。 介護について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>私たちが日々行なっている「消費」について多面的に検討し、賢く責任感ある消費者になるための必須事項を習得する。まず、現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題を理解し、対策について学ぶ。次に、環境保全の視点から現実の問題を分析するとともに、責任感ある消費者としての力の涵養をめざす。全体として、消費者としての自らの身を守るよう学習を進めるうちに、より広い社会の変化を理解するとともに、加害者としての消費者にはならないための能力の涵養に努める。</p>							
成績評価方法							
<p>取組み姿勢(20%) 提出物(56%) 小テスト(24%)</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を論理的に説明することができるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として行動するために必要な基礎的知識を修得し、論理的に自分の考えを述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための知識を修得し、論理的に自分の考えを述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する背景や実態を説明できるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として行動するために必要な基礎的知識を修得し、自分の考えを述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための知識を修得し、自分の考えを述べられるようになり、他者と意見交換ができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する基本的な背景や実態を理解し、述べることができるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として必要な基礎的知識を理解し、述べることができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための基礎知識を理解し、自分なりの考えを述べられるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題が発生する基本的な背景や実態を概ね理解し、述べることができるようになる。【DP1：知識・技術】 ・現代社会における消費者として必要な基礎的知識を概ね理解し、述べることができるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・環境問題について、持続可能な社会の構築をめざすための基礎知識を概ね理解し、自分なりの考えを述べられるようになる。【DP1：知識・技術】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
消費生活と環境	卒業必修	共通	2年 後学期	講義	2	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独
科目区分		履修条件				AL	
家政科コア科目		特になし				—	
教科書							
なし（プリントを配布する）							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する。							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
ミニットペーパー（質問、感想等）については授業においてコメントする							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言が期待される。 ・遅刻厳禁。 ・私語は禁止。 ・予習すべき内容を授業ごとに指示する。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	イントロダクション	授業の進め方	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
2	消費者問題の基礎知識(1)	消費者問題とは何か、消費者被害の歴史と現状	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
3	消費者問題の基礎知識(2)	消費者行政の歴史、企業による消費者問題対応	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
4	商品・サービスの取引(1)	契約、特定商取引、悪質商法（1）	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
5	商品・サービスの取引(2)	悪質商法（2）、クーリングオフ	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
6	商品・サービスの安全性	食品・医薬品・医療機器・化粧品、電気・ガス用品、家庭用品、住まい等	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
7	商品・サービスの表示	表示、広告、様々なマーク	/
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

8	消費者信用	月賦販売、クレジットカード、多重債務	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
9	消費者の責任	消費者運動、フェアトレード	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
10	環境問題と消費者(1)	SDGs、地産地消、食品ロスと消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
11	環境問題と消費者(2)	地球温暖化、脱炭素社会と消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
12	環境問題と消費者(3)	電力需要と消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
13	環境問題と消費者(4)	ごみ処理、プラスチックと消費者	
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	
14	環境問題と消費者(5)およびまとめ	全体の振り返り(種の多様性と消費者を含む)	
	事前学習 60分	配布されたプリントを読む	
	事後学習 60分	課題プリントの演習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活デザイン概論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、生活デザインの本質と意義を学び、創造と提案の技能を身につける。はじめに、生活とデザイン定義、デザインの考え方などデザインの本質について学ぶ。次に、デザインの誕生、現代に至るまでの変遷、流行の誕生など、歴史を学び、これからのデザインに活かせる知識を身につける。最後に、実際に物や事柄を創造するための造形理論とアイデア創出方法について学び、デザインのプロセスを辿る演習を行うことによって実践で活用できる力を養う。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 定期試験(40%) 授業内課題(40%) 受講態度(20%)							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質について論理的に理解しており、自身の表現で説明できる。【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れについて論理的に理解しており、現代のデザインと関連付けて、自分の意見も交えて説明することができる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論を理解したうえで、独自性のある形態が創造でき、自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活だけでなく家庭や地域も含めた広い視野を持って課題解決ができ、適切に提案ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質について論理的に理解して説明できる。【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れについて論理的に理解しており、現代のデザインと関連付けて説明することができる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論をおおむね理解したうえで、形態が創造でき、自身の表現で説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活だけでなく家庭や地域も含めた広い視野を持って課題解決ができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質について論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明できる【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れについて論理的な理解が不足するところもあるが、現代のデザインと関連付けることができる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論の理解が不足しているところもあるが、形態が創造でき、根拠は不十分ながらも自身の考えはおおむね説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活における課題の発見ができた。
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・デザインの本質について論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】 ・デザインの歴史の流れについて論理的な理解には乏しいが、現代のデザインに関連する用語は述べられる。【DP1：知識・技能】 ・造形理論の理解は不十分だが、形態が創造でき、自身の考えはおおむね説明できる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・デザインのプロセスを応用して、自身の日常生活における課題解決を学ぶことができた。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活デザイン概論	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	畑久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 16	
教科書							
伊藤紀之 編著 玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012）¥2,916							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	生活デザインとは	生活とデザインの関係、デザインとは何か	
	事前学習 20分	シラバスと教科書p. 2～3を読む。意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	様々なメディアにおける「デザイン」の語の用例を探す。	
2	デザインの本質1	感性とデザイン	
	事前学習 20分	「デザイン」の意味について復習しておく。	
	事後学習 20分	身の回りのデザインに目を向け、デザインの意図を考える。	
3	デザインの本質2	デザインのハードとソフト	
	事前学習 30分	教科書p. 5～6を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	身の回りのデザインに目を向け、ハードデザインとソフトデザインについて考える。	
4	デザインの本質3	デザインの領域と生活デザイン	
	事前学習 30分	教科書p. 7～8を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	
5	デザインの本質4	デザインと流行	
	事前学習 30分	前回までの授業内容を復習し理解しておく。	
	事後学習 30分	現在の流行現象に関心を持ち、情報を収集する。	
6	デザインの歴史1	産業革命とデザイン改革	
	事前学習 30分	教科書p. 9～14を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
7	デザインの歴史2	近世のデザイン様式	
	事前学習 30分	教科書p. 15～17を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。	
	事後学習 30分	学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	

8	デザインの歴史3	近代デザインの成立	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 18～23を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
9	デザインの歴史4	日本の近代デザイン	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 24～25を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 学習した時代のデザインから影響を受けている現代のデザインの事例を調べてみる。	
10	造形の基礎理論1	点・線・面・立体	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
11	造形の基礎理論2	錯視、バランス、シンメトリー、黄金比など	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 70～85を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
12	造形の基礎理論3	デザインと色彩	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 86～99を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 身の回りの色彩に目を向け、学習内容をあてはめながら振り返る。	
13	デザインのプロセス	アイデア創出方法論、デザインの現場とデザイナー	
	事前学習 30分 事後学習 30分	教科書p. 54～68を読み、意味が分からない語句があれば調べておく。 演習課題を振り返り、完成度を高めておく。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 30分 事後学習 30分	全体の学習内容を振り返り、生活デザインについて説明できるようにする。 この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
グラフィックソフト実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	り 李 ずむ 子木	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
プロダクトデザイン、UI、UXを専攻する。2018年Beijing Design Week出展、2019年Cultural Innovation Design Contest, UXPA受賞。							
授業の概要							
グラフィックソフトなどを用いて、自分に意思を表現し受け手に伝えることは学校生活や会社など生涯において様々な場所で求められます。本授業では、講師の商品企画デザイナーとしての実務経験から、グラフィック表現技法をアクティブラーニング形式で実践的に学びます。この講義では以下の3つの能力の習得を目指します。 ①実行力：目標を達成するため、手を動かし主体的に行動する。 ②視覚表現力・伝達力：相手に伝わりやすいようグラフィックデザインの観点からデザインし発信する。 ③企画力：情報をもとに自分なりの仮説を立て、相手の心を動かすようなアイデアを考える。							
成績評価方法							
授業態度(20%) 制作物(30%) プレゼンテーション(50%)で評価します。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

以下、1～3を到達目標とする。
1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】
2. ツールに習熟して、オリジナルデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

以下、1～3を到達目標とする。
1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】
2. ツールを適切なデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

以下、1～3を到達目標とする。
1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】
2. ツールを利用してデザインを製作でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

以下、1～3を到達目標とする。
1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】
2. ツールを用いてデザインを真似でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
グラフィックソフト実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	李 ずむ 子木	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
教科書							
特になし							
参考書・資料							
特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業内で講評する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
※進行状況に応じて授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	デザインとは何か	そもそもデザインとは何か、役割や目的を学ぶ。	李
	事前学習 10分	あらかじめシラバスをよく読んでおく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
2	情報の発信の基礎	パワーポイント等を使い簡単な自己紹介の資料を発表する。	李
	事前学習 60分	各自、自分のパーソナリティが伝わるように自己紹介資料を作っておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
3	プレゼンテーションの基礎	伝わりやすいプレゼンテーションの心得を学ぶ。	李
	事前学習 20分	次回の発表に向けて反省点を覚えておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
4	トンマナとフォントの選び方	デザインの雰囲気を決める要素であるトンマナとフォントについて学ぶ。	李
	事前学習 20分	指定されたデジタルソフトをYoutubeなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
5	レイアウトのルール	デザインの雰囲気を決める要素でレイアウトについて学ぶ。	李
	事前学習 20分	指定されたデジタルソフトをYoutubeなどで検索して調べておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
6	デジタルソフトの基礎	デザイン編集ソフトを使いロゴをデザインする。	李
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
7	ロゴデザイン	デザインしたロゴが入った名刺のデザインを発表する。	李
	事前学習 20分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 20分	ロゴをデザインしておく。	

8	写真のテクニック	写真撮影におけるテクニックを学ぶ。	李
	事前学習 60分	ロゴをデザインしておく。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
9	グラフィックにおける色の使い方	デザインの色選び方について学ぶ。	李
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
10	デジタルソフトの基礎2	デザイン編集ソフトを使い写真を加工する、ポスターを作る。	李
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
11	パンフレットのデザイン	学校のオープンキャンパスのパンフレットターゲットとコンセプトを決める。	李
	事前学習 20分	前回の講義内容をよく学習しておくこと。	
	事後学習 20分	講義内容を振り返り、次回の講義に生かすこと。	
12	パンフレットのデザイン2	学校のオープンキャンパスのパンフレットをデザインする。	李
	事前学習 60分	アイデアスケッチを描いておく。	
	事後学習 20分	デザインを製作する。	
13	中間発表	デザインしたパンフレットをメンバーに発表し、フィードバックを生かしてブラッシュアップさせる。	李
	事前学習 60分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 20分	フィードバックを元にデザインを改善させる。	
14	最終プレゼンテーション	デザインしたパンフレットをプレゼンテーションする。	李
	事前学習 60分	プレゼン資料を作っておく。	
	事後学習 20分	自分のプレゼンを分析しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
工芸実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	ほんごう よしや 本郷 芳哉	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>手工芸や伝統工芸の種類と技法を知り、自分の手で作品を作ることの楽しさと完成した時の喜びを体験できることを目的とし、授業では特に七宝、金属素材による金工、ガラス工芸など立体的な工芸作品を制作し、実際に使えるかたち（アクセサリ等の装飾品やカテトラリーなど）にしていきます。</p> <p>個々の作品のデザインをすところから始め、必要な道具や用品、材料などの基本的な選び方・扱い方を学びながら制作を行います。</p>							
成績評価方法							
<p>以下の項目の総合評価とする。</p> <p>作品 (70%) 受講態度(30%)</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
<p>S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格</p>
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 ・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするための工夫を自ら考え、優れたデザインを実践する。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解し、自らも優れたデザインを行うことができる。【DP1:知識・技能】 ・道具や用具の構造や仕組みを理解し、自分の作りたいものに合わせて工夫して使うことができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・自ら材料を選び、優れたデザインで制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 ・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするための工夫やデザインを実践する。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解し、自らもデザインを行うことができる。【DP1:知識・技能】 ・道具や用具の構造や仕組みを理解し、自分の作りたいものに合わせて工夫して使うことができる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・材料を選び、デザインで自ら制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 ・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行い、手工芸で生活を豊かにするために工夫やデザインをを考えることができる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】 ・道具や用具が使えるようになり、自ら制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、様々な工芸があることを知る。【DP1:知識・技能】 ・工芸の観点から自身の生活の周囲にあるものの考察を行う。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・自国の文化である伝統工芸の片鱗に触れることで、その価値を理解する。【DP1:知識・技能】 ・道具や用具が使えるようになり、制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
工芸実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	本郷 芳哉	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
材料費として3,000円徴収します。							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。(学内での展示に用いる場合は返却時期が遅くなる場合があります。)							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・制作の行程によっては衣類を汚す可能性があるため、汚れてもいい服装で受講すること。 ・作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使って進めておくこと。 ・各自で用意する材料については授業内に指示する。 ・忘れ物厳禁。 ・進行の都合により、内容が前後、変更することがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	工芸について／七宝焼き(1)	手で作ることと作品制作について／技法体験(サンプルの作成)と基礎デザイン	
	事前学習 5分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	七宝焼き(2)	基礎デザイン	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
3	七宝焼き(3)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
4	七宝焼き(4)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げしておく	
5	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等)(1)	技法説明及び制作	
	事前学習 20分	ガラス工芸の作品を調べる	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
6	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等)(2)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
7	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等)(3)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	

8	ガラス工芸(トンボ玉)及び紐を用いた制作(組紐等) (4)	制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げしておく	
9	金工(アルミスプーン①)	技法体験(サンプルの作成)と基礎デザイン	
	事前学習 20分	普段の生活で使っている食器やカトラリーに注目し、観察しておく	
	事後学習 30分	参考資料を読み、デザインのイメージをしておく	
10	金工(アルミスプーン②) (カトラリーやジュエリーなど)	基礎デザインおよび制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
11	金工(アルミスプーン③) (カトラリーやジュエリーなど)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
12	金工(シルバークレイ①)	デザイン	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作の遅れがあれば進めておく	
13	金工(シルバークレイ②)	本制作	
	事前学習 30分	次の制作の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げしておく	
14	金工(シルバークレイ③)・まとめ	制作と講評	
	事前学習 30分	発表の準備をしておく	
	事後学習 30分	制作工程を振り返り、生活の中にある工芸を改めて観察する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
店舗空間デザイン演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	やまむら みほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				11, 12, 14	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>商業施設における店舗空間のデザインに関する基礎事項を習得し、それらを表現し、豊かなコミュニケーション力を活かして伝えることを学ぶ。中世の絵巻物、江戸時代の浮世絵、近世移行の店舗や老舗などから店舗デザインの普遍性を学習する。さらに店舗における動線やゾーニング、陳列、照明などの店舗空間を構成する要素を学び平面図の読み取りをし、POPや購買行動等の販売に関する基礎事項を習得する。最後に、店舗計画の課題に取り組みプレゼンテーションを行う。</p>							
成績評価方法							
<p>受講態度(20%) 小課題(30%) 課題のエスキスとプレゼンテーション(50%)</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し総合的に説明及び提案できるようになる【DP1:知識・技能】。店舗コンセプトについて調べ、顧客に対する演出を図面を用いて表現し、論理的にプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、様々な場面とターゲットとした顧客を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し総合的に説明できるようになる【DP1:知識・技能】。店舗コンセプトについて調べ、顧客に対する演出を図面を用いて表現し、論理的にプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し総合的に説明できるようになる【DP1:知識・技能】。店舗コンセプトについて調べ、顧客に対する演出を図面を用いて表現しプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

店舗空間デザインに関する基礎知識と、それらをデザインとして表す技能を習得し説明できるようになる【DP1:知識・技能】。店舗コンセプトを表現してプレゼンテーションできるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して必要な取り組みができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態 M22・02
店舗空間デザイン演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				11, 12, 14	
教科書							
教科書は用いず、必要な資料は適宜配布する。							
参考書・資料							
特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は評価したのち、返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く）。 ・私語厳禁。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的及び方針の説明	
	事前学習 15分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 15分	授業方針の確認をする	
2	店舗の歴史 I	「見せ」から始まった中世の店舗、江戸の町民文化	
	事前学習 20分	中世から江戸期の絵図を見ておく	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
3	店舗の歴史 II	近世以降の店舗の歴史と老舗	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
4	店舗計画 I	立地と商圈、防災・動線・ゾーニング	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
5	店舗計画 II	什器と陳列、色彩、照明	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
6	店舗計画 III	売り場の演出、POP	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	
7	業態と店舗計画 カフェ	カフェと喫茶店の特徴、平面計画	
	事前学習 15分	前回の復習をする	
	事後学習 20分	学習した内容を確認する	

8	業態と店舗計画	アパレル	アパレルの売り場の特徴、平面計画	
		事前学習 15分	前回の復習をする	
		事後学習 20分	学習した内容を確認する	
9	業態と店舗計画	物販	物販の売り場の特徴、平面計画	
		事前学習 20分	前回の復習をする	
		事後学習 20分	学習した内容を確認する	
10	プレゼンテーション課題	エスキス I	与えられた課題に対して、店舗デザインを検討する	
		事前学習 20分	前回の復習をする	
		事後学習 20分	学習した内容を確認する	
11	プレゼンテーション課題	エスキス II	与えられた課題に対して、店舗デザインを検討する	
		事前学習 30分	これまでの内容を復習する	
		事後学習 30分	課題の検討を行う	
12	プレゼンテーション課題	ボード作成	プレゼンテーションの準備を行う	
		事前学習 30分	テーマに即した店舗を観察する	
		事後学習 30分	プレゼンテーションの内容、方法を検討する	
13	プレゼンテーション課題	ボード作成	プレゼンテーションの準備を行う	
		事前学習 30分	テーマに即した店舗を観察する	
		事後学習 30分	発表の準備をする	
14	発表会と総括		発表会と振り返り	
		事前学習 30分	発表練習をする	
		事後学習 30分	他の発表者のプレゼンテーション内容を確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
サービス英語コミュニケーション	選択	生デ	1年後学期	演習	2	りちやーど S おすてん Richard S Austen えぐち まゆみ 江口 眞由美	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				8, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
英語でのコミュニケーションを積極的に図ろうとするマインド育成と異なる文化の違いを理解し適応能力や柔軟性を養い就職先や日常生活の中で活かせる英会話を身につけることを目的とする。 ワークシートに沿ってロールプレイやシミュレーションを加えながら実践的な英会話を学ぶ。 スピーキング&リスニング(80%) リーディング&ライティング(20%)							
成績評価方法							
授業における積極的な取り組み姿勢(提出物、宿題を含む) 50% 定期試験 50%の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

- ・学習した語句や表現法などの知識を使って自分の考えや情報などを英語で述べるができるようになる。
【DP1: 知識・技能】
- ・相手の話している内容や質問、依頼や指示などを理解し言葉で応えることができるようになる。【DP2: 思考力・判断力・表現力等】
- ・英語を使用している人々の日常生活や習慣など言葉の背景にある文化を配慮しながらコミュニケーションができるようになる。
【DP3: 主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

- ・学習した語句や表現法など英語やボディランゲージなど交えながら表現できるようになる。【DP1: 知識・技能】
- ・相手の話している内容や質問、依頼や指示など、ある程度理解し単語を並べるなど工夫しながら応えることができるようになる。
【DP2: 思考力・判断力・表現力等】
- ・英語を使用している人々の日常生活や習慣など言葉の背景にある文化を配慮しながら理解しようと努めるようになる。
【DP3: 主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
サービス英語コミュニケーション	選択	生デ	1年後学期	演習	2	Richard S Austen 江口 眞由美	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				8, 9, 16	
教科書							
毎授業ワークシート配布							
参考書・資料							
必要に応じてプリント配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
宿題や小テストを回収後、解答の解説を行う。 中間と後半でそこまでの疑問点や質問の時間を設け振り返り学習を行う。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
授業担当、あるいは内容を変更する場合がある。 私語および携帯電話の使用を禁止する。 余儀なく欠席となる場合はすみやかに研究室に連絡を取ること。 授業では積極的にペアワークやグループワークに参加し、自分の考えや意見を表現し発信していく姿勢が大切である。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	自己紹介・授業概要の説明と目標	日々の暮らしの中で、将来をイメージしながら英語の有用性に触れ、英語学習のモチベーションを高める	江口
	事前学習 15分	英語が使えたら、というシーンをイメージしてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
2	自己紹介・数字	自己紹介。数字、お金、時計の見方、読み方を学ぶ	Richard
	事前学習 15分	疑問点を考え、まとめておく	
	事後学習 15分	宿題 復習	
3	ショッピング	働く側とお客様側に立って英語コミュニケーションを学ぶ	江口
	事前学習 15分	英語が使えたら、というシーンをイメージしてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
4	レストラン、ファーストフード	多様な食習慣の背景にある文化や地球環境への影響についても学ぶ	Richard
	事前学習 15分	日常の暮らしの中で地球環境に取り組んでいることを考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
5	海外旅行予備知識	海外旅行に役立つ情報と英語を学ぶ	江口
	事前学習 15分	行きたい国をイメージしてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
6	病院・病気	万が一に備えて知っておくべき英語豆知識	Richard
	事前学習 15分	英語が使えたら、というシーンをイメージしてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
7	日本と外国の文化の違い	体験や経験を基に文化の違いを話し合う	江口
	事前学習 15分	外国人に紹介したい日本文化を考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	

8	観光	日本の観光名所を紹介する	Richard
	事前学習 15分	外国人を案内したい場所や内容を考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
9	道案内・地図の説明	簡潔に、聞き手に分かりやすく説明するポイント英語を学ぶ	江口
	事前学習 15分	液から学校までの道のりをわかりやすく説明できるか考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
10	事故や怪我	緊急事態に備えて迅速な行動がとれるような英語を学ぶ	Richard
	事前学習 15分	状況をイメージし自ら行動すべき点について考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
11	テーブルマナー	日本と海外のレストランマナー、テーブルマナーを学ぶ	江口
	事前学習 15分	常日頃意識しているマナーについて考えてくる	
	15分	宿題 復習	
12	トラブルシューティング1	トラブル発生時の対応と英語スキルを学ぶ	Richard
	事前学習 15分	過去に遭遇した自らの行動で解決した例を考えてくる	
	事後学習 15分	宿題 復習	
13	トラブルシューティング2	トラブル発生時の対応と英語スキルを学ぶ	江口
	事前学習 15分	今までの経験であなたの行動によって他者から感謝された例を考えてくる	
	事後学習 15分	試験に向けて準備をする	
14	復習とまとめ	全体の振り返り	Richard
	事前学習 30分	授業の復習と疑問点などをまとめてくる	
	事後学習 90分	復習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
カラーコーディネート 演習	選択	生デ	2年 前学期	演習	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的な知識・技能を仕事や家庭での実践に活かせるようになるという目標に到達するために、この科目では、色に関する知識と配色の技能を身に付ける。はじめに、色とは何か、色が見える仕組み、色の分類など色彩学の基本を学び色についての理解を深める。次に、色の三属性、色彩体系、配色理論を学び、仕事や家庭において応用できる実践力を養う。習得した知識により、ファッション色彩能力検定3級または2級、色彩検定、カラーコーディネート検定などの検定試験合格を目指すこともできる。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 小テスト(40%) 演習課題(40%) 受講態度(20%)							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的に理解しており、自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】 ・配色理論の根拠に基づき、日常生活におけるTPOや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えを自身の表現で説明できる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し独自性のある企画・提案ができ自身の表現で説明ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的に理解して説明できる。【DP1:知識・技能】 ・配色理論の根拠に基づき、日常生活におけるTPOや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについてを自身の考えを説明できる【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論を応用し独自性のある企画・提案ができ説明ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的な理解が不足するところもあるが、概ね説明できる。【DP1:知識・技能】 ・日常生活におけるTPOや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えはおおむね説明できるが、配色理論の根拠は不十分。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論に基づいた企画・提案ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・色とは何か、色が見える仕組み、色の三属性、色彩体系、などの色彩学の基本的理論について論理的な理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。【DP1:知識・技能】 ・日常生活におけるTPOや心理状態に応じた適切な色の組み合わせについて自身の考えを説明できるが不十分であり、配色理論の根拠に基づくことはできない。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・実務の場を想定した演習において、商品やサービス等に配色理論に関連する企画・提案ができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
カラーコーディネート 演習	選択	生デ	2年 前学期	演習	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				14, 15, 16	
教科書							
『色彩検定 公式テキスト3級編』(最新版)¥2,970							
参考書・資料							
(財)日本ファッション教育振興協会『ファッション色彩[Ⅰ]』(最新版)¥2,263、『ファッション色彩能力検定試験3級問題集』(最新版)¥1,131、玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』三共出版(2012)¥2,916(購入済)、橋本令子、石原久代編著『生活の色彩学—快適な暮らしを求めて—』朝倉書店(2019)¥3,080							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
検定試験受験希望者は、問題集代(2022年度は1100円)、受験料(2022年度は3級7000円)がかかります。演習の際に、はさみ・糊を使用するので各自準備しておく。							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業時に教科書・問題集の購入についてと検定試験の申込について説明をします。欠席のないように。 ・授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 ・検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退学を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	色のはたらき	授業の説明、検定試験について、生活における色彩の役割	
	事前学習 20分	シラバスを読む。色に対する関心を高めておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
2	光と色	色が見えるしくみ、眼のしくみ、照明、混色	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	色彩体系を作成しながら、今回の内容について理解を深める。	
3	色彩体系	色の分類と三属性、PCCS、色名	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	色彩体系を作成しながら、今回の内容について理解を深める。	
4	色彩心理	心理効果、視覚効果、知覚効果	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
5	色彩調和	配色の基礎理論、ヒュー&トーン	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
6	色彩効果	色彩と構成	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
7	色彩とファッション	ファッションコーディネートにおける色彩の役割	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	期日までに演習課題を終えておく。	

8	色彩とインテリア	インテリアコーディネートにおける色彩の役割	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	期日までに演習課題を終えておく。	
9	色彩と食生活	フードコーディネートにおける色彩の役割	
	事前学習 30分	手持ちの衣類の色を調べてくる。	
	事後学習 30分	学習内容をもとに改めて手持ちの衣類の色を観察する。	
10	生活と色彩	生活におけるカラーコーディネート	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
11	色彩計画演習1	ウェディングシーンのカラーコーディネート(1)実態調査	
	事前学習 30分	現代のウェディングシーンについて情報を収集する。	
	事後学習 30分	終わらなかった作業は次回までに進めておく。	
12	色彩計画演習2	ウェディングシーンのカラーコーディネート(2)アイテムと配色	
	事前学習 30分	現代のウェディングシーンについて情報を収集する。	
	事後学習 30分	終わらなかった作業は次回までに進めておく。	
13	色彩計画演習3	ウェディングシーンのカラーコーディネート(3)ビジュアル提案	
	事前学習 30分	提案内容をまとめておく。	
	事後学習 30分	プレゼンテーションの準備を十分に行う。	
14	色彩計画演習4	プレゼンテーション	
	事前学習 30分	プレゼンテーションの準備を十分に行う。	
	事後学習 30分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
デジタルデザイン演習	選択	生デ	2年前学期	演習	2	やまなか まさし りずむ 山中 将司・李 子木	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
プロダクトデザイン、UI、UXを専攻する。2018年Beijing Design Week出展、2019年Cultural Innovation Design Contest, UXPA, 受賞。							
授業の概要							
自分の力でホームページをデザインしていきます。デザインはアートではありません。デザインは自分の好きな形を作るのではなく、常にユーザーのことを考え「わかりやすい」「伝わりやすい」「使いやすい」といった要件を満たす必要があります。この授業ではFigmaといったツールを使いホームページなどを制作し皆さんの伝達力と創造力を養います。この授業を通じてデザイン思考・ユーザー視点を身につけ、社会人生活において頼りになる人材となることが目的です。							
成績評価方法							
授業態度(20%) 制作物(40%) プレゼンテーション(40%)で評価します。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
以下、1～3を到達目標とする。 1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールに習熟して、オリジナルデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
以下、1～3を到達目標とする。 1. 適切なデザインとは何かを十分に理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを利用して適切なデザインを製作でき、それを魅力的にプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得し実際に活用できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
以下、1～3を到達目標とする。 1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを利用してデザインを製作でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
以下、1～3を到達目標とする。 1. デザインの基本を理解し説明ができる。【DP1：知識・技能】 2. ツールを用いてデザインを真似でき、それをプレゼンテーションできる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワークなどの問題解決等の能力を修得する。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
デジタルデザイン演習	選択	生デ	2年前学期	演習	2	やまなか 山中 まさし 将司・李 り ずむ 子木	オムニ バス
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		特になし					1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16
教科書							
授業内で、プロジェクターにて、投影。							
参考書・資料							
特になし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業内で随時フィードバックを行う							
履修上の注意・備考・メッセージ							
レベルの高い制作を行う授業なので欠席が続くと授業に復帰するのが難しいと思います。前向きに技術を身につけたいという姿勢を持って受講してください。また初回授業までに各自googleのアカウントを取得し、Gmailを使えるような状態にしておいてください。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	授業ガイダンス	授業内容、UI/UXデザインについて	山中, 李
	事前学習 20分	Gmailアカウントを取得しておくこと。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
2	UIとは何か	ユーザーインターフェースについて学ぶ	山中, 李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
3	Figma 入門1	Figmaの操作に慣れる	山中, 李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
4	Figma 入門2	Figmaを使ってカードUIを制作してみる	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
5	UXとは何か	ユーザーエクスペリエンスについて学ぶ	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
6	Figma 実践1	Figmaで商品のバナーを制作する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
7	Figma 実践2	Figmaで商品のバナーを制作する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	

8	デザインシステムについて	Figmaでデザインシステムを制作する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
9	Figma 実践3	ランディングページを模写する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
10	Figma 実践4	ランディングページを模写する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
11	ホームページのコンセプト	最終課題に向けてホームページのコンセプトを決める	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
12	ホームページのリサーチ	既存のホームページを調べて分析する	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
13	ホームページの制作	最終発表に向けて作品を制作	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 60分	指定課題を進める。	
14	最終プレゼンテーション	最終プレゼンテーションを行う	李
	事前学習 60分	指定課題を進める。	
	事後学習 20分	フィードバックを各自振り返ること。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ユニバーサルデザイン概論	選択	生デ	2年後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン概論単位取得者				3, 4, 8, 11, 12, 15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活経営や仕事、社会活動に主体的に参画できる能力と豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、ユニバーサルデザインの意義と本質について学ぶ。まずは、発祥と変遷、意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性を知る。次に、多様な状態の利用者を知り、疑似体験によって理解を深める。自治体や企業におけるユニバーサルデザインの取り組みや実例などを知り、利用者と提供者の両面から考え、意見を出し合い、多様な利用者の生活がより快適で安全になるよう利便性を考える。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 定期試験 (40%) 演習課題 (40%) 受講態度 (20%)							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性について具体例を挙げて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ユニバーサルデザインにとって、人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について具体例を挙げて説明できるようになる。【DP2:思考力・判断力、表現力等】 ・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて能動的に取り組むことができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性について具体例を挙げるができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・ユニバーサルデザインにとって、人間の多様な個性への理解と広い視野を持つことの重要性について具体例を挙げるができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・利用者と提供者の両面から日常生活の中の課題を見つけることができ、問題解決に向けて取り組むことができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ユニバーサルデザイン概論	選択	生デ	2年後学期	講義	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン概論単位取得者				3, 4, 8, 11, 12, 15	
教科書							
宮入賢一郎・実利用者研究機構著：『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本 第2版』 日刊工業新聞社 (2014) ¥1,512							
参考書・資料							
日経デザイン編『ユニバーサルデザイン事例集100』日経BP社 (2004) ¥4,860 全日本印刷工業組合連合会 著『メディア・ユニバーサルデザインーみんなに優しい情報制作のガイドラインー』印刷学会出版部 (2009) ¥5,184							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は2回目の授業から使用する。書店で店頭販売していないことが多いので、早めに注文しておくこと。 ・授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 ・検定試験の日程に合わせて、授業スケジュールを変更することがある。 ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ユニバーサルデザインの理解1	ユニバーサルデザインとは何か、バリアフリーとの違い	/
	事前学習 20分	シラバスに目を通しておく。	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、理解を深める。	
2	ユニバーサルデザインの理解2	ユニバーサルデザインの7原則	/
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中のユニバーサルデザインに目を向け、7原則について理解を深める。	
3	利用者の多様性と理解1	疑似体験	/
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、理解を深める。	
4	利用者の多様性と理解2	カラー・ユニバーサルデザイン	/
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	生活の中で様々な利用者に目を向け、理解を深める。	
5	ユニバーサルデザインの調査と発想1	生活調査と課題の発見、フィールドワーク	/
	事前学習 30分	自身の生活とUDとの関わりについて考えてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
6	ユニバーサルデザインの調査と発想2	課題発見とアイデア創出	/
	事前学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
7	ユニバーサルデザインの調査と発想3	課題に関する調査	/
	事前学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	

8	ユニバーサルデザインの調査と発想4	自治体や企業のUD事例研究	
	事前学習 30分	教科書を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
9	ユニバーサルデザインの調査と発想5	UDマップ、ppt制作	
	事前学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
	事後学習 30分	終わっていない作業は進めてくる。	
10	ユニバーサルデザインの調査と発想6	プレゼンテーション	
	事前学習 30分	発表に向け十分な準備をしておく。	
	事後学習 30分	発表内容を振り返る。	
11	ユニバーサルデザインコーディネーター	ユニバーサルデザインコーディネーターの仕事と実例	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読んでおく。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
12	生活とユニバーサルデザイン	環境への配慮	
	事前学習 30分	自身の生活と環境との関わりについて考えてくる。	
	事後学習 30分	学習した内容について、生活の中で実例を見つけ理解を深める。	
13	ユニバーサルデザインの今後	これからのユニバーサルデザイン	
	事前学習 30分	自身の生活で今後UDをどう取り入れるか考えてくる。	
	事後学習 30分	この授業で学習した内容を実生活で活かすために自分にできることを考える。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り復習しておく。	
	事後学習 30分	授業で学んだことを自身の生活の中でどのように活かせるか考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
商品開発・企画演習	卒業必修	生デ	2年 後学期	演習	2	ひらお きばやし なかの はた 平尾、木林、中野、畑、 もりさき やまむら よねやま 森崎、山村、米山	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		①1年生終了時、取得単位数が31単位以上あること ②担当教員の関連科目を2年生前学期までに履修しておくこと				4, 5, 6・7, 11, 12, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活を自らデザインし、提案・実践できるようになるために、2年前学期までに学修した、生活に関する専門的知識・技能及び豊かなコミュニケーション力を活かし、担当教員とディスカッションを行いながら、商品やサービスの企画を行い、開発する。演習のプロセスはPDCAサイクルに則り、創造的・具体的に計画を立てて実践し、その成果を中間発表する。そこで得られた意見や助言を開発内容に取り入れ、最終的な成果に反映させる。プロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出し、最終発表を行う。							
成績評価方法							
下記項目を提出または参加した上で総合評価を行う。 商品としての作品あるいは研究成果(40%)、レポート(40%)、中間発表(10%)、最終発表(10%)							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前期までに学修した生活に関する専門的知識を十分に理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に積極的に取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果を調査分析しまとめて発表し、完成度の高いレポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら主体的・積極的に演習を的確に進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、効果的な助言や質問を積極的にすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前期までに学修した生活に関する専門的知識を理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に積極的に取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、完成度の高いレポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら主体的・積極的に演習を進めることができ、生活経営や社会活動に主体的に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、効果的な助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前期までに学修した生活に関する専門的知識を理解し技能を適切に用いて、自ら計画を立て、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究に取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果をまとめて発表し、レポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力、表現力等】 ・豊かなコミュニケーション能力を活かし、担当教員とディスカッションを重ねながら演習を進めることができ、生活経営や社会活動に参画できる能力を磨く努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力、表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・2年生前期までに学修した生活に関する専門的知識・技能を用いて、仕事や家庭での実践に活かすことができる。【DP1：知識・技能】 ・豊かで持続可能な生活をデザインし提案できる能力を身につけるために、自らの作品制作や研究にサポートを受けながら取り組むことができる。 ・最終的な作品の作成過程あるいは研究の目的・方法・結果を不十分な状態であるため、サポートを受けながらまとめ、レポートを提出することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・担当教員の助言を受けながら演習を進めることができ、生活経営や社会活動に参画する努力ができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・自分以外の企画に対して、助言や質問をすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
商品開発・企画演習	卒業必修	生デ	2年 後学期	演習	2	ひらお きばやし なかの はた 平尾、木林、中野、畑、 もりさき やまむら よねやま 森崎、山村、米山	複数・ クラス分 け
科目区分		履修条件					AL
生活デザイン専攻科目		①1年生終了時、取得単位数が31単位以上あること ②担当教員の関連科目を2年生前学期までに履修しておくこと					4, 5, 6・7, 11, 12, 16
教科書							
各教員の指示による。							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
作品制作および実験・実習を行うにあたり、学校で用意できる材料等以外に必要なものは、自己負担で準備する。							
課題に対するフィードバック							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回各担当教員と意見交換することにより、細かい振り返りができ、次の作業に役立てることができる。 ・ 中間発表で他者の意見を聞き、改善点等を把握することができ、自分の企画に反映することができる。 							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ①学事日程により、中間発表および最終発表の日を変更する場合がある。 ②活動日は担当教員と相談のうえ、各自150分間14回の時間数を確保すること。 ③欠席が事前にわかる場合あるいは当日欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をすること。 ④授業開始前に手洗い等の準備をし、それぞれの身支度を整え準備を行う。 ⑤14回目の授業時にプロセスと結果をレポートにまとめ、成果物とともに提出し、最終発表を行う。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	全体のオリエンテーション、担当教員とのディスカッション	オリエンテーション、担当教員との意見交換	複数
	事前学習 20分	シラバスや事前の説明から、自分が実施したい企画を考えてくる	
	事後学習 60分	各自の企画書作成準備を行う	
2	企画書作成(1)	担当教員とのディスカッション、企画書作成	クラス分け
	事前学習 20分	担当教員とのディスカッション、企画書提出の準備	
	事後学習 60分	次回からの作品制作あるいは実験・実習の準備	
3	企画書作成(2) 又は 作品制作・実験・実習(1)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
4	企画書作成(3) 又は 作品制作・実験・実習(2)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
5	中間発表の準備	中間発表のパワーポイント等の制作	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	中間発表の準備(目的・方法・現在までの結果がまとまり、パワーポイント制作、発表の準備の確認をする)	
6	中間発表	中間発表	複数
	事前学習 60分	中間発表の準備(目的・方法・現在までの結果をまとめる)	
	事後学習 60分	中間発表で得られた意見や助言をどのように取り入れるかを考える。	
7	作品制作あるいは実験・実習(3)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 60分	新たな作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	

8	作品制作あるいは実験・実習(4)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
9	作品制作あるいは実験・実習(5)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 60分	新たな作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
10	作品制作あるいは実験・実習(6)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
11	作品制作あるいは実験・実習(7)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
12	作品制作あるいは実験・実習(8)	作品制作あるいは実験・実習実施	クラス分け
	事前学習 20分	作品制作あるいは実験・実習の予定を立てる	
	事後学習 60分	今回の作品制作の問題点あるいは実験・実習の結果をまとめる	
13	最終発表の準備	授業の振り返るための最終発表の準備（成果物、レポートの確認準備）	クラス分け
	事前学習 20分	成果物を仕上げる	
	事後学習 60分	最終発表とレポート提出の準備	
14	授業の振り返り	学修成果確認 最終発表	複数
	事前学習 60分	最終発表の準備、レポートの確認	
	事後学習 20分	自分自身がこの演習を通してどれだけの能力がついたか、振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食べ・ストラテデザイン実習	選択	生デ	1年前学期	実習	1	パッケ 伊東	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
<p>★ビジネスベース（広告代理業務）にて、広告、パッケージ、グラフィックデザイン、コーポレートアイデンティティ(CI)、ロゴマーク、イラスト、筆文字をデザイン。資生堂、味の素、明治、ハウス食品、いなば食品、ASAHIビール、メルシャン等。</p> <p>★デザイン賞（USAクリオ賞など）多々・受賞歴あり。※以上の経歴が活かされる。</p>							
授業の概要							
<p>『【ストラテジー】 Strategy 《 戦略・戦い方・プロジェクトを導く計画 》デザイン術を学ぶ。』</p> <p>●心に訴えかけるインパクトパワー・アイデアデザインを考える ●食品に関する商品・パッケージ・広告デザインなどの企画・立案 ●おもしろ・うきうき、シズル・コマースを鑑賞し、食べたくなる、飲みたくなるを学ぶ ●商品特徴のキーワードを探し、楽しみながら発想し、ネーミングとして仕上げる ●言葉遊び、ネーミング制作 ●摩訶不思議な錯覚、トリック・アート論 ●インタラクティブアートの&ゲーム・クイズ・テーマパーク感覚の楽しい癒しの授業。</p>							
成績評価方法							
<p>演習作品レポート提出物（50%）、やる気カード（50%）の総合評価。</p> <p>※特に、授業内での発言力と、提出物等の完成度が高く、アイデアのすばらしさが認められた場合には、A、又は、さらに上のSの評価が与えられます。</p>							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

『モノの見方を身につける。』以下、1～5までを理解し、実行できるようになる。

1. デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につけ活用できるようになる。【DP1：知識・技能】
2. “グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を修得し実行できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3. デザインの完成度の高め方と、おもしろいアイデアの出し方の基礎知識を修得し活用できる。【DP1：知識・技能】
【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. “やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を修得し活用できる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
5. 錯覚にとらわれない心、自信のつけかたを捉えるための力を養い実行できる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

『モノの見方を身につける。』以下、1～5までを理解し、具体的に説明できるようになる。

1. デザインのパワー（ちから）を知るなどの基礎的な知識を身につける。【DP1：知識・技能】
2. “グループワークにおいて、リーダーシップ、及び、チームワーク”などの問題解決等の能力を身につける。【DP3：主体性、多様性、協働性】
3. デザインの完成度の高め方と、おもしろいアイデアの出し方の基礎知識を修得する。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. “やる気”の出し方“プラスの心”の持ち方の基礎的な知識を身につける。【DP3：主体性、多様性、協働性】
5. 錯覚にとらわれない心、自信のつけかたを捉えるための力を養う。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食べ・ストラテデザイン実習	選択	生デ	1年前学期	実習	1	パッケ 伊東	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				1, 3, 4, 8, 9, 12, 14, 16	
教科書							
特になし							
参考書・資料							
授業内で、プリントを配布。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は、評価したのち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
モチベーション効果と、やる気を考える。ここでのやる気は、授業態度ではありません。 【やる気度の高い学生と、モチベーション効果を理解した学生には、“やる気カード・スタンプ”を差し上げます。】ゲーム感覚で取得してください。楽しく(いいね!)評価します。 この授業は、『商品と人』の、やる気の出し方、やる気のブランディング方の授業です。“やる気カード・スタンプ”(活発な発言力&アイデアの良さ)は、演習作品の評価をこえるカードです。 ※授業の順番あるいは内容を変更する場合があります。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ライン・スタンプを創るゾウ!『パ王』	おいしいぞおお。まずいっつい。ラインのタンプを企画制作	/
	事前学習 5分	ストラテジックの意味を、調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
2	インスタ映えって〇〇する写真の撮り方	生活食品かわいいいいねっ 気になる/ビビット写真撮影学	/
	事前学習 12分	いいね!写真の撮り方を自分なりに考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
3	ベネチュバル仮面舞踏会&会社の作り方	インバウンド(訪日外国人旅行)用のギフトブランドづくり。	/
	事前学習 12分	仮面&お面は、なぜ身につけるのかを考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
4	おとぎチョコッとチョコ物語&手作り指輪	おとぎチョコ物語 & 【食玩・おいしいジュエリー★レジン・アート★】	/
	事前学習 12分	おとぎ話、昔話、好きなストーリーを調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
5	日帰り “べ・べ・る・る” バスツアー	どこいくそこいく。食べ!遊べ!ゆる!ゆる!旅行を包む企画	/
	事前学習 12分	バスツアーに関着いて、あらかじめ、調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
6	アイドル『推しメンうちわ』新感覚デザイン	“アピール・うちわ”のアイデア&レイアウト、新発想。	/
	事前学習 12分	『推しメンうちわ』のスマホで、素材データを収集・持参する。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
7	一撃・最強パワー・ドリンク 甲子園	超ドリンク企画&調査~ランチェスターの法則/孫子の兵法	/
	事前学習 12分	コンビニで、オロナミンC、リポビタンDなどが、並んでいる様子を見ておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	

8	“レジンで創る” 楽しいジュエリーデザイン	レジンのレイヤー効果を使った、新しいコンセプト・アクセサリ。	
	事前学習 12分	レジンで、自然の一部を切り取りデザインする。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
9	恐怖の意味！こんな感じ！こんな漢字！	漢字は、意味を表わす表意文字。ロゴマークと、コンセプト。	
	事前学習 12分	自分の好きな漢字3つを選び、その意味を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
10	10秒で、うまくなる。“味わいの書”	楽しく。かんたん。筆文字教室 カリグラフィー秘伝／裏技	
	事前学習 12分	好きな漢字orひらがな一文字、3候補を考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
11	カフェプロ CHAちゃちゃっと！チャット	面白すぎる“お茶カフェ”の、店と商品をプロデュース。	
	事前学習 12分	おちやの茶葉を、すこしだけ、持ってくる。お茶の種類を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
12	愛短のAi个性的キャラクターを創造。	『愛国学園短期大学のいいね探検隊』を結成。探査&調査。	
	事前学習 12分	愛国学園の良いところ、すばらしいところを、10列記しておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
13	アイドルゆめ工房 2030 アイディアンZ	月の水で“近未来”の宇宙食を開発。宇宙食を食べてみたい。	
	事前学習 12分	近未来の食物について、どんな進化イメージになるかを考えておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	
14	マイナスをプラスに『魔法の言葉』de包	“わけ有り商品”を復活販売する。ポジティブで前向きな戦略	
	事前学習 12分	『わけあり商品』の意義（価値）を調べておく。	
	事後学習 12分	配布された、プリントを読み返し覚えておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
パティシエ実習Ⅰ (製菓製パン実習Ⅰ)	選択	生デ 食栄	1年 前学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 食物栄養専攻科目		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
製菓の実習を和菓子・洋菓子について基礎を理論とともに学ぶ。実習での素材の取り扱い方、器具類の扱い方、生地 の作り方、焼成、仕上げなど、製菓のポイントをわかりやすく理論をもとに解説する。洋菓子では種々の生地の特 徴と作り方を学ぶ。和菓子も餡の作り方から基本を学ぶ。習った項目の復習を計量から行い、1人で確実に作るこ とができるようにする。期間中に食品衛生責任者の資格を取得する。(調理師取得者は食品衛生責任者取得必要な し)							
成績評価方法							
プリントのまとめ方(40%)、学修成果のための試験(実技テスト)20%、課題10%、平常点(学修意欲、履修態 度、復習状況等)30%の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

到達(成績評価A)目標

1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と技術を習得し、それを応用し実践
できる。【DP1：知識・技能】
2. 安全に配慮しながら正確に操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. うまくいかないときに、原因を分析し問題解決できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断
力・表現力等】
4. 失敗することなくおいしく、一人で作ることが、計画だてて出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：
思考力・判断力・表現力等】
5. 班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができ
ようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

単位取得(成績評価C)目標

1. 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製菓の基礎知識と基礎的技術を実践できるようにな
る。【DP1：知識・技能】
2. サポートを得ながら、安全に実習することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 実習する上で疑問に感じていることを指摘・発見することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断
力・表現力等】
4. レシピを見て一人で作ることが出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
5. 班員との協力または役割に応じた責任が不十分であるが、サポートを受けながら実習をすることができる。
【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
パティシエ実習Ⅰ (製菓製パン実習Ⅰ)	選択	生デ 食栄	1年 前学期	実習	1	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 食物栄養専攻科目		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	
教科書							
なし：毎回プリントを配布する。							
参考書・資料							
高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』時事通信社（2021）¥ 長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』八千代出版（2021）¥2,592「調理学」で購入済 山崎清子・島田キミ江他共著『NEW調理と理論 第2版』同文書院、2021 ¥3,080							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
実習着（コックコート）1回目授業で説明							
課題に対するフィードバック							
課題プリントは添削後、各自に返却							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ・実習着を着用する。 ・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。 ・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション、パータ・ケック	注意事項伝達、材料の取り扱い方、道具・オープンの扱い方、マフィン	/
	事前学習 10分	自分の家のオープンを知る	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。（初回授業で解説する）	
2	パータ・ジェノワーズ、生クリーム	スポンジ生地、共立て法：スポンジケーキ、生クリームの泡立て方	/
	事前学習 10分	スポンジケーキの作り方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。自分でスポンジ生地を作ってみる。	
3	パータピ・スキューイ、ゼラチン	スポンジ生地、別立て法：シフォンケーキ、卵白の泡立て ゼラチンの扱い方：オレンジゼリー	/
	事前学習 10分	ゼラチンの使い方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
4	パータ・ケック	バターケーキ生地：マドレーヌ	/
	事前学習 10分	バターケーキ生地の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
5	パータ・シュー	シュークリーム、カスタードクリーム	/
	事前学習 10分	シュークリームの作り方を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。シュー生地を作ってみる	
6	パートシュクレ・サブレ	クッキー生地：絞りだし・アイスボックス・型抜き	/
	事前学習 10分	クッキーの種類をしらべておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
7	パート・フィユテ	パイ生地：ラビッド法(リーフパイ・ジャムパイ)	/
	事前学習 10分	パイ生地の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

8	和菓子：あん、どら焼き	あんの作り方：粒あん、どら焼き（米粉）、桜餅	
	事前学習 10分	和菓子の種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
9	和菓子：もち生地	あんの作り方：こしあん、もち生地の扱い方：大福、草餅	
	事前学習 10分	餡について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
10	チーズのお菓子・カラギーナン	チーズの扱い方：焼きチーズケーキ、カラギーナンの扱い方：マンゴーゼリー	
	事前学習 10分	カラギーナンについて調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
11	チョコレート	チョコレートの扱い方、ブラウニー、	
	事前学習 10分	ココアとチョコレートの種類を調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
12	寒天	寒天について、フルーツ羹、アイスボックスクッキー焼成、メレンゲ	
	事前学習 60分	寒天について調べておく。ゼラチンとの違いは何か調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	
13	和菓子：上生菓子	練りきり	
	事前学習 10分	練り切りについて調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する	
14	まとめ	学修成果確認のための試験（実技テスト）：スポンジケーキ	
	事前学習 10分	スポンジケーキを復習、練習しておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。失敗の原因や疑問点を解決する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ベーカリー実習 (製菓製パン実習Ⅱ)	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻 (FC)		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
主に製パンの実習を基礎から理論と行う。製パン実習での素材の取り扱い方、こね方、発酵、焼成など、製パンのポイントをわかりやすく理論をもとに解説する。また種々のパンの特徴を学ぶ。習った項目の復習をし、1人で確実に作ることができるようにする。自分が作りたいパンを作る企画をたて、実行し発表する。							
成績評価方法							
プリントのまとめ方(30%)、学修成果のための試験(実技テスト)50%、平常点(学修意欲、履修態度、復習状況等)20%の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

到達(成績評価A)目標

- 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と技術を習得し、それを応用し実践できる。【DP1：知識・技能】
- 安全に配慮しながら正確に操作、行動ができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- うまくいかないときに、原因を分析し問題解決できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 失敗することなくおいしく販売可能なパンを一人で作ることが、計画だてて出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 自分で作りたいパンを考え、販売するまでの計画を立て、発表することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、役割に応じた責任を果たし、実習を進めることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

単位取得(成績評価C)目標

- 製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、製パンの基礎知識と基礎的技術を実践できるようになる。【DP1：知識・技能】
- サポートを得ながら、安全に実習することができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 実習する上で疑問に感じていることを指摘・発見することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- パンをレシピを見て一人で作ることが出来るようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 班員との協力または役割に応じた責任が不十分であり、サポートを受けながら実習をすることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ベーカリー実習 (製菓製パン実習Ⅱ)	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻 (FC)		特になし				6・7, 9, 12, 15, 16, 17	
教科書							
なし：毎回プリントを配布する。							
参考書・資料							
長尾慶子編：『調理を学ぶ (第3版)』 八千代出版 (2021) ¥ 2,592 「調理学」で購入済 山崎清子・島田キミ江他共著『NEW調理と理論 第2版』 同文書院、2021 ¥3,080 竹谷 光司 著『新しい製パン基礎知識 再改訂版』パンニュース社 (最新版) ¥							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
・課題作成時の基本材料以外は個人で準備・購入する							
課題に対するフィードバック							
課題プリントは添削後、各自に返却							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習着を着用する ・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。 ・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	オリエンテーション・掃除・実習	オリエンテーション、掃除、パン生地の扱い方	/
	事前学習 5分	パンの材料について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる(項目は初回授業で説明する)	
2	基本の生地	テーブルロール、白パン	/
	事前学習 15分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容を作ってみる。うまく出来なかったところを記録しておく	
3	外部講師	プロの製パン法を学ぶ	/
	事前学習 30分	プロの作り方とのちがいは何か、考えておく	
	事後学習 30分	講義内容をまとめ、感想を書く	
4	基本の生地	ピザ	/
	事前学習 30分	パンの種類について調べておく	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
5	基本の生地【オープンを使わず揚げる】	イーストドーナツ、カレーパン	/
	事前学習 30分	パン発酵の仕方、ポイントを調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
6	基本の生地	包餡	/
	事前学習 30分	パン生地の種類について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
7	基本の生地	デリカパン	/
	事前学習 30分	デリカパンの具材について調べる	
	事後学習 30分	実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	

8	フランスパン生地	ミニバタール・ベーコンエピ	
	事前学習 30分 事後学習 30分	フランスパンの材料、他のパンとの違い、作り方を調べる 実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
9	学修成果確認テスト	テーブルロールの実技テスト	
	事前学習 15分 事後学習 30分	実技テストの内容を練習する。 実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決させ、次の実習につなげる	
10	食パン生地 ・粉の種類の違い	イギリスパン 全粒粉食パン	
	事前学習 30分 事後学習 30分	食パンの種類を調べる。粉（全粒粉、ライ麦について調べる） 実習内容をまとめる。うまく出来なかったところの理由を分析し解決し、次の実習につなげる	
11	飾りパン	クリスマス パン	
	事前学習 30分 事後学習 30分	成形の仕方の種類を調べる 実習内容をまとめる。うまくできなかったところの理由を分析し、次の実習につなげる。	
12	パンの計画（課題）	自分のパンを考える	
	事前学習 30分 事後学習 30分	作る計画を立て準備する 計画表を作る	
13	パンの計画実践	パンの試作	
	事前学習 30分 事後学習 30分	作る計画を立て準備する 作ってみて改善点をみつける。課題の練習行う。	
14	まとめ	学修成果確認のための試験（課題の作成と発表） 実習内容の振り返り	
	事前学習 60分 事後学習 30分	実技テストの内容を練習する。 実習テスト内容をレポートにまとめる。全体を振り返り不明点を解決しておく	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
調理は栄養性が豊かに、旬の食材を考慮して食事計画を立案し、衛生的な調理操作・調味操作で嗜好を高めるように効果的に提供するすべての操作である。本科目では、食事計画、おいしさの要因、食品の調理性、調理・調味操作および調理器具・食器等についての基礎的な理論を学ぶことで、今後の食生活および食に関わる職場や家庭でそれぞれを利用できるようになる。また、食文化を背景とした各国の食事様式や環境への配慮を理解することで、豊富な選択肢の中からおいしく持続可能な食事計画を立て、豊かな食生活を送ることができる。							
成績評価方法							
定期試験(40%)、中間テスト(40%)、授業および小テストへの参加態度(20%)の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義をすべて述べることができ、多くの環境への配慮方法を挙げ具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性の代表的なものをすべてを、理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理論的にほとんど説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をほとんど体系的に説明できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについて理論的に説明することができ、日常食の食事計画に繋げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 多くの国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理論的に説明し、自分の意見を述べるができる。【DP1：知識・技能】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義をすべて述べることができ、1-2例の環境への配慮方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性の代表的なもの2-3を、理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理論的に説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をいくつか体系的に説明できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについて説明することができ、日常食の食事計画に繋げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 代表的な国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、理論的に説明することができる。【DP1：知識・技能】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義をいくつか述べることができ、1-2例の環境への配慮方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性を概説できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を概説できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法をいくつか説明できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについてまとめて説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2-3の国の食文化や行事食などの特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、主要な内容を概説することができる。【DP1：知識・技能】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> 調理の意義をいくつか述べることができ、環境への配慮方法が概説できる。【DP1：知識・技能】 各種食品の調理性を概説できる。【DP1：知識・技能】 非加熱及び加熱操作とそれらの器具の原理・要点を理解でき、いくつかの調理例を挙げることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 食品のおいしさの要因及びそれに関与する性質の主観的・客観的測定法を2つ以上説明できる。【DP1：知識・技能】 食事計画に関わることについて、いくつか説明することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 各国の食文化や行事食に関することをいくつか説明することができる。【DP1：知識・技能】 厨房設備、食器、容器、エネルギー源について、略述することができる。【DP1：知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				16	
教科書							
<ul style="list-style-type: none"> ・長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』 八千代出版（2021）¥ 2,592 ・日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本 2023 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2023）¥3,300（購入済） 							
参考書・資料							
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてプリントを配布する。 ・日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理飲料接客サービス技法（3級）』 職業訓練教材研究会（2022）¥3,718（履修者購入済） 							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
・小テスト等の解答および説明は、その都度行い知識を深める。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。 ・授業中指示がない限り、私語やスマートフォンの操作を禁じる。 ・授業中に講義内容が把握できたかどうか、毎回小テストで確認を行う。 ・中間および定期試験のための準備では、再度小テストの問題を解くようにする。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	調理の意義、調理と環境	調理学の意義・目的、エコロジークッキング	
	事前学習 15分	教科書p. 1～5、p. 179～190を読む。調理の意義・目的について予習する。	
	事後学習 120分	環境に配慮する調理には何が必要かを考える。次回小テストの準備	
2	調理と嗜好性、調味操作	おいしさの要因、機器測定と官能評価、調味操作	
	事前学習 60分	教科書P. 112～126を読む。おいしさの要因を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	嗜好と評価法および調味操作について復習する。次回小テストの準備	
3	植物性食品の調理性 1	米、米粉、いも類	
	事前学習 60分	教科書p. 14～29を読む。うるち米の炊飯過程を予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	いも類・米・米粉の調理性について復習する。次回小テストの準備	
4	植物性食品の調理性 2	小麦粉、その他の穀類・雑穀	
	事前学習 60分	教科書p. 30～47を読む。小麦粉の種類と調理法の予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	小麦粉、他の穀類・雑穀の調理性について復習する。次回小テストの準備	
5	植物性食品の調理性 3	豆・豆製品、野菜、果実	
	事前学習 60分	教科書p. 47～53を読む。野菜・果物の調理性について予習する。小テスト準備	
	事後学習 120分	豆・豆製品の調理性について復習する。次回小テストの準備	
6	植物性食品の調理性 4	種実類、きのこ、藻類、山菜	
	事前学習 60分	教科書p. 53～58を読む。藻類の種類について予習する。小テストの準備	
	事後学習 120分	種実類、きのこ・山菜の調理性を復習する。次回小テストの準備	
7	調理操作と器具、調理の機器・設備	非加熱操作・加熱操作、厨房機器・設備、新調理システム	
	事前学習 60分	教科書p. 127～149を読む。加熱操作の方法・使用機器をまとめる。	
	事後学習 120分	中間テスト範囲について復習する。	

8	中間テスト、動物性食品の調理性 1	中間テスト、肉類	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 59～71を読む。牛肉、豚肉、鶏肉の特徴を予習する。小テストの準備 肉類の調理性について復習する。次回小テストの準備	
9	動物性食品の調理性 2	魚介類	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 71～79を読む。魚臭の除き方についてまとめる。小テストの準備 魚介類の調理性について復習する。次回小テストの準備	
10	動物性食品の調理性 3	卵類、乳・乳製品	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 80～88を読む。鶏卵の調理性について予習する。小テストの準備 乳・乳製品の調理性について復習する。次回小テストの準備	
11	成分抽出素材の調理性	デンプン・ゼリー形成素材(寒天・カラギーナン他)、砂糖、油脂、嗜好飲料、うま味調味料など	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 89～110を読む。デンプンの調理性について予習する。小テストの準備 各種ゲル化剤の特性、油脂の調理性について復習する。次回小テストの準備	
12	食事計画	献立作成の条件・手順と方法、食事バランスガイド	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 152～166を読む。献立作成の手順について予習する。小テストの準備 献立作成上での注意点および食事バランスガイドについて復習する。次回小テストの準備	
13	食文化と食生活	日本と外国の食文化、行事食	
	事前学習 60分 事後学習 120分	教科書p. 167～178を読む。行事食の種類について予習する。小テストの準備 日本の食事と歴史、外国の食事と歴史について復習する。	
14	まとめ /全体の振り返り	全体の振り返り	
	事前学習 160分 事後学習 20分	定期試験の準備 定期試験内容の見直しと確認を行う。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				6・7, 9, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
調理理論に基づいた調理操作を科学的視野で学び、安全で衛生的に実習を行う。さまざまな調理素材、器具の特徴を理解し、素材の組み合わせや基本的な器具の扱い方を学ぶ。実習を通し「家庭料理技能検定3級」が取得できる知識と技術を身につける。また伝統料理の意義や調理法を理解し、行事食の実習を行う。包丁技術を上達させるために、きゅうりの輪切りを5mm以下に切ること、りんごの皮むきがきれいにできるようになる。到達度を評価するため、テーマに応じた献立の立案および実習を行い、その内容をレポートにまとめる。							
成績評価方法							
実習ノート50%、学修成果確認のための試験（実技テスト（きゅうりテスト・実習テスト・レポート）30%、平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況等）20%の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

到達（成績評価A）目標

- 調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の結びつきを、総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
- 様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、適切な調理・調味操作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を総合的に説明でき、日常の家庭調理における献立作成ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 安全で衛生的な調理をするための総合的な知識を習得し、実行できるようになる。【DP1：知識・技能】
- 家庭料理技能検定3級が合格できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 班員に配慮しつつコミュニケーションをとりながら実習することができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

単位取得（成績評価C）目標

- 調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
- 様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、基礎的な調理・調味操作ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 日本・西洋・中国料理及び行事食の基本的事項を理解し、日常の家庭調理における献立作成ができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- 安全で衛生的な調理をするための基本的な知識を習得し、実行できるようになる。【DP1：知識・技能】
- 家庭料理技能検定3級を受検できるレベルの調理技術を身につける。【DP1：知識・技能】
- 班員とコミュニケーションをとりながら実習することができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
調理学実習	選択	生デ	1年 後学期	実習	1	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS)		特になし				6・7, 9, 15, 16	
教科書							
高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験―基礎から応用まで―』時事通信社（2021）¥							
長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』八千代出版（2021）¥2,592 「調理学」で購入済							
日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022：3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店（2022）（購入済）							
参考書・資料							
参考書：・長尾慶子編：『調理を学ぶ（第3版）』八千代出版（2021）¥2,592「調理学」で購入済							
日本ホテル・レストランサービス技能協会監修：『西洋料理飲料接客サービス技法』職業訓練教材研究会（2022）¥3,718「レストランサービス論」で購入済み							
香川昭雄監修『家庭料理技能検定公式ガイド3級改訂版』女子栄養大学出版部（2022）¥2,640「食生活論」で購入済み							
資料：必要に応じてプリントを配布する							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
実習テストの際に、指定範囲以外の食材を各自で準備する。							
課題に対するフィードバック							
提出物は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ・授業開始前に身支度を整えて手洗いをしてから入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ・欠席が事前にわかる場合、当日欠席する場合ともに連絡をすること。 ・スマートフォン操作は実習結果撮影以外は原則禁止する。 ・包丁技術を上達できるように、普段から調理するように心がける 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	オリエンテーション、計量・包丁操作、実習	オリエンテーション、計量と包丁の操作について、ハムライス、スクランブルエッグ	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	ハムライス、スクランブルエッグの練習をし、できないところを記録する	
2	日本料理① 炊飯、出汁の取り方（かつお）、煮魚（味噌煮）・酢の物の調理	白飯、清汁、鯖の味噌煮、きゅうりの酢の物	/
	事前学習 15分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：出汁をとる	
3	西洋料理① 麺類について、出汁の取り方（鶏がら）、ゼラチンの調理	スパゲティミートソース、コーンスープ、ヨーグルトゼリー	/
	事前学習 20分	麺の種類、ガラスープの取り方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ゼラチンを使ってゼリーを作る	
4	西洋料理② 魚・野菜の調理、ルウの調理①、出汁の取り方（野菜、肉など）	コンソメジュリエンス、鮭のムニエル（粉ふき芋、いんげんのソティ）	/
	事前学習 20分	コンソメスープ、ムニエル、ベシャメルソース、粉ふき芋について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：ムニエルを作る	
5	日本料理② 味付け飯、和え物調理	栗ご飯、いわしのつみれ汁、青菜の胡麻和え	/
	事前学習 20分	味付け飯、魚のつみれ、青菜について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：味付け飯を作る	
6	日本料理③ もち米の調理、揚げ物調理、乾物の扱い方、煮物調理	赤飯、天ぷら（天つゆ）、切り干し大根の煮物	/
	事前学習 20分	餅米、揚げ物調理、乾物の扱い方について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：乾物を使った調理をする	
7	日本料理④ 寿司飯、卵の調理、蒸し物調理	ちらし寿司（信田巻） かきたま汁	/
	事前学習 20分	ずし飯、でんぷん、かきたま汁について調べてくる	
	事後学習 30分	実習内容についてまとめる。実習の復習：かきたま汁を作る	

8	セミナー「3・1・2弁当箱法」体験、中国料理（スープ）	「3・1・2弁当箱法」体験セミナー	
	事前学習 20分 事後学習 30分	弁当の詰め方について調べてくる 実習内容についてまとめる。実習の復習：自分の弁当を作る	
9	西洋料理③ 煮込み調理、ルウの調理②	ポークシチュー、サラダ(ヴィネグレットソース)、カスタードプリン	
	事前学習 20分 事後学習 30分	肉の軟化方法、サラダ、卵の凝固性について調べてくる 実習内容についてまとめる。実習の復習：きゅうりの輪切りの練習をしサラダを造る	
10	西洋料理④ ひき肉の調理、米・麦の調理	ハンバーグステーキ、ピラフ、マセドアンサラダ	
	事前学習 20分 事後学習 30分	ひき肉の調理、トマトソース、マヨネーズについて調べてくる 実習内容についてまとめる。実習の復習：ハンバーグステーキを作る	
11	行事食① クリスマス料理	若鶏の蒸し焼き、トマトサラダ、りんごのコンポート	
	事前学習 20分 事後学習 30分	クリスマス料理について調べてくる。りんごの皮むきの練習をする 実習内容についてまとめる。実習の復習：りんごの皮むきの練習	
12	行事食② 正月料理	栗金団、煎鶏、紅白なます、雑煮	
	事前学習 20分 事後学習 30分	自分の家の正月料理、雑煮について調べてくる 実習内容についてまとめる。実習テストの試作をする	
13	中国料理① 小麦粉の調理、貝類の調理、寒天の調理	鍋貼餃子、蛤蜊湯、牛奶豆腐	
	事前学習 20分 事後学習 30分	中国料理、調理法：炒める、小麦粉の調理、貝類の扱い方について調べてくる 実習内容についてまとめる。実習の復習：炒飯をつくる	
14	全体の振り返りと試験	後期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための実習テスト。実技テスト（きゅうりテスト）を行う	
	事前学習 20分 事後学習 30分	実習テスト施策、きゅうりの輪切り、りんごの皮むきの練習をしておく 実習を振り返り、今後調理することにかせるようにする	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食品衛生学(生デ)	選択	生デ	2年前学期	講義	2	みつほし 三星 さおり 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC、RS)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
生活に関する専門的知識・技能を仕事や家庭生活での実践に活かせるようになるために、本科目では、食品の安全性の現状と食品衛生の正しい知識、個人衛生と公衆衛生、環境衛生、日常の食生活および飲食業界における飲食の衛生管理と疾病の予防方法について学ぶ。さらに、食品衛生に関する一般的な知識として、食中毒、寄生虫、ねずみ、ゴキブリ、はえ、化学物質等による食品汚染や腐敗、変敗、輸入食品、遺伝子組み換え食品、食品添加物やアレルギー食品及び調理器具の取扱、洗浄について学ぶ。一般生活からフードコーディネーター、レストランサービスに活かすことができる。							
成績評価方法							
定期試験(55%)、小テスト(35%)、受講態度(10%)の総合評価。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

到達（成績評価A）目標

- ・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か具体例を挙げて説明できる。【DP1：知識・技能】
- ・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を具体的に説明できる。【DP1：知識・技能】
- ・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が説明でき、いくつかを実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- ・フードコーディネーターやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が説明できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

到達（成績評価B）目標

単位取得（成績評価C）目標

- ・飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何か概説できる。【DP1：知識・技能】
- ・食品に関係する病原性微生物、化学物質、有害物質などによる健康被害を未然に防ぐ方法を概説できる。【DP1：知識・技能】
- ・日常生活における食の衛生管理を実践するための要点が概説でき、一つ以上実践できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
- ・フードコーディネーターやレストランサービス等の業務に関連付けて食の衛生管理の要点が概説できる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食品衛生学(生デ)	選択	生デ	2年前学期	講義	2	三星 沙織	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC、RS)		特になし				16	
教科書							
小塚諭編著：『イラスト 食品の安全性 <第4版>』東京教学社(2021) ¥2,750 適宜補足プリントを配布する							
参考書・資料							
参考書 日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店(2022)、日本ホテル・レストランサービス技能協会監修：『西洋料理飲料接客サービス技法』職業訓練教材研究会(2019)							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
小テストは採点后、解説・返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁じる。 ・授業の進捗状況によってはスケジュールを変更することがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	食品衛生学と目的	我が国の食品衛生の現状、個人衛生と公衆衛生、法規	
	事前学習 5分	シラバスと教科書p. 1~22を読んでくる。	
	事後学習 15分	食品衛生とは何か、確認してノートにまとめる。	
2	食品の変質	微生物について、食品の腐敗、油脂の酸化、調理による変化	
	事前学習 10分	教科書p. 25~40を読んでくる。	
	事後学習 15分	食品の変質防止法を意識的に日常生活に取り入れるようにする。	
3	食中毒について1	食中毒の定義・分類・発生状況	
	事前学習 10分	教科書p. 44~50 を読んでくる。	
	事後学習 20分	食中毒の定義と病因物質別の分類を覚える。	
4	食中毒について2	細菌性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 67~86を読んでくる。細菌が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	細菌性食中毒のタイプと原因菌、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
5	食中毒について3	ウイルス性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 86~97を読んでくる。ウイルスが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	ウイルス性食中毒のタイプと原因ウイルス、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
6	食中毒について4	自然毒・化学性食中毒	
	事前学習 30分	教科書p. 50~65を読んでくる。自然毒が原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	自然毒、化学毒による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	
7	食中毒について5、食品による感染症	寄生虫、消化器系感染症	
	事前学習 30分	教科書 p. 63~ p 74を読んでくる。寄生虫、ねずみ、ゴキブリ、はえが原因でおこる食中毒の事例を調べてくる。	
	事後学習 15分	寄生虫による食中毒の原因物質、主な原因食品、症状等を整理しておく。	

8	食品衛生管理	一般衛生管理、HACCAPシステム、厨房の設計・図面・厨房計画、家庭における衛生管理	
	事前学習 15分 事後学習 15分	教科書p. 122～140を読んでくる。 家庭における衛生管理について意識して実践してみる。	
9	食品汚染1	カビ毒・農薬・抗生剤・抗菌剤・内分泌かく乱物質・容器・洗剤	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 143～155、174～185を読んでくる。 教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。	
10	食品汚染2	ダイオキシン・有害金属・異物混入・害虫・放射線物質	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 156～170、p. 227～229を読んでくる。 教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。	
11	食品添加物について	食品添加物の目的	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書 p. 187～196を読んでくる。 添加物のメリットデメリットについて考える。	
12	食品添加物と食品表示	おもな食品添加物、表示の読み方	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 196～214を読んでくる。身の回りの食品に添加されている食品添加物にはどのようなものがあるか5つ探してくる。 事前学習で見つけた添加物の添加目的と表示を確認する。	
13	食品の表示	食品表示制度、健康や栄養に関する表示の制度、アレルギー物質	
	事前学習 10分 事後学習 15分	教科書p. 231～250を読んでくる。特定保健用食品や遺伝子組み換え食品の表示がある食品にはどのようなものがあるか探してみる。 提示するプリントを基に、身の回りの食品について、表示を確認する。	
14	まとめ・厨房設備	厨房設備の実際、まとめ	
	事前学習 270分 事後学習 90分	これまでの学習内容を振り返り、食品衛生・食品の安全性確保に関する内容がわかるようにする。 定期試験に向けて、これまでの学習内容を振り返り、食品衛生・食品の安全性確保に関する内容がわかるようにする。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食文化論	選択	生デ 食栄	2年 前学期	講義	2	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
<p>本科目では食文化の基本的な考え方を学ぶ。食をコーディネートするには、食に関する文化的要素も欠かすことが出来ない。食は単に生命維持のためだけでなく、食事が文化的、社会的な役割を担うことを理解する。食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を学ぶ。自分で1つテーマを決めてプレゼンテーションを行う。</p>							
成績評価方法							
定期試験30%, 学修成果のための試験（小テスト、プレゼンテーション）50%, 受講態度・取組み姿勢20%の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
到達（成績評価A）目標
フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。 1. 食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化を総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて総合的に説明することができ、食生活を豊かにすることができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 3. 世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、特徴を説明することができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 4. レストランサービス技能検定過去問題（該当箇所）に間違えずに解答することができる【DP1：知識・技能】
到達（成績評価B）目標
単位取得（成績評価C）目標
フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。 1. 食の歴史、文化、風土について日本だけでなく世界の国々の食文化の基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 食文化についての知識を実生活に活用し、食品や料理を食文化と結びつけて基本的事項について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】 3. 世界各地の食事のマナー、宗教的タブーの知識を身につけ、基本的事項について説明することができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
食文化論	選択	生デ 食栄	2年 前学期	講義	2	よねやま ようこ 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	
教科書							
日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2023 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2022) (購入済み) 授業内でプリントを配布							
参考書・資料							
※RS取得希望者のみ 日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法(3版)』 職業訓練教材研究会 (2022) (購入済み)							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
・小テストは授業内で返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 单元ごとに小テストを行う (順番にファイルしておくこと) 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる (許可時以外の電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は不可) 3. 私語厳禁							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	食文化とは何か	食文化とは何か	
	事前学習 5分	食文化について学ぶ	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
2	日本食文化の歴史1	古代から室町時代まで	
	事前学習 20分	室町時代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
3	日本食文化の歴史2	安土桃山時代から現代まで	
	事前学習 20分	安土桃山時代から現代がどのような時代だったか理解しておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
4	西洋料理の食文化	西洋料理の食文化	
	事前学習 20分	西洋料理の食文化について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
5	中国の食文化の歴史	中国の食文化 中国料理の系統	
	事前学習 20分	中国の食文化についてしらべておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
6	日本料理1	行事食	
	事前学習 20分	行事食についてしらべておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
7	日本料理2	本膳料理 袱紗料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	

8	日本料理3	会席料理 会席料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく、また今までの復習をしておく	
9	日本料理4	精進料理 卓袱料理 普茶料理	
	事前学習 20分	日本料理について調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
10	中国料理の特徴	中国料理の特徴、各地域の料理の特徴などを学ぶ	
	事前学習 20分	自分の知っている中国料理についてまとめておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
11	色々な外国の食事	世界各地の食文化を学ぶ 食のタブー	
	事前学習 20分	色々な国の料理を調べる、食のタブーとは何か調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
12	食環境の現状	国際化の中の食事形態の多様性からみる現状、安全性、食育	
	事前学習 20分	食についての現状、ニュースを調べておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
13	和菓子・洋菓子・パンの歴史	洋菓子・パンの歴史を学ぶ。発表のテーマを選択する。	
	事前学習 20分	自分の知っている和菓子・洋菓子・パンにはどのようなものがあるか挙げてまとめておく	
	事後学習 20分	授業の復習をノートにまとめておく	
14	まとめ	授業のまとめ、学修成果のための試験（プレゼンテーション）、レポートにまとめ発表する	
	事前学習 60分	発表パワーポイント、レポート作成	
	事後学習 20分	全体を振り返り、疑問点を解決しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードデザイン・マネジメント論	選択	生デ 食栄	1年 後学期	講義	2	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
フードサービスビジネスに必要な食空間のデザインや施設管理、マネジメントの基本を講義し、空間プランニングやマネジメント実務を学習する。フードコーディネーター3級、レストランサービス技能士取得のために必要な知識を習得する。							
成績評価方法							
定期試験(30%) 小テスト(20%) 学修成果確認のための試験(口頭発表)(30%) 平常点(学習意欲・履修態度等)(20%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

--

到達(成績評価A)目標

フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。
1. 経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までを総合的にマネジメント出来るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2. 施設管理の知識を総合的に理解し説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
3. 食空間のデザイン、空間プランニングを総合的に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
4. レストランサービス技能検定過去問題(該当箇所)に間違いずに解答することができる【DP1：知識・技能】
5. フードコーディネーター3級過去問題を間違いずに解答することができる。【 DP1：知識・技能】

到達(成績評価B)目標

--

単位取得(成績評価C)目標

フードコーディネーター3級・レストランサービス技能士3級養成課程の規定科目である。
1. 経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までの基本的事項ををマネジメント出来るようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2. 施設管理の基本的知識について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
3. 食空間のデザイン、空間プランニングの基本的事項を説明できるようになる。【DP1：知識・技能】
4. フードコーディネーター3級の過去問題を解答することができる。【DP1：知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードデザイン・マネジメント論	選択	生デ 食栄	1年 後学期	講義	2	よねやま 米山 陽子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				16	
教科書							
日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2023 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2023)¥3,300 (購入済み)							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法(3版)』 職業訓練教材研究会 (2022) ¥3,718 (レストランサービス論購入済み) ※RS資格取得希望者のみ 必用に応じてプリントを配布する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
なし							
課題に対するフィードバック							
レポート、小テストは添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 单元ごとに小テストを行う 2. 教員の指示なしでのスマートフォン操作を禁ずる (許可時以外の電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は不可) 3. 私語厳禁							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	食空間と内装デザイン (1)	食空間の様々な内装	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 5分	授業の復習をノートにまとめておく	
2	食空間と内装デザイン (2)	食空間と内装デザイン	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	食空間についてノートにまとめ、復習しておく	
3	食空間と内装デザイン (3)	食空間と内装デザイン	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
4	食空間と内装デザイン (4)	食空間と内装デザイン	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	施設の知識をまとめ、わからないところ等をまとめておく	
5	食空間と内装デザイン (5) (6)	食空間と内装デザイン、施設設備	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
6	食空間と内装デザイン (7)	防災、施設の維持管理	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
7	苦情対応と遺失物の取扱い (1)	料飲サービスにおける不満・苦情 好ましくないお客への対応	/
	事前学習 15分	教科書を読んでもくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	

8	苦情対応と遺失物の取扱い (2)	遺失物の取扱い	
	事前学習 15分	教科書を読んてくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
9	フード・マネジメント (1)	現代フードサービス産業の歴史	
	事前学習 15分	教科書を読んてくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
10	フード・マネジメント (2)	経営の基礎知識	
	事前学習 15分	教科書を読んてくる	
	事後学習 30分	授業の復習をノートにまとめておく	
11	フード・マネジメント (3)	業態開発と出店計画	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店計画を考え、レポートにまとめておく	
12	フード・マネジメント (4)	事業計画書の作成	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店にかかわる事業計画を考えレポートにまとめておく	
13	フード・マネジメント (5)	開店業務と販売促進	
	事前学習 15分	教科書を読み、課題の内容を考える	
	事後学習 30分	授業の復習し、自分の出店にかかわる開店業務と販売促進を考えレポートにまとめておく。発表用パワーポイントの作成をする	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果の確認 (各自課題を口頭発表) する	
	事前学習 15分	全体の学習内容を振り返り、学修成果の発表を行う	
	事後学習 30分	全体を見直し、学修成果を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードプランニング論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	もりさき まゆか 森崎 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 16	
実務経験のある教員による科目							
フードコーディネーター1級の資格を有し、料理教室講師、パティシエを経て、フレンチ、イタリアンの厨房で経験を積み、独立。書籍・雑誌へのレシピ提供、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。「あんこのおやつ」、「焼かないケーキ」、「おうちおやつ」など、著書20冊以上手掛けた経験を有する教員より、フードプランニングについて学ぶ。							
授業の概要							
レストランサービスやフードプランニングに必要な知識と、企画を実践するために必要不可欠なスキルについて学ぶ。実際に各自でさまざまなプランニングシートを作成し、発表する。ケーススタディを通して、「食」に関するさまざまな場において、複雑な条件の調整、要求に応えられるような基礎的応用力を身につける。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 期末レポート(40%) 授業内課題(40%) 授業態度(20%)							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
レストランサービスやフードプランニングに必要な、メニューの歴史やプロトコール、プランニングの基本的な知識を学び、説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 食に関するさまざまな場（飲食店、小売店、イベントなど）において、複雑な条件を調整して満足できる状況を演出し、魅力的な企画書の作成や実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】 【DP3:主体性、多様性、協働性】							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
レストランサービスやフードプランニングに必要な、メニューの歴史やプロトコール、プランニングの基本的な知識を学び、説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 基本的な企画書の作成や実施ができるようになる。【DP1:知識・技能】 【DP2:思考力・判断力・表現力等】 【DP3:主体性、多様性、協働性】							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードプランニング論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	森崎 繭香	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC・RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 16	
教科書							
①日本フードコーディネーター協会編：『新・フードコーディネーター教本2022 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2022) ¥3,300							
②日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理飲料接客サービス技法 修正3版』 職業訓練教材 研究会 (2019) ¥3,718							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は各自に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる (活用する場合は指示する) 2. 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	教科書② 第1章 第5節：メニュー	プランニングの世界:実際の仕事内容/メニューの歴史、作成、構成	/
	事前学習 20分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
2	教科書② 第1章 第5節：メニュー	メニューの歴史、作成、構成	/
	事前学習 20分	教科書②P. 62～P. 73を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
3	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(1)	/
	事前学習 20分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
4	教科書② 第3章 第12節:食事の国際習慣	プロトコールについて(2)	/
	事前学習 20分	教科書②P. 148～P. 156を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
5	教科書① 12章:メニュープランニング	第1～4節	/
	事前学習 20分	教科書① P. 280～P. 284を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
6	教科書① 12章:メニュープランニング	第5～7節	/
	事前学習 20分	教科書① P. 284～P. 286を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
7	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(1)	/
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 20分	授業の復習	

8	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(2)	
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
9	教科書① 12章:メニュープランニング	プランニングシート作成(3)	
	事前学習 20分	教科書① 12章を復習しておく□おく	
	事後学習 20分	授業の復習	
10	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第1～2節	
	事前学習 20分	教科書① P. 288～P. 293を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
11	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	第3～6節	
	事前学習 20分	教科書① P. 294～P. 299を読んでおく	
	事後学習 20分	授業の復習	
12	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート(企画書)作成(1)	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
13	教科書①13章:食の企画・構成・演出の流れ	期末レポート(企画書)作成(2)	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 20分	授業の復習	
14	まとめ	期末レポートの総評と全体の振り返り	
	事前学習 20分	今までの復習をしておく	
	事後学習 なし	授業の復習	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードコーディネーター実習	選択	生デ食栄	2年前学期	実習	1	さの 佐野 みやび 雅	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC) (RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
カフェでのメニュー開発、厨房、料理家及びフードスタイリストのアシスタントを経て独立。書籍、雑誌、WEB広告等のフードスタイリングやレシピ開発を中心に活動。現在KIRINビール、KIRINビバレッジのSNS公式アカウントのフードコーディネーター及びスタイリングを担当中。							
授業の概要							
フードコーディネーター3級資格取得に必要なテーブルコーディネートの知識を実践を交えながら習得する。合わせて、レストランサービス技能士のサービスに必要な知識やマナーについて学び、実践する知識と技能を身につける。身近にある、食に関する様々なフードコーディネーターについて触れ、考察する。							
成績評価方法							
以下項目の総合評価とする 授業内課題(30%)、レポート(30%)、学修成果確認のための試験(20%)、授業態度(20%)							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

--

到達（成績評価A）目標

1. フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートを総合的に結び付けて考え説明することができる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2. フードコーディネーターとしてテーブルマナーとサービスについて学び、様々な状況や場面を考慮し、実践できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、主体的に業務に参画することができるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. フードコーディネーターの仕事を通じ、食についてより一層興味を持ち、周囲と協力しながら実習を進めることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

--

単位取得（成績評価C）目標

1. フードコーディネーターとして必要な食空間とテーブルコーディネートをいくつか結び付けて考えられるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
2. フードコーディネーターとしてテーブルマナーとサービスについて学び、基本的事項について実践できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. レストランサービス技能士として必要なサービスとマナーについて学び、正しい接客を身につけ、基本的事項について実践できるようになる。【DP1：知識・技能】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. フードコーディネーターの仕事を通じ、食についてより一層興味を持ち、実習を進めることができる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
フードコーディネーター 実習	選択	生デ 食栄	2年 前学期	実習	1	佐野 雅	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (FC) (RS) 食物栄養専攻科目 (FC)		特になし				3, 6・7, 9, 16	
教科書							
日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (購入済みのもの)							
参考書・資料							
日本ホテル・レストランサービス技能協会 監修：『西洋料理 飲料接客サービス技法 2版』 職業訓練教材研究会 (2019) ¥3,650 (RS資格、購入済み) 必要に応じてプリントを配布。参考書を適宜紹介する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削の後、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業の進行上、講義内容の順序を変更する場合がある。 2. 授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する） 3. 学生の迷惑になる行為をした場合は退席を求めることがある							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	第7章：食空間のあり方	食空間とは、食空間の基本的要素	/
	事前学習 15分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 40分	授業の復習。自分が好きな食空間について基本的要素を意識してまとめる。	
2	第9章：食空間とテーブルコーディネート	テーブルコーディネートの基本的理論、ビュッフェ・パーティーの種類	/
	事前学習 15分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 30分	授業の復習。	
3	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～洋食～ テーブルセッティング（晚餐・昼餐を含む）	/
	事前学習 30分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 30分	洋食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
4	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～洋食～ テーブルセッティング	/
	事前学習 30分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 30分	洋食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
5	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～和食～ テーブルセッティング	/
	事前学習 20分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 30分	和食のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
6	第9章：食空間とテーブルコーディネート	食空間の構成～中国料理～ テーブルセッティング	/
	事前学習 20分	教科書を読んでおく。	
	事後学習 30分	中国料理のテーブルコーディネートについて実習内容をまとめる。	
7	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルセッティング、テーブルコーディネートのまとめ	/
	事前学習 20分	洋食、和食、中国料理のテーブルセッティングを復習しておく。	
	事後学習 30分	実習の反省をおこない、改善点を見つけ、できなかった所を解決しておく。	

8	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習の結果、振り返りのレポート作成	
	事前学習 20分 事後学習 10分	実習での内容をまとめておく。PCの基本的操作の確認をしておく。 他の受講者の意見や考えをしっかりと聞き自分のコーディネートを客観視し考察する。	
9	第10章：テーブルマナーとサービス	テーブルマナー（西洋料理・日本料理・中国料理）	
	事前学習 15分 事後学習 30分	授業の復習。 テーブルマナーを意識した食事を実践してみる。	
10	第10章：テーブルマナーとサービス	サービスマナー、プロトコル、席次、宴会とレストランサービス	
	事前学習 15分 事後学習 30分	教科書を読んでおく。 料理や場面に応じた席次と、レストランサービスについて理解する。	
11	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルコーディネート企画書作成	
	事前学習 30分 事後学習 30分	今までの授業の復習、企画書の書き方（参考資料配布）について事前学習しておく。 授業の復習。	
12	第9章：食空間とテーブルコーディネート	実習：テーブルコーディネート企画書作成	
	事前学習 30分 事後学習 30分	今までの授業の復習、企画書の書き方（参考資料配布）について事前学習しておく。 授業の復習。	
13	第10章：テーブルマナーとサービス	テーブルマナーとサービスについて総復習、企画書の総評	
	事前学習 15分 事後学習 30分	今までの授業の復習 授業の復習。	
14	まとめ	まとめ 学修成果確認のための試験	
	事前学習 60分 事後学習 20分	学修成果確認のための試験の準備。 学修成果確認のための試験を振り返り、間違えたところを解決しておく。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	まじま くみ 真島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				17	
実務経験のある教員による科目							
ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、パリスト、3級レストランサービス技能士							
授業の概要							
レストランやホテルの現場で必要とされるメニュー、食材、飲料、食事用具などの基礎知識を、国家資格であるレストランサービス技能検定3級の学科問題に添って学習していきます。料飲サービスに携わる上で必要な接客の基本、おもてなしを学びながら、豊かで穏やかな社会生活をおくるための心構えなどお伝えしていきます。							
成績評価方法							
定期試験(60%) 取り組み姿勢(40%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

到達(成績評価A)目標

サービスマンとしての知識を身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側(お客様)の両方の立場を理解することができる。
おもてなしを学ぶことで、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにすることができる。
レストランサービス技能検定3級学科試験に合格するための基礎対策に取り組むことができる。
【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

単位取得(成績評価C)目標

サービスマンとしての知識を身につけ、「サービスとは何か」を学ぶことで、サービスをする側とされる側(お客様)の両方の立場を理解できるようになる。
おもてなしを学ぶことで、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにできるようになる。
レストランサービス技能検定3級学科試験に合格するための基礎対策に取り組むことができるようになる。
【DP1：知識・技術】 【DP2：思考力・判断力・表現力等】 【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス論	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	真島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				17	
教科書							
『西洋料理 料飲接客サービス技法 3版』 (2022) 監修：一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会 発行：一般財団法人 職業訓練教材研究会 ¥3,718							
参考書・資料							
『2023年度対策版 レストランサービス技能検定 学科試験問題と解答集 3級』発行：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥1,800 『3級レストランサービス技能検定実技試験 課題と解説DVD』監修：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥5,500							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業中の携帯電話の操作は指定するときのみとする。 2. 私語、居眠り厳禁。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	レストランサービスに関する一般的な知識	・接客の基本・食事のサービスマナー	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく。教科書の該当箇所を読んでおく。	
	事後学習 5分	授業の復習をする	
2	レストランサービスに関する一般的な知識	・客席案内・注文の取り方・テーブルサービス・サービス上での事故 対処①	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
3	レストランサービスに関する一般的な知識	・客席案内・注文の取り方・テーブルサービス・サービス上での事故 対処②	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
4	レストランサービスに関する一般的な知識	メニュー、料理名、メニュー構成	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
5	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識 1) フランス式サービス 2) ロシア式サービス、3) イギリス式サービス、4) アメリカ式サービス	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
6	レストランサービスの種類、準備および方法	サービスの準備に関する概略の知識 ・レストラン部門の組織・レストランの準備・客席のセッティング	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	
7	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識①	/
	事前学習 30分	授業の予習 (教科書の該当箇所を読んでおく)	
	事後学習 30分	授業の復習	

8	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識②	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
9	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識③	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
10	飲料の種類および特徴	飲料の種類および特徴の概略の知識④	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
11	レストランサービスに関する一般的な知識	西洋料理の食事用具、備品	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
12	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規①	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
13	安全衛生に関する詳細	レストランサービスにおける安全衛生に関する知識、労働安全衛生関連法規②	
	事前学習 30分	授業の予習（教科書の該当箇所を読んでおく）	
	事後学習 30分	授業の復習	
14	全体の振り返り	後期全体の学習内容を振り返り	
	事前学習 30分	今までの教科書や練習問題を復習しておく	
	事後学習 30分	試験で出来なかった所を見直し、翌年のレストランサービス技能士3級筆記試験へ向け学習を定着させる	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	まじま ぐみ 真島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				6・7	
実務経験のある教員による科目							
ホテル・レストランでのサービスマン、シニアソムリエ、パリスタ、3級レストランサービス技能士							
授業の概要							
レストランサービスに必要な食事用具の知識、テーブルセッティング、接客の基本を学習し、実践力を身につけます。接客力を身につけることにより、社会生活に役立つコミュニケーション力を豊かにします。国家資格であるレストランサービス技能士3級取得を目指すことを目標とします。							
成績評価方法							
学修成果確認のための実技試験(60%) 課題および取り組み姿勢(40%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

--

到達(成績評価A)目標

1. サーマンとしての知識を身につけ、テーブルマナーを体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を実践することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. サーマンとして、必要な知識を学び、実習を積むことで、正しい接客を実践することができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. サーマンとして、実習を学んだことで、実践的な接客(おもてなし)ができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを自ら進めることができる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
5. レストランサービス技能士検定3級に合格することができるようになる。【DP1：知識・技能】

到達(成績評価B)目標

--

単位取得(成績評価C)目標

1. サーマンとしての知識を身につけ、テーブルマナーを体験することにより、サービスを受ける側を理解した接客を実践することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
2. サーマンとして、必要な知識を学び、実習を積むことで、正しい接客を理解することができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. サーマンとして、実習を学んだことで、実践的な接客(おもてなし)が理解できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】
4. 周りに配慮しつつ、コミュニケーションをとりながらグループワークを進めることが理解できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
5. レストランサービス技能士検定3級を受験できるようになる。【DP1：知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
レストランサービス実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	真島 久美	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目 (RS)		3級レストランサービス技能士の資格取得を目指す人				6・7	
教科書							
『西洋料理 料飲接客サービス技法 3版』 (2022) 監修：一般社団法人 日本ホテル・レストランサービス技能協会 発行：一般財団法人 職業訓練教材研究会 (レストランサービス論で購入済み) ¥3,718							
参考書・資料							
『基礎からわかる レストランサービス スタンダードマニュアル』 (2020) 監修：日本ホテル・レストランサービス技能協会 発行：職業訓練教材研究会 ¥3,630 『2023年度対策版 レストランサービス技能検定 学科試験問題と解答集 3級』発行：日本ホテル・レストランサービス技能協会 ¥1,800							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
学外研修：テーブルマナー (¥3,000~¥5,000)							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 授業中のスマートフォン操作は指定するときのみとする。(電卓、検索機能及び記録のための撮影機能は可とする。) 2. 私語厳禁。 3. 授業の順番が進行により変わることがある。 4. 授業は200分/2コマ。 5. 筆記試験前(3級レストランサービス技能士受験)に対策講座を開くので参加する。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	接客マナー：テーブルサービス	1 正しい接客案内ができること	
	事前学習 15分	接客マナーについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	接客マナーについてノートにまとめておく。	
2	接客マナー・テーブルサービス①	3. 客席での販売促進ができること	
	事前学習 15分	テーブルサービス、客席での販売促進について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	テーブルサービス、客席での販売促進についてノートにまとめておく。	
3	接客マナー・テーブルサービス②	2. 正しく注文が取れること	
	事前学習 15分	テーブルサービスについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	テーブルサービス、注文の取り方についてまとめておく。	
4	接客マナー・テーブルサービス③	4 正しくオーダーを通せること	
	事前学習 30分	オーダーの通し方について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	オーダーの通し方についてノートにまとめておく。	
5	接客マナー・テーブルサービス④	5 伝票処理ができること	
	事前学習 15分	伝票処理の方法について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	伝票処理の方法についてノートにまとめておく。	
6	接客マナー・テーブルサービス⑤	6 パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングができること	
	事前学習 15分	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	パーティー、テーブル等の種類に応じた正しいセッティングについてノートにまとめておく。	
7	接客マナー・テーブルサービス⑥	7 料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットができること	
	事前学習 15分	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいテーブルセットについてノートにまとめておく。	

8	接客マナー・テーブルサービス⑦	8. 料理、飲料の正しい運搬が出来ること	
	事前学習 15分	料理、飲料の正しい運搬について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理、飲料の正しい運搬についてノートにまとめておく。	
9	接客マナー・テーブルサービス⑧	9 料理、飲料の種類に応じた正しいサービスができること	
	事前学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理、飲料の種類に応じた正しいサービスについてノートにまとめておく。	
10	接客マナー・テーブルサービス⑨	10. 食器類の後片付けが正しくできること	
	事前学習 15分	食器類の後片付けについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	食器類の後片付けについてノートにまとめ、実技を復習しておく。	
11	接客マナー・テーブルサービス⑩	11. 料理をこぼすなどの突発事態に正しく対処できること	
	事前学習 15分	料理をこぼすなどの突発事態についての対応について教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	料理をこぼすなどの突発事態についての対応についてノートにまとめておく。実技の復習をする。	
12	接客マナー・テーブルサービス⑪	12 テーブルの後片づけが正しくできること	
	事前学習 15分	テーブルの後片づけについて教科書を読み調べておく。	
	事後学習 30分	テーブルの後片づけについてノートにまとめておく。	
13	テーブルマナー	学外研修	
	事前学習 15分	テーブルサービス、テーブルマナーについて復習しておく。	
	事後学習 30分	テーブルマナーの反省と感想をまとめる。	
14	全体の振り返りと実技試験	前期全体の学習内容を振り返り、学修成果の確認のための実技試験	
	事前学習 30分	今までの実習の復習をしておく。 確認テストの準備をする。	
	事後学習 30分	実習を振り返り、わからないところを解決し検定試験に臨む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アパレル素材・管理学	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				5, 14, 15, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
アパレル製品を取り扱う際に必要となる、繊維素材と衣類の取り扱いについて学ぶ。繊維から糸、布、製品となるプロセスをたどりながら、各々の分類、構造と特性、加工法、デザインとの関連、文化的背景などを学んでいく。また、織物以外のアパレル素材の重要性と取り扱いについても知る。次に、洗浄、乾燥・仕上げ、保管などの被服管理について学び、アパレル製品を清潔で整った状態で保持するための知識と技能を身に付ける。衣類の廃棄・再利用と環境問題について学び、現代衣生活の在り方について関心を深める。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 授業内課題(40%) 実験レポート(40%) 受講態度(20%)							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル製品の素材特性について、科学的視点で具体的なアパレル製品と関連付けて説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・衣類管理のしくみと洗剤・仕上げ剤等・保管剤の成分や作用についての理論を理解し、実生活における被服管理行動の際に科学的な視点から適切な選択ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・繊維素材や被服管理に関する実験の目的と方法を理解し、実験班員の多様性を考慮しつつ主体的に結果と考察を導き出し、論理的なレポートの作成ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル製品の素材特性について、科学的視点で具体的なアパレル製品と関連付けることができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・衣類管理のしくみと洗剤・仕上げ剤等・保管剤の成分や作用についての基礎的理論を理解し、実生活における被服管理行動の際に参照することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・繊維素材や被服管理に関する実験の目的と方法を理解し、実験班員と協働して結果と考察を導き出し、レポートの作成ができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アパレル素材・管理学	選択	生デ	1年 後学期	講義	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				5, 14, 15, 16	
教科書							
プリントを配布する							
参考書・資料							
文化服装学院編『文化ファッション体系 服飾関連専門講座①アパレル素材論』文化出版局（2010）¥1,836 林雅子監修『被服管理学および実験』文化出版局（2004）¥3,146 増子富美 他著『生活科学テキストシリーズ 被服管理学』朝倉書店（2012）¥2,700							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
実験レポートと課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	アパレル素材と種類	アパレル産業と素材、繊維分類と性質、繊維の観察実験	
	事前学習 10分	シラバスを読む。	
	事後学習 30分	手持ちの衣類の素材と形態を観察し、今回の内容について理解を深める。	
2	織物の種類と性質	布とは、織物とは、織物の組織	
	事前学習 20分	手持ちの衣類のタグを見て、素材を観察してくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
3	織物の種類と模様	ファッション雑誌等を用いて模様の実例を調査する	
	事前学習 20分	手持ちの衣服の布の表面や模様を観察してくる。	
	事後学習 30分	手持ちの衣服の布の表面や模様を観察してくる。	
4	非繊維素材	レース、リボン、皮革、毛皮、アパレル副資材	
	事前学習 20分	所持している衣類の材料のうち、布以外のパーツを観察してくる。	
	事後学習 30分	販売されているアパレル製品の非繊維素材にも目を向け、理解を深める。	
5	衣類の汚れと被服衛生	被服管理とは、洗濯の仕組み、汚れの種類と性質、衣服内環境	
	事前学習 20分	衣服の汚れの要因は何か、予想を立ててみる。	
	事後学習 30分	衣類に付着する汚れや衣服内環境に関心を寄せて衣生活を送り、理解を深める。	
6	被服管理とは	家庭用品品質表示法、組成表示と取扱い絵表示	
	事前学習 30分	手持ちの衣類のタグを見て写真を撮ってくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
7	洗濯水について	軟水・硬水、金属石けん実験	
	事前学習 20分	自宅にある漂白剤の成分を調べてくる。	
	事後学習 30分	今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	

8	洗剤について	洗剤の種類、洗剤の成分、界面活性剤の働き、浸透・乳化実験	
	事前学習 20分 事後学習 60分	自宅にある洗濯洗剤の成分を調べてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
9	漂白剤と蛍光増白剤	漂白剤の種類、蛍光増白剤とは、白化比較実験	
	事前学習 20分 事後学習 60分	自宅にある漂白剤の成分を調べてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
10	洗濯後の仕上げ	柔軟剤と糊の働き、繊維素材とアイロンの温度設定	
	事前学習 20分 事後学習 60分	自宅にある柔軟剤の成分を調べてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
11	家庭洗濯と商業洗濯、洗濯機	適切な家庭洗濯の条件、洗濯機の種類、商業洗濯	
	事前学習 20分 事後学習 60分	クリーニング店に依頼する衣服の特徴をまとめてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
12	衣類の保管	アパレル製品の素材と季節による保管について	
	事前学習 20分 事後学習 60分	手持ちの衣類のタグを見て、保管方法を調べてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
13	アパレル製品と環境	繊維リサイクル、循環型被服管理	
	事前学習 20分 事後学習 30分	衣服にまつわる社会問題について調べてくる。 今回学んだ内容について実生活の中で実行してみる。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 20分 事後学習 30分	1～13回の学習内容を振り返り復習しておく。 授業で学んだことを自身の生活の中でどのように活かせるか考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション販売演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				4, 8, 9, 14, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
ファッション・アドバイザーとして主体的に店舗運営に参画できる能力を身に付けるため、ファッション小売業の販売業務に携わるために必要な知識・技能とコミュニケーション能力のレベルアップを目指す。はじめに、小売業について、接客、ストアオペレーション、販売における計数などを学ぶ。その後、ファッション商品、ファッション業界、ファッション商品のマーケティングなど、特にファッション商品販売に必要とされる知識・技能を学ぶ。アパレルショップの観察・調査を行い、実務の現場を知ることによって理解を深める。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 小テスト(40%) 演習課題(40%) 受講態度(20%)							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 商品知識を習得し、市場の多様なファッション商品の分類と特徴について具体的に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 アパレル販売の現場を観察し、商品・サービス提供者と生活者の両視点から、店舗やサービスの課題を指摘し改善案を提案できる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ファッション業界のしくみと小売りの業態、商品流通など、販売業務を取り巻く状況について理解し、企業における販売スタッフの役割を認識しつつ、サービス業務の質の向上について具体的に述べるができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> 商品知識を習得し、市場の多様なファッション商品の分類と特徴を列挙できるようになる。【DP1:知識・技能】 アパレル販売の現場を観察し、商品・サービス提供者と生活者の両視点から、店舗やサービスの課題を指摘できる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ファッション業界のしくみと小売りの業態、商品流通など、販売業務を取り巻く状況について理解し、サービス業務の質の向上について述べるができる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション販売演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				4, 8, 9, 14, 16	
教科書							
(財)日本ファッション教育振興協会:『ファッション販売3』(最新版) ¥2,268							
参考書・資料							
(財)日本ファッション教育振興協会『ファッション販売能力検定試験問題集3級 改訂版』 ¥1,440 織研新聞、月間『ファッション販売』(商業界)、各種ファッション雑誌							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
希望者のみ:ファッション販売能力検定試験 受験料5,500円(2020年参考)							
課題に対するフィードバック							
課題、ワークシート、小テスト等は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> 教科書は2回目の授業から使用する。書店で店頭販売していないことが多いので、早めに注文しておくこと。 授業内で小テスト・模擬テストを行う。実施日は事前に知らせるので欠席しないように。 検定試験の日程に合わせて、授業スケジュールを変更することがある。 授業中の私語やスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。 忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ファッション業界について	検定試験について、ファッション業界と職種、ファッションとアパレル	
	事前学習 30分	シラバスを読む。アパレル販売店へ足を運び観察する。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
2	ファッション小売業について	流通の構造、ファッション小売業の業種と業態	
	事前学習 20分	教科書 p. 8~12を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
3	お客様と店舗	店舗の機能とサービス、「顧客」とは、ライフスタイルショップ	
	事前学習 20分	教科書 p. 15~19を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
4	ファッション販売技術1	接客の基本動作とセールステクニック基礎	
	事前学習 20分	教科書 p. 20~31を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
5	ファッション販売技術2	お客様の購買動機と心理、お客様との接し方、ロールプレイング演習	
	事前学習 20分	教科書 p. 32~40を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	
6	ファッション販売技術3	包装と贈答	
	事前学習 20分	教科書 p. 41~45を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	包装技術を高めるために繰り返し練習する。	
7	商品知識1	アイテムの分類、商品名称とデザインイメージ	
	事前学習 20分	教科書 p. 46~51を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店へ足を運び観察し、授業内容について理解を深める。	

8	商品知識2	アイテムの分類と名称（レディス、メンズ、ニット、キッズ）	
	事前学習 20分	教科書 p. 51～75を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	
9	商品知識3	アイテムの分類と名称（インナーウェア、アクセサリ、雑貨）	
	事前学習 20分	教科書 p. 76～93を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	
10	商品知識4	シルエットとディテール	
	事前学習 20分	教科書 p. 102～117を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	ファッション雑誌やファッションサイト等を確認しアイテムについて理解を深める。	
11	店舗運営1	商品計画、仕入計画、品揃え、在庫管理の知識	
	事前学習 20分	教科書 p. 198～206を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
12	店舗運営2	販売スタッフの事務と商品管理、係数計算	
	事前学習 20分	教科書 p. 206～213を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	授業で行った内容を復習し、知識の定着を目指す。	
13	店舗演出とVP展開1	売り場環境づくりと演出、商品陳列とVP	
	事前学習 30分	教科書 p. 152～173を読み予習しておく。	
	事後学習 30分	アパレル販売店の売り場演出についてリサーチを行う。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 20分	1～13回の学習内容を振り返り復習しておく。	
	事後学習 30分	授業で学んだことを自身の生活の中でどのように活かせるか考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習 I	選択	生デ	1年前学期	実習	1	秋山 敦子・木林 祥子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目 該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし、提案できるようになるために、この科目では、編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識や技術を学び、生活に活かす力を身につける。「編み物」では、棒針編みとかぎ針編みの2種類の技法を学び、作品を制作する。「刺し子」の技法では、模様刺しと一目刺しの技法を学び、作品を制作する。「刺しゅう」の技法では、リボン刺しゅう、自由刺しゅう、区限刺繍の技法を学び、作品を制作する。							
成績評価方法							
作品・課題(80%)、受講態度(20%)で総合的に評価する。							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点): 以下参照

D(59-0点): 単位修得目標を達成できていない

Z: 評価対象資格失格

到達(成績評価S)目標

--

到達(成績評価A)目標

- ・編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を習得し、正しくきれいな作品を完成させることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・作品制作の趣旨を理解し、自ら問題を解決しながら作業を行い、制作に積極的に取り組むことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

到達(成績評価B)目標

--

単位取得(成績評価C)目標

- ・編み物と刺し子・刺しゅうの基礎的な知識と技術を概ね習得し、作品を完成させることができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】
- ・作品制作の趣旨を概ね理解し、サポートを得ながら、制作に取り組むことができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン実習 I	選択	生デ	1年前学期	実習	1	秋山 敦子・木林 祥子	オムニバス
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
教科書							
特になし							
参考書・資料							
適宜プリントを配布する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
<材料費> 編み物：約2,000～2,500円位（編み糸） / 刺し子・刺しゅう：約1,000～2,000円位（布、糸）							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン操作を禁ずる（活用する場合は指示する）。 ・材料については授業内に指示する。 ・忘れ物をしないこと。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス・リボン刺しゅう	授業概要の説明、世界の手芸品の鑑賞、リボン刺しゅうの小物制作	木林
	事前学習 10分	刺し子・刺しゅうの図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
2	「刺し子」の技法の習得1	刺し子の基礎（模様刺し）	木林
	事前学習 10分	刺し子について調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
3	「刺し子」の技法の習得2	刺し子の基礎（一目刺し）	木林
	事前学習 10分	一目刺しについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
4	「刺し子」の技法の習得3	刺し子布を用いた作品制作	木林
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 90分	作品を仕上げしておく	
5	「刺しゅう」の技法の習得1	刺しゅうの基礎（線を表すステッチ・面を表すステッチ）	木林
	事前学習 10分	刺しゅうについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
6	「刺しゅう」の技法の習得2	刺しゅうの基礎（区限刺しゅう）	木林
	事前学習 10分	区限刺しゅうについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
7	「刺しゅう」の技法の習得3	刺しゅう布を用いた作品制作	木林
	事前学習 10分	作品に必要な材料を準備しておく	
	事後学習 90分	作品を仕上げしておく	

8	「棒針編み」の技法の習得1	編み方の練習、記号図の読み方	秋山
	事前学習 15分	編み物について調べ関心を高める	
	事後学習 60分	編み方の復習をする	
9	「棒針編み」の技法の習得2	編み方の練習、作品制作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく、編み方の復習をする	
10	「棒針編み」の技法の習得3	作品制作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 150分	作品を編み進める	
11	「かぎ針編み」の技法の習得1	編み方の練習、記号図の読み方	秋山
	事前学習 10分	かぎ針編みについて調べ関心を高める	
	事後学習 60分	編み方の復習をする	
12	「かぎ針編み」の技法の習得2	編み方の練習、作品制作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 60分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく、編み方の復習をする	
13	「かぎ針編み」の技法の習得3	作品制作	秋山
	事前学習 15分	習得した編み方を確認しておく	
	事後学習 90分	授業内に終わらなかったことを終わらせておく	
14	「棒針編み」「かぎ針編み」作品の仕上げ	とじ方、糸始末の仕方、アイロンのかけ方	秋山
	事前学習 10分	作品を仕上げられるように準備しておく	
	事後学習 30分	学んだことを実生活で活かせるように、授業全体を振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン 実習Ⅱ	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、伝統工芸や手芸など手作業による物作りの現代社会における意義と重要性や、日本伝統の古布再生の文化を学び、技法の種類と特徴についての知識・技能を身に付ける。この科目では、特に染めと織りの技法を学ぶ。はじめに、必要な道具や用品、材料などの選び方・扱い方を修得する。次に、図案・型紙の制作、準備工程、加工工程と進み、手作業で作品を作ることの難しさと楽しさ、大量生産品との違い、制作時間がかかることなどを体験的に修得する。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 作品 (50%) レポート(20%) 受講態度(30%)							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸の技法を体系的に分類でき、各技法の特徴について具体的に述べるようになる。【DP1:知識・技能】 ・適切な道具、用具、材料を自ら選んで正しく使うことができ、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かしたデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化について理解し、自分の考えを含めて独自性のある作品制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・手工芸の技法を列挙でき、各技法の特徴について述べるようになる。【DP1:知識・技能】 ・道具、用具、材料を選び使う際に適切な資料を参照することができ、正しい手順を確認しながら作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を理解してデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・現代社会における手工芸の意義と重要性や日本伝統の古布再生の文化と関連付けて作品制作ができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】【DP3:主体性、多様性、協働性】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
テキスタイルデザイン 実習Ⅱ	選択	生デ	2年 前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
材料費(布、部品、ビーズ、など)約500円位～※個々のデザインによって前後する							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸染作業時は実験室で行い、それ以外は被服室で行う。進行の都合により、内容が前後することがある。 ・ 作業が遅れが生じた場合は、授業外の時間を使って進めておくこと。 ・ 各自で用意する材料については授業内に指示する。 ・ 授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。 ・ 忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・ 他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	織りと染めの手工芸、制作計画	手芸・工芸とは、手工芸の分類、染織工芸について、作品制作について	
	事前学習 30分	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	学んだ内容を念頭に置き、身の回りの手工芸に目を向ける	
2	「織り」技法の習得1	手織り作業(裂き織り)	
	事前学習 30分	裂き織りについて調べておく	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
3	「織り」技法の習得2	手織り作業(裂き織り)	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
4	「織り」技法の習得3	手織り布を用いた作品制作	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
5	「織り」技法の習得4	手織り布を用いた作品制作	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
6	「織り」技法の習得5	ビーズ織りを使った小物のデザイン	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
7	「織り」技法の習得6	手織り作業(ビーズ織り)、ビーズ織りを用いた作品制作	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	

8	「織り」技法の習得7	手織り作業（ビーズ織り）、ビーズ織りを用いた作品制作	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
9	「染め」技法の習得1	型染め、絞り染めのデザイン	
	事前学習 30分	染めに関する図書や作品に触れ関心を高める	
	事後学習 30分	次回までにデザインをまとめておく	
10	「染め」技法の習得2	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
11	「染め」技法の習得3	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
12	「染め」技法の習得4	染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作業の遅れがあれば進めておく	
13	「染め」技法の習得5	浸染作業	
	事前学習 30分	次の作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	作品を仕上げておく	
14	まとめ、作品提出	レポートまとめ、提出、作品講評	
	事前学習 30分	これまでに作成した作品を提出できるように仕上げておく	
	事後学習 30分	これまでの作品制作を振り返る	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション造形実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	はた くみこ 畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かで持続可能な生活をデザインし提案するために必要な能力を育むために、洋服がどのように、構成、縫製されているかを製作を通して学ぶ。最初に基礎縫い実習を行い、その後、採寸、型紙作り、衣服材料の選定、裁断、しるしつけ、本縫い、仕上げ、着装を行う。手作業で作品を作ることの難しさと楽しさ、大量生産品との違い、制作時間がかかることなどを体験的に修得する。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 作品 (50%) レポート(20%) 受講態度(30%)							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常で着用している衣服の構成、材料について説明できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・自分の体のサイズに合った衣服の縫製技能を身に付ける。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・適切な道具、用具、材料を自ら選んで正しく使うことができ、正しい手順で作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を活かしたデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常で着用している衣服の構成、材料について理解できるようになる。【DP1：知識・技能】 ・自分の体のサイズに合った衣服の縫製が実践できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・道具、用具、材料を選び使う際に適切な資料を参照することができ、正しい手順を確認しながら作業工程を進めることができ、手作業ならではの特徴を理解してデザインができるようになる。【DP1:知識・技能】【DP2:思考力・判断力・表現力等】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
ファッション造形実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	畑 久美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7	
教科書							
必要に応じてプリント配布							
参考書・資料							
授業内に適宜指示する							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
布・付属品等の材料(おおむね2,000円位～) ※各自で用意する材料については授業内に指示する。							
課題に対するフィードバック							
作品は評価ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間進度チェックを行う。予定進度より遅れている場合は、授業以外の時間に各自で実習し、追いつくこと。 ・遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること。余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取る。 ・授業中のスマートフォン操作を禁ずる(活用する場合は指示する)。 ・忘れ物をしたことにより授業が成り立たない場合には受講態度の評価を減点する。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	衣服の構成・材料、基礎縫い	衣服の構成(平面構成と立体構成)と製作方法、衣服材料 手縫い・ミシン縫いの基礎技法	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	身近な被服材料を調べてくる	
2	製作計画、パターン作成、裁断	採寸、型紙作成、布の扱い、裁断、印付け	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
3	しるしつけ	しるしつけ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
4	ワンピースの本縫い1	ロックミシンによる縫い代のしまつ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
5	ワンピースの本縫い2	ダーツ、タック	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
6	ワンピースの本縫い3	スカート後ろ中心、上下後ろ身頃をつなぐ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
7	ワンピースの本縫い4	ファスナー付け	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	

8	ワンピースの本縫い5	上下前身頃をつなぐ、脇と肩	
	事前学習 30分	配布プリントを読んてくる	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
9	ワンピースの本縫い6	見返し、見返しの始末	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
10	ワンピースの本縫い7	袖作り、袖付け	
	事前学習 30分	配布プリントを読んてくる	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
11	ワンピースの本縫い8	裾縫い	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
12	ワンピースの本縫い9	ホック付け、仕上げ	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
13	仕上げ	付属品・装飾	
	事前学習 30分	プリントを読み、作業の準備をしておく	
	事後学習 30分	進度が遅れている場合は追いつくようにする	
14	レポート作成、提出	仕上げ後、レポートの作成、作品提出、講評	
	事前学習 30分	レポート作成の準備をする	
	事後学習 30分	レポートの完成を確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
インテリアコーディネート演習	選択	生デ	2年後学期	演習	2	やまむらみほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				9, 11, 12, 15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かなコミュニケーション力を活かし、インテリアアドバイザーとして生活経営や社会活動に主体的に参画できるようになるために、前半では、インテリアを構成する各要素の基礎事項とプランニングの一般的なルールを学び、後半では前半で学んだ基礎知識を基に課題に取り組み、プレゼンテーションをする。また希望者はインテリアデザイン技能検定に必要な平面図、デザインコンセプト等を学習する。							
成績評価方法							
受講態度(20%) 学修成果確認のための授業ノート・作成物(60%)とプレゼンテーション(20%) の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し総合的に説明し、アドバイザーとして提案できるようになる【DP1:知識・技能】。各インテリアエレメントの機能と特徴を理解し、それらのコーディネートを図面を用いて表現し、論理的にプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、インテリアを活用する様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し総合的に説明し、提案できるようになる【DP1:知識・技能】。各インテリアエレメントの機能と特徴を理解し、それらのコーディネートを図面を用いて表現し、プレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に対して積極的に取り組み、インテリアを活用する様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す技能を習得し、提案できるようになる【DP1:知識・技能】。各インテリアエレメントの機能と特徴を理解し、それらのコーディネートを表現し、プレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、インテリアを活用する様々な場面を想定して検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
インテリアに関する基礎知識と、それらをコーディネートして表す基礎的な技能を習得し説明できるようになる【DP1:知識・技能】。各インテリアエレメントの機能と特徴を理解し、必要なプレゼンテーションができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。課題に取り組み、求められる内容を検討することができるようになる【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
インテリアコーディネート演習	選択	生デ	2年後学期	演習	2	山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				9, 11, 12, 15	
教科書							
必要な資料は適宜配布							
参考書・資料							
『インテリアデザイン技能検定公式テキスト』日本教育訓練センター ¥2,750 一般社団法人 日本室内意匠協会参照 https://interiordesigns.jp/							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止（指示のある場合は除く） ・私語厳禁 ・グループワークは各自責任をもち、協力して進める。 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	授業の目的及び方針の説明と部屋のコーディネートについて	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	授業方針の確認をする	
2	家具Ⅰ	家具の種類と役割、家具の寸法	/
	事前学習 30分	身近な家具の寸法を計測する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
3	家具Ⅱ	家具の配置計画 著名な家具のスケッチ	/
	事前学習 30分	家の家具や家具売り場を見ておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
4	照明Ⅰ	照明の種類と役割、著名な照明のスケッチ	/
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明をみておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
5	照明Ⅱ	照明計画	/
	事前学習 30分	自宅や店舗の照明をみておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
6	色彩Ⅰ	色彩の基礎と日本の伝統的色彩	/
	事前学習 30分	色彩の基礎を参照しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
7	色彩Ⅱ	色彩計画	/
	事前学習 30分	好きな居住空間の色彩を観察しておく	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	

8	平面図 I	1/50の平面図と縮尺	
	事前学習 30分	学習した図面の基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
9	平面図 II	1/100の平面図と縮尺	
	事前学習 30分	学習した図面の基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
10	コーディネート分析	学習した内容からコーディネートの分析を練習する	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
11	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習する	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
12	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
13	プレゼンテーションボードの作成	与えられた課題に対してコーディネートを考え、プレゼンテーションのためのボードを作成する。	
	事前学習 30分	学習したインテリアの基礎事項を復習し、発表内容を検討する。	
	事後学習 30分	学習した内容を確認する	
14	発表会と総括	発表会と振り返り	
	事前学習 30分	発表練習をする。	
	事後学習 30分	発表者のアイデアを確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマセラピー概論	選択	生デ	1年前学期	講義	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
日常生活において、心身の健康増進にアロマセラピーを役立てるという目標に到達するために、この科目では、アロマセラピーの基礎を学び、セルフケアに活かす知識を身につける。(公社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定のテキストを使用して、基礎知識や活用法、注意事項などについて学ぶ。また、基礎で知っておくべき9種の精油の嗅ぎ分けをしながら、各精油について学び、活用できる知識を身につける。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 定期試験 (80%) 小テスト (10%) 授業態度 (10%)							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達(成績評価S)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎的事項をしっかりと理解し、日常生活に知識を活かすことで、心身の健康増進に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の特徴をしっかりと理解し、効果的で適切な活用法を提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・セルフケア、販売業や福祉介護関係など、仕事でも役立てられる知識を身につけ、提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定2級に合格できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎的事項を理解し、日常生活に知識を活かすことで、心身の健康増進に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の特徴を理解し、効果的な活用法を提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・セルフケア、販売業や福祉介護関係など、仕事でも役立てられる知識を身につけ、提案することができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定2級に合格できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
到達(成績評価B)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎的事項を身につけ、日常生活の中で活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の基本的事項について説明することができる。【DP1:知識・技能】 ・心身のケアに役立てる知識を身につけられるようになる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定2級に挑戦できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎的事項を身につけ、日常生活の中で活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・9種の精油について、各精油の基本的事項について理解することができる。【DP1:知識・技能】 ・(公社)日本アロマ環境協会認定アロマセラピー検定2級に挑戦できるようになる。【DP1:知識・技能】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマテラピー概論	選択	生デ	1年前学期	講義	2	久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
教科書							
(公社) 日本アロマ環境協会：『アロマテラピー検定テキスト』（2020年6月改訂版） 2,640円 2回目の授業迄に準備(改定年度を間違えないように注意)。							
参考書・資料							
必要に応じて、授業中に説明する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
【希望者】アロマテラピー検定 受験料 6,600円(税込)							
課題に対するフィードバック							
時間内に小テストをおこない、振り返りをして不明点を確認する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
アロマテラピー検定対応テキストに沿って授業を進める。毎回、香りの嗅ぎ分けもおこなう。 ・授業の順番、あるいは内容を変更する場合がある。 ・私語および、携帯電話の使用を禁止する(活用する場合は指示をする)。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	アロマテラピーとは 検定について 精油の試香	/
	事前学習 10分	シラバスを読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
2	精油利用法Ⅰ	使用上の注意事項、芳香浴法① 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
3	精油利用法Ⅱ	吸入法、フェイシャルスチーム法、湿布法 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
4	精油利用法Ⅲ	沐浴法、トリートメント法、手作り化粧品 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
5	利用法Ⅳ、基材について	基材の種類 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
6	まとめと復習①	精油利用法について 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
7	基材について	基材の種類 精油嗅ぎ分け	/
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	

8	まとめと復習②	基材について 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
9	精油学 I	精油の定義・安全性 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
10	まとめと復習③	安全のための注意点 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習をする。	
	事後学習 60分	授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
11	精油額 II	精油の抽出法 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 30分	テキストの指定された範囲を読んでおく。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを復習する。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
12	精油学Ⅲ・まとめと復習④	精油の作用・精油の小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	テキストの指定された範囲を読んでおく。小テストの範囲を復習する。	
	事後学習 60分	ノートをまとめ、復習する 小テストの間違えを復習する。	
13	まとめと復習⑤	安全のための注意点 小テスト 答え合わせ 精油嗅ぎ分け	
	事前学習 60分	小テストの範囲を復習する。	
	事後学習 60分	小テストの間違えを中心に、復習をする。授業の内容についてノートをまとめ、復習する。	
14	総括	全体の振り返りと学修成果確認 9種の精油嗅ぎ分け	
	事前学習 300分	前学期全体の学習内容を振り返り、知識を確認する。	
	事後学習 90分	定期試験に備え、小テストで間違えたところを中心に直しをして、学習を定着させる。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマセラピー演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	くぼたひろこ 久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		検定合格を目指す学生は前学期概論履修を、資格を必要としない場合も概論履修者が望ましい。				3, 6・7, 9, 16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
はじめに、アロマセラピー概論で学んだ基礎知識を活かし、日用品を作成する。精油を用途に応じて選べるように学び、作成物を実際に使用して、考察をすることで、仕事や日常生活に活かせる応用力を身につける。次に、販売するために必要な関連法規や製品開発のポイントなどを学ぶ。班員で製品開発をおこない、資料を作成し、発表をすることで、実践力を身につける。アロマセラピー検定2級の合格を目指すこともできる。							
成績評価方法							
以下の項目の総合評価とする。 レポート (70%) 取り組み姿勢 (30%)							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎を総合的に理解して使用法、注意点などが適切に説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・状況に応じて、精油を選択し、ブレンドができ、提案し、説明ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用した考察に加え、応用し、独自のアイデアや提案をレポートに記述できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を提案できるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・積極的にプレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・プレゼンテーションの準備に取り組み、積極的に魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基礎を総合的に理解して使用法、注意点などが説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・状況に応じて、精油を選択し、ブレンドができ、説明ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用した考察に加え、応用のためのアイデアや提案をレポートに記述できるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・班員に配慮しつつ、コミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を提案できるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・積極的にプレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】 ・プレゼンテーションの準備に取り組み、魅力的な発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基本的事項について説明できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・用途に応じて精油が選択し、ブレンドができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用して考察し、関連することを調査し、まとめることができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・班員とコミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を考案し、プレゼンテーションの準備をし、発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピーの基本的事項について理解ができる。【DP1:知識・技能】 ・用途に応じた精油が選択できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・作成物を活用して考察し、まとめることができるようになる。【DP2:思考力・判断力・表現力等】 ・班員とコミュニケーションをとりながら、オリジナル製品を考案し、プレゼンテーションの準備をし、発表ができるようになる。【DP3:主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
アロマセラピー演習	選択	生デ	1年 後学期	演習	2	久保田 裕子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		検定合格を目指す学生は前学期概論履修を、資格を必要としない場合も概論履修者が望ましい。				3, 6・7, 9, 16	
教科書							
概論で使用した書籍（公社）日本アロマ環境協会：『アロマセラピー検定テキスト』（2020年6月改訂版） 2,640円							
参考書・資料							
授業中に説明する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
演習材料費 1050円 / 【希望者】アロマセラピー検定 受験料 6,600円(税込)							
課題に対するフィードバック							
レポートを添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業前半は、精油と基材を実際に使用して作成物を作って使用しながら身につけていく。 ・毎回レポートを作成し、無理なく基礎知識を身につけていく。 ・授業後半は、作成したものを参考にして、製品化することを班ごとに協力して行う。 ・授業の順番、内容を変更する場合がある。 ・私語および、携帯電話の使用を禁止する（活用する場合は指示する）。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス	前期の復習 芳香浴を体験 9種の精油の復習	
	事前学習 90分	シラバスに目を通す 概論で学んだことを復習をする。	
	事後学習 90分	芳香浴法についてまとめ、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
2	精油活用法復習、製品開発について	精油を効果的に使用する方法 沐浴法の部分浴 手浴法その他、吸入法、	
	事前学習 60分	芳香浴法以外の利用法の復習をする。作成したい製品について考え、記載しておく。	
	事後学習 60分	授業の復習をし、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
3	安全のための注意点Ⅰ	精油を効果的に使用する方法を学ぶ ルームスプレーを作成	
	事前学習 60分	使用する人による注意点の復習をする。作成物をどの精油を何の目的で選ぶのが良いかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
4	安全のための注意点Ⅱ	入浴と精油の相乗効果を得る バスソルトを作成	
	事前学習 60分	入浴の健康効果について調べ、沐浴後の心身の変化についてまとめる。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習しレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
5	暮らしに活かすⅠ	基材を活かして発泡入浴剤を作成	
	事前学習 60分	その他の基材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
6	暮らしに活かすⅡ	肌から精油の作用を活かすボディージェルを作成	
	事前学習 60分	水性の基材について復習する。作成物をどの精油を何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用し考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
7	基材論Ⅰ	ハーブの効果を活かしたハーブソープを作成	
	事前学習 60分	精油の安全性について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。	
	事後学習 90分	作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	

8	基材論Ⅱ	精油の抽出時に得られる蒸留水で作るスキンローション	
	事前学習 60分 事後学習 90分	精油の製造法について復習する。作成物をどの香りで何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。 作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
9	基材論Ⅲ	植物油と天然素材で作る保湿クリーム	
	事前学習 60分 事後学習 90分	植物油について復習する。作成物をどの精油で何の目的で選ぶかを予習してレポートに記入しておく。 作成物を使用して考察、また復習後、関連情報を収集し、レポートをまとめる。	
10	関連法規、販売戦略	製作・販売にあたっての関連法規や販売戦略について 作成物について各自発表後、制作グループ分け	
	事前学習 60分 事後学習 90分	これまでの復習をし、不明点が無いか確認する。①製品化するものを何にするか ②どのような物にしたいかについて考えまとめる。 関連法規を踏まえ、製品化するものを再考し、より具体的に何を作りたいかを考え、調べ、レポートをまとめる。	
11	製品開発	製品を販売する時に必要な準備 消費者に選んでもらうには何が必要か	
	事前学習 90分 事後学習 90分	作成したい製品について、授業で学んだことを踏まえ、より具体的に考えて情報収集をし、レポートにまとめ、発表に備える。 授業で学んだこと、グループで話し合ったことをもとに、より具体的に製品について考え、調べてレポートに記載をする。	
12	製品開発	パワーポイント作成、商品発表準備	
	事前学習 90分 事後学習 90分	製品作成に向けて準備、情報収集をする。 製品作成に向けて準備、情報収集をする。	
13	発表練習と改良点確認	発表準備、最終確認 事前発表	
	事前学習 90分 事後学習 90分	関連情報を収集し、発表の準備をする。 事前発表時の意見をふまえ、本発表に向けて最終確認をする。	
14	発表・総括・振り返り	発表・考察 レポートのまとめ	
	事前学習 90分 事後学習 60分	関連情報を収集し、発表の準備をする。 発表の振り返りをする。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
社会福祉概論（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目（社主事）		教科書購入者				15	
実務経験のある教員による科目							
居宅介護支援事業所の在職経験を有した教員より、社会福祉の理念、制度、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働の必要性について学ぶ。							
授業の概要							
生活するとはどういうことなのか、生活する上で社会福祉はどのように関与しているかについて基本的な考え方・理念を学ぶとともに、具体的な援助活動の特性を理解する。社会福祉サービスの多様化・専門化が進んでいる現代社会では、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働が必要であることを理解し、社会福祉に携わる専門職種について認識する。							
成績評価方法							
定期試験(60%) 受講態度(30%) 授業内レポート(10%) の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

社会福祉の十分な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、積極的に行動することができるようになる。

1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について十分な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて論理的な説明ができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について自身の表現で説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価A）目標

社会福祉の知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、行動することができるようになる。

1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて説明できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

到達（成績評価B）目標

社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識し、行動することができるようになる。

1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、自分の具体的な経験と結び付けて自分なりに説明できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携・協働の重要性について概ね説明できるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

単位取得（成績評価C）目標

社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考え、地域福祉の担い手であることを認識することができるようになる。

1. 一社会人としてわが国の社会保障制度について基礎的な知識を身につけることができるようになる。【DP1：知識・技能】
2. 社会福祉の知識を基礎にして、地域福祉の基本的な概念について、考えることができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】
3. 社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携の重要性について、考えることができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
社会福祉概論（生デ）	卒業必修	生デ	1年前学期	講義	2	中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目（社主事）		教科書購入者				15	
教科書							
松本峰雄、小野澤昇編著：『改訂 はじめて学ぶ社会福祉 第2版』 建帛社（2022） ¥2,200							
参考書・資料							
厚生労働省：『厚生労働白書』（最新版） 社会福祉法規研究会：『社会福祉六法』 新日本法規出版（令和5年版） ¥7,480							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
1. 講義を受けるだけでなく新聞、テレビなど社会福祉に関係する記事やニュースに常に関心をもつこと。 2. 授業中のスマートフォンの使用及び私語は禁止する。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	社会福祉とは（1）	社会福祉の理念	
	事前学習 20分	シラバス及び社会福祉の理念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の理念について復習する。	
2	社会福祉とは（2）	社会福祉の歴史	
	事前学習 30分	社会福祉の歴史について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉の歴史について復習し、現在に至るまでの過程を確認する。	
3	社会福祉制度（1）	子どもの福祉	
	事前学習 30分	子どもの福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	自分の誕生から現在までに経験した社会福祉サービスおよび社会保障制度について確認する。	
4	社会福祉制度（2）	障がい者の福祉	
	事前学習 30分	障がい者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	障がい者の福祉に関する法規について確認する。	
5	社会福祉制度（3）	高齢者の福祉	
	事前学習 30分	高齢者の福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	高齢者福祉に関する課題を整理する。	
6	社会福祉制度（4）	貧困と福祉、生活保護制度	
	事前学習 30分	貧困と福祉について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	生活保護制度がセーフティネットであることを確認する。	
7	社会保障とは（1）	社会保障の概念	
	事前学習 30分	社会保障の概念について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保障と自分との関係性について確認する。	

8	社会保障とは (2)	わが国の社会保険制度	
	事前学習 30分	わが国の社会保険制度について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会保険制度について復習し、次週の出前講座の質問事項を考える。	
9	社会保障とは (3)	江戸川年金事務所出前講座	
	事前学習 30分	年金保険制度について見直しておく。	
	事後学習 60分	出前講座で学んだことをまとめる。	
10	地域福祉の推進	地域福祉の推進主体と諸活動	
	事前学習 30分	教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 60分	自分の居住地の地域福祉の課題を考える。	
11	社会福祉の課題と動向 (1)	日本の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向 (日本) について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	日本が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
12	社会福祉の課題と動向 (2)	世界の動向	
	事前学習 30分	社会福祉の課題と動向 (世界) について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	世界が抱える社会福祉の課題と動向を考える。	
13	保育・教育・療育・保健・医療等の連携とネットワーク	社会福祉の施設と専門職	
	事前学習 30分	社会福祉の施設と専門職について、教科書の該当ページを読む。	
	事後学習 30分	社会福祉に関わる職種について確認する。	
14	まとめ	全体の振り返り	
	事前学習 60分	前学期全体の学習内容を振り返り、社会福祉の全体像を把握する。	
	事後学習 60分	学習を定着させ、社会福祉について学んだことをどのような場で活かせるかを考える。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護食実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7,9,15	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
咀嚼機能や嚥下機能が低下した高齢者や障がい者の方は、食形態を調整しないと上手に食べる事ができない。本授業では、高齢者や障がい者の身体的、精神的特徴を理解し、それらに適した調理の基本技術をマスターするため、歯茎でつぶせる硬さのものからゼリー状の形状のものまで様々な形状のものを実習し、高齢者・障がい者に適した食事作りの実習を行う。実習毎に介護食としての調理の工夫点についてまとめる。							
成績評価方法							
取り組み姿勢(40%) 実技(30%) 課題(30%) の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について論理的に理解し、自身の表現で詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 安全で美味しい介護食の食事作りの知識を理解し、自身の表現で詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. 安全で美味しい介護食の食事作りを、学んだ知識を意識しながら、役割に応じた責任を果たし、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価A）目標
1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 2. 安全で美味しい介護食の食事作りの知識を理解し、詳細に説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. 安全で美味しい介護食の食事作りを、学んだ基本知識を意識しながら、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、説明できるようになる。 2. 安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識を理解し、説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. 高齢者・障がい者のための安全で美味しい食事作りを、班員と協力して行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】
単位取得（成績評価C）目標
1. 高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解し、概要を述べることができるようになる。 2. 安全で美味しい介護食の食事作りの基本知識について概ね理解し、概要を説明できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 3. 高齢者・障がい者のための安全で美味しい食事作りを、行うことができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
介護食実習	選択	生デ	2年前学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				6・7,9,15	
教科書							
実習のテーマごとにプリントを配布する。							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容と順番を変更する場合がある。 ・欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、当日欠席する場合は、教員もしくは助手に連絡を入れる。 							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	ガイダンス、調理実習基礎	ガイダンス、実習の目的、心得、包丁の持ち方、計量方法、出汁の取り方、塩味の比較(おにぎり)、野菜の切り方、	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる。	
	事後学習 10分	高齢者にとっての食事の意味、献立を作る上で配慮すること、包丁の持ち方、野菜の切り方、計量、出汁のとり方について復習する。	
2	高齢者の軟菜食1	ユニバーサルデザインフードについて、介護用ゼラチンの使い方、 実習：ふわふわオムライス、いちごゼリー	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	ユニバーサルデザインフードと介護用ゼラチンの使い方について復習する。ワークシートを完成させる。	
3	高齢者の軟菜食2	高齢者の食の支援：高齢者の食事の意味、献立を作る上で配慮すること 実習：スパゲッティミートソース、りんごのコンポート	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	献立を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
4	高齢者の軟菜食3	高齢者の食の支援：食事を作る上で配慮すること 実習：ご飯、豆腐饅頭、かぼちゃ羊羹	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	食事を作る上で配慮する点について復習する。ワークシートを完成させる。	
5	高齢者の軟菜食4	高齢者の食の支援：食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点 実習：かつ丼、ヤクルトゼリーのにんじんソースかけ	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	食欲がない時の対応、食事を作る上での留意点について復習する。ワークシートを完成させる。	
6	高齢者の軟菜食5	嚥下しやすくする工夫 実習：パン、クリームポタージュ、海老白菜ロール	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	嚥下しやすくする工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
7	高齢者の軟菜食6	咀嚼しやすくする工夫(材料の選び方) 実習：ピザトースト、栗のポタージュ、黄桃缶ゼリー	
	事前学習 5分	配布されたレシピを読んでくる。	
	事後学習 15分	咀嚼しやすくする工夫(材料の選び方)について復習する。ワークシートを完成させる。	

8	予防食：減塩食	咀嚼しやすくする工夫（調理のポイント）、減塩の方法と調理の工夫 実習：ご飯、焼売、根菜汁	
	事前学習 5分 事後学習 15分	配布されたレシピを読んでくる。 咀嚼しやすくする工夫（調理のポイント）、減塩の方法と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
9	予防食：便秘予防食	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ）、便秘予防と調理の工夫 実習：ひじきご飯、おからの煮物、納豆汁、バナナとパイナップルのシェイク	
	事前学習 5分 事後学習 15分	配布されたレシピを読んでくる。 咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ）、便秘予防と調理の工夫について復習する。ワークシートを完成させる。	
10	行事食：年越しそば	咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ、切り方） 実習：とろろそば、天ぷら、トマトサラダ	
	事前学習 5分 事後学習 15分	配布されたレシピを読んでくる。 咀嚼しやすくする工夫（下ごしらえ、切り方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
11	行事食：お正月料理	咀嚼しやすくする工夫（切り方） 実習：お雑煮、カステラのシロップ漬け	
	事前学習 5分 事後学習 15分	配布されたレシピを読んでくる。 咀嚼しやすくする工夫（切り方）について復習する。ワークシートを完成させる。	
12	行事食：クリスマス料理（立案）	クリスマス料理の立案	
	事前学習 10分 事後学習 20分	クリスマス料理の献立とレシピについて考えてくる。 立案した献立について自宅で作成し、レシピを修正する。	
13	ムース食	嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、ムース食について 実習：粥、味噌汁、焼き鮭、ほうれん草のおひたし、あんパン豆乳シェイク	
	事前学習 5分 事後学習 15分	配布されたレシピを読んでくる。 嚥下について、介護用食器、食事介助の方法、ムース食について復習する。ワークシートを完成させる。	
14	行事食：クリスマス料理（実習）	クリスマス料理実習テスト	
	事前学習 10分 事後学習 60分	作成する料理の手順について見直してくる。 実習のレポートを作成する。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
福祉住環境コーディネーター概論	選択	生デ	2年前学期	講義	2	やまむらみほり 山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
福祉住環境コーディネーター3級に必要な知識全般について、豊かなコミュニケーション力を活かし、生活経営や社会活動に主体的に参画できるようになるために、テキストを用いて基礎から学び、同時に知識の確認のために練習問題を解く。							
成績評価方法							
定期試験 (70%) 受講態度 (20%) 提出物 (10%) の総合評価							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
福祉住環境コーディネーター3級に求められる高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を正確に理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例から、現場で求められる機能や特徴を調べ、説明できるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。							
到達（成績評価A）目標							
福祉住環境コーディネーター3級に求められる高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な知識を概ね理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例から、現場で求められる機能や特徴を調べ、説明できるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。							
到達（成績評価B）目標							
福祉住環境コーディネーター3級に求められる高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な基本的な知識を理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例から、現場で求められる機能や特徴を抽出することができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。							
単位取得（成績評価C）目標							
福祉住環境コーディネーター3級に求められる高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境に関する福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要な最も基本的な知識を理解し、説明できるようになる【DP1:知識・技能】。具体的な介護施設の事例から、現場で求められる機能や特徴を理解することができるようになる【DP2:思考力・判断力・表現力等】。							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
福祉住環境コーディネーター概論	選択	生デ	2年前学期	講義	2	山村 美保里	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		特になし				16	
教科書							
『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』東京商工会議所（改訂6版）¥2,750 授業では最新版を使用する。購入時は、東京商工会議所検定試験情報参照 https://www.kentei.org/fukushi/ で最新版を確認すること。特にインターネットで古書を利用する場合は、必ず最新版であることを確認するように。							
参考書・資料							
受験希望者は過去問題集を用意することを推奨する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
福祉住環境コーディネーター検定試験3級 受験料 ¥5,500							
課題に対するフィードバック							
特になし							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話の操作禁止 ・私語厳禁 ・他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	暮らしやすい住環境をめざして(1)	少子高齢社会と共生社会への道	/
	事前学習 5分	シラバスを読んでおく	
	事後学習 10分	授業方針を確認する	
2	暮らしやすい住環境をめざして(2)	福祉住環境整備の重要性と必要性	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
3	暮らしやすい住環境をめざして(3)	在宅生活の維持とケアサービス	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
4	健康と自立をめざして(1)	高齢者の健康と自立	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
5	健康と自立をめざして(2)	障がい者の生活と自立	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン(1)	ユニバーサルデザイン	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
7	バリアフリーとユニバーサルデザイン(2)	共用品と福祉用具	/
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

8	安全・安心・快適な住まい(1)	屋内の段差解消	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
9	安全・安心・快適な住まい(2)	インテリア	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
10	安全・安心・快適な住まい(3)	玄関から屋外	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
11	住生活とまちづくり(1)	ライフスタイルの多様化	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
12	住生活とまちづくり(2)	住環境整備	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
13	住生活とまちづくり(3)	人にやさしいまちづくり	
	事前学習 30分	教科書の該当箇所を読んでおく	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	
14	総復習と福祉住環境の今後の展望	第1回～第13回までの総復習と、先進事例についてのディスカッション	
	事前学習 30分	これまでの小テストを確認する	
	事後学習 30分	授業内容を復習する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス論 (医療事務)	選択	生デ	1年 前学期	講義	4	ないとう まき 内藤 麻紀	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全14回の授業に参加する者(遅刻・欠席・早退不可)				—	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
豊かなコミュニケーション力を活かし、医療事務スタッフとして主体的に業務に参画できるようになるために、医療保険制度を基礎から学習し、専門職としての知識を身につける。主に、医療機関が診療行為によって発生する費用を請求する際に作成する、レセプト(請求のための用紙)の書き方と請求費用の計算方法について学習する。書き方と計算方法は「注射」「手術」「検査」など医療行為によって異なるため、行為ごとに学び、医療事務に関する専門的知識・技能を仕事での実践に活かせるようになる。							
成績評価方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・13回分のレポート提出と添削内容(50%) ・受講態度(25%) ・定期試験(25%) の総合評価							
成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達(成績評価S)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、総合的な知識を有し、レセプトの記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・医療機関で事務員として働くために必要な知識を十分に身につけ、実践できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・受講態度が良好で、学修成果確認のための試験の点数が90%以上の者。且つ、全13回のレポート全て80%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】 ・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の合格に必要な知識を有し、具体的に説明したり、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
到達(成績評価A)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、知識を有し、レセプトの記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・医療機関で事務員として働くために必要な知識を身につけ、実践できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・受講態度が良好で、学修成果確認のための試験の点数が80%以上の者。且つ、全13回のレポート全て70%以上の成績であること。【DP1:知識・技能】 ・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」の合格に必要な知識を有し、具体的に説明したり、記述できるようになる。【DP1:知識・技能】 							
到達(成績評価B)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、基本的な知識を有し、レセプトの解釈ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・医療機関で事務員として働くために必要な基礎的知識を身につけ、使用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・受講態度が良く、学修成果確認のための試験の点数が70%の者。且つ、全13回のレポート全て60%以上であること。【DP1:知識・技能】 ・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」を受験するために必要な知識を有し、基本的事項の説明、記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 							
単位取得(成績評価C)目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬請求の算定方法並びにレセプトの書き方について、基本的な知識を有し、レセプトの解釈ができるようになる。【DP1:知識・技能】 ・医療機関で事務員として働くために必要な基礎的知識を身につけ、使用できるようになる。【DP1:知識・技能】 ・受講態度が良く、学修成果確認のための試験の点数が60%の者。且つ、全13回のレポート全て50%以上であること。【DP1:知識・技能】 ・技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」を受験するために必要な知識を有し、基本的事項の説明、記述ができるようになる。【DP1:知識・技能】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス論 (医療事務)	選択	生デ	1年 前学期	講義	4	内藤 麻紀	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全14回の授業に参加				—	
教科書							
株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式 ¥20,530 (学校にて注文)							
参考書・資料							
必要に応じてプリント配布							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
医療事務管理士技能認定試験を受験する場合は、別途費用が掛かります。							
課題に対するフィードバック							
課題は添削の後、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で新しいことを学ぶため、各授業での内容を理解した上で次の授業に臨むこと。 ・教材を使い、各自、授業内容の理解に努めること。 ・毎回、レポートを課すので、次回の授業までに作成すること。 ・資格試験に合格することを目標とするため、全14回の参加を求める。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	医療制度と請求業務	病院概要・保障制度・請求事務の基本・レセプト(請求用紙)の基礎	
	事前学習 5分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
2	点数算定の原則・診察料(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
3	診察料(2)・医学管理(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
4	医学管理(2)・在宅医療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 30分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
5	投薬(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
6	投薬(2)・注射	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
7	処置(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分	医療事務に関する用語を調べておく。	
	事後学習 60分	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	

8	処置(2)・リハビリテーション・検査(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
9	検査(2)・病理診断	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
10	手術	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
11	麻酔・画像診断(1)	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
12	画像診断(2)・精神科専門療法・放射線治療	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
13	入院	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	
14	他制度・レセプトの点検	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ。	
	事前学習 10分 事後学習 60分	医療事務に関する用語を調べておく。 復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス演習	選択	生デ	1年 前学期	演習	2	なかの 中野 みやこ 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン専攻科目の「医療事務サービス論」履修者				16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、医療事務管理士技能認定試験に合格できる力を身につける。							
成績評価方法							
定期試験(50%) 受講態度(30%) 演習課題(20%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
到達（成績評価A）目標
<ul style="list-style-type: none"> 各診療報酬の算定方法を理解し、ミスなく確実に計算できるようになる。【DP1：知識・技能】 医療事務管理士技能認定試験学科及び実技に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら計画的に取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】
到達（成績評価B）目標
単位取得（成績評価C）目標
<ul style="list-style-type: none"> 各診療報酬の算定方法を理解し、計算できるようになる。【DP1：知識・技能】 医療事務管理士技能認定試験学科に合格できるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】 「外来」「入院」のレセプト作成及び「レセプト点検」問題を自ら取り組むことができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
医療事務サービス演習	選択	生デ	1年前学期	演習	2	中野 都	単独
科目区分		履修条件				AL	
生活デザイン専攻科目		生活デザイン専攻科目の「医療事務サービス論」履修者				16	
教科書							
株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式 ¥20,530 (学校にて注文)							
参考書・資料							
社会保険研究所 医科診療報酬点数表 令和4年4月版							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
課題は添削ののち、各自に返却する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務サービス論」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。「医療事務サービス論」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。							

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当者
1	医療保障制度	医療機関・医療保障制度・保険給付及び医療事務管理士技能認定試験勉強について	
	事前学習 5分	シラバスを読み、「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療保障制度の練習問題に取り組む。	
2	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(1)	医療事務の基礎知識 初・再診料	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医療事務の基礎知識、初・再診料の練習問題に取り組む。	
3	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(2)	医学管理	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	医学管理の練習問題に取り組む。	
4	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(3)	在宅医療	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	教科書の練習問題に取り組む。	
5	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(4)	投薬	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 120分	トレーニングブック1~2号のレセプトを作成する。	
6	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(5)	注射	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 180分	トレーニングブック3~5号のレセプトを作成する。	
7	各診療報酬の算定方法とレセプト作成(6)	処置	
	事前学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。	
	事後学習 60分	トレーニングブック6号のレセプトを作成する。	

8	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (7)	リハビリテーション・検査 (1)	
	事前学習 60分 事後学習 180分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック7~9号のレセプトを作成する。	
9	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (8)	検査	
	事前学習 60分 事後学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック10号のレセプトを作成する。	
10	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (9)	病理診断・手術・麻酔	
	事前学習 60分 事後学習 120分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック11~12号のレセプトを作成する。	
11	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (10)	画像診断	
	事前学習 60分 事後学習 180分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック13~15号のレセプトを作成する。	
12	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (11)	精神科専門療法・放射線治療	
	事前学習 60分 事後学習 60分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック16号のレセプトを作成する。	
13	各診療報酬の算定方法とレセプト作成 (12)	入院	
	事前学習 60分 事後学習 360分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習する。 トレーニングブック17~20号のレセプトを作成する。	
14	点検・まとめ	レセプトの点検	
	事前学習 180分 事後学習 180分	「医療事務サービス論」の授業内容を復習し、前学期の学習内容を振り返る。 学習内容を把握し、医療事務管理士技能認定試験に臨む。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活数理演習	—	生デ	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔生デ〕		入学準備学習の数学試験で基準点を越えられなかった者				6・7	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、家政専攻科目における必須知識、特に最重要とされる数学・科学的知識に焦点をあてて、ものの長さ・面積の測り方、重さ・容積の量り方、濃度、希釈に関する考え方などについて、細かい手先の作業や科学的思考を通じて繰り返し練習し、他の専攻科目への導入とする。							
成績評価方法							
受講態度(20%)、実技課題(30%)、筆記小テスト(50%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格
到達（成績評価S）目標
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を総合的に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、総合的に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】
到達（成績評価A）目標
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、十分にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、十分にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を十分に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、十分に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】
到達（成績評価B）目標
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、大方できるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、大方できるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を大方活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、大方実行できるようになる。【DP1:知識・技能】
単位取得（成績評価C）目標
(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識をある程度活用できるようになる。【DP1:知識・技能】 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、ある程度実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
生活数理演習	—	生デ	1年前学期	演習	1	前田 康智	単独
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔生デ〕		入学準備学習の数学試験で基準点を越えられなかった者				6・7	
教科書							
なし（毎回資料を配布する）							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用（自己負担）							
特になし							
課題に対するフィードバック							
授業の後半で解説し、授業中にできるだけ解決できるようにする。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回演習課題を課す。 ・13回目の授業では実技試験を行い、さらに次回14回目の授業における学修成果の確認のための試験対策を行う。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	ガイダンス、到達度状況確認テストの復習／大きい数字/型切り練習1	被服実習室の利用、到達度状況確認テストの復習、生活に関する大きい数字、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	/
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
2	小さい数字/長さを測る、線を引く	生活に関する小さい数字、長さの単位の理解、竹定規で長さを測る、直線を引く	/
	事前学習 60分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
	事後学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
3	物を分ける/型切り練習2	生活に関する長さ等の等分、等分に練習、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	/
	事前学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
	事後学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
4	マイナスと金額計算/図形の描画1/小テスト1	生活に関するマイナスとお金の計算、図形を描く練習/1～3回目授業の確認小テスト	/
	事前学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
	事後学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
5	倍・分割と金額計算/図形の描画2	生活に関する倍・分割とお金の計算、平行垂直を描く練習	/
	事前学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
6	概数とおつりの計算/図形と模様切り練習1	生活に関する概数とおつりの計算、多角形作成と細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	/
	事前学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
7	割合とグラフ/図形と模様切り練習2/小テスト2	生活に関する割合の計算、グラフ描画と細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）/4～6回目授業の確認小テスト	/
	事前学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	割合の計算とグラフ描画を確認する	

8	比・割合1/模様切り練習1	長さを比で分ける、細微な模様切り (はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	割合の計算とグラフ描画を確認する	
	事後学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
9	比・割合2/模様切り練習2	長さを比で分ける、細微な模様切り (はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
	事後学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
10	容積と計量カップ・スプーン/模様切り練習3	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算、細微な模様切り (はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	比・割合の計算の方法を確認する	
	事後学習 60分	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算について確認する	
11	重さと重さの単位、重さの計算/模様切り練習4	重さの単位、重さの計算、細微な模様切り (はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	容積の単位、計量カップ・計量スプーンによる計算について確認する	
	事後学習 60分	重さの単位、重さの計算について確認する	
12	希積の計算/電卓の使い方/小テスト3	希積、電卓計算の方法、実技試験の準備/7~11回目授業の確認小テスト	
	事前学習 60分	重さの単位、重さの計算について確認する	
	事後学習 60分	希積、電卓計算の方法について確認する	
13	実技部分における課題 (測量と測定)	実技部分における全体の振り返り、測量と測定の実技課題	
	事前学習 60分	希積、電卓計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	これまでの授業で行った内容を振り返り、実技で苦手とする部分について確認する	
14	生活計算における総まとめ	全体の振り返りとして、1~12回目授業の確認小テストと生活計算全般におけるまとめ	
	事前学習 60分	これまでの授業で行った内容、主に計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	これまでの授業で行った内容を振り返り、筆記 (計算) で苦手とする部分について確認する	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、入学時の試験成績によりクラス分けされた上位者を対象とし、1年次後学期に開講される卒業必修科目でやはり学力レベルによってクラス分けされる「英語コミュニケーションⅠ」の上位クラスで学習するために必要な基礎事項を、文法を中心に、コミュニケーションに必要な事項とともに学習する。							
成績評価方法							
取組姿勢 (25%) 小テスト (30%) 定期試験 (45%) の総合評価							
成績評価基準ループリック【ディプロマ・ポリシー】							
成績評価基準							
S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照 D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：評価対象資格失格							
到達（成績評価S）目標							
到達（成績評価A）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をかなり修得する。【DP1：知識・技能】 							
到達（成績評価B）目標							
単位取得（成績評価C）目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり修得できている。【DP1：知識・技能】 ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を相当程度修得している。【DP1：知識・技能】 ・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】 							

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習a	—	共通	1年 前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習 a クラスに該当する者				6・7,16	
教科書							
大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）¥2,090 標準英語スキルズと同じ							
参考書・資料							
必要に応じてプリントを配布する。CD, DVDを使用する。							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・私語厳禁。 ・積極的な参加が求められる。 ・必ず英和及び英和辞典を持参する。 							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	be動詞、一般動詞、文の種類	be動詞、一般動詞、疑問文	/
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 60分	課題の演習	
2	特殊な文	There is～構文、命令文	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
3	時制(1)	未来形、進行形	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
4	時制(2)	現在完了	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
5	代名詞・助動詞・受動態・比較(1)	代名詞・助動詞	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
6	代名詞・助動詞・受動態・比較(2)	受動態・比較	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	
7	準動詞(1)	不定詞	/
	事前学習 60分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 60分	課題の演習	

8	準動詞(2)	分詞・動名詞	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
9	節(1)	接続詞	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
10	節(1)	関係代名詞	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
11	熟語、it	熟語、it	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
12	会話表現	会話表現	
	事前学習 60分 事後学習 60分	テキストの指定されたページを予習する 課題の演習	
13	TOEIC等への準備	応用演習	
	事前学習 60分 事後学習 60分	配布されたプリントの指定された箇所を予習する 課題の演習	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 120分 事後学習 30分	全体の学習内容を振り返り、学び全体を確認する。 学びの足りない部分を確認し、今後の英語学習のための心の準備をする。	

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ やすとも 前田 康智	クラス分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	
実務経験のある教員による科目							
該当なし							
授業の概要							
本演習は、入学時の試験によりクラス分けされた、基礎英語の再復習を要するクラスのための授業として、基礎文法に焦点をあて、多くの問題を与え、繰り返し学習する。							
成績評価方法							
授業中の態度(20%)、定期試験(80%)の総合評価							

成績評価基準ルーブリック【ディプロマ・ポリシー】

成績評価基準

S(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)：以下参照
D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない
Z：評価対象資格失格

到達（成績評価S）目標

- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を完全に修得する。【DP1：知識・技能】
- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を完全に修得する。【DP1：知識・技能】
- ・基礎的な文法力を土台にした読解力を完全に修得する。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価A）目標

- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
- ・基礎的な文法力を土台にした読解力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】

到達（成績評価B）目標

- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力が大方修得できている。【DP1：知識・技能】
- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を大方修得している。【DP1：知識・技能】
- ・基礎的な文法力を土台にした読解力を大方修得している。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がある程度修得できている。【DP1：知識・技能】
- ・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】
- ・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	形態
英語基礎演習b	—	共通	1年 前学期	演習	1	前田 康智	クラス 分け
科目区分		履修条件				AL	
支援科目〔共通〕		英語基礎演習bクラスに該当する者				6・7,16	
教科書							
大坂四郎：『First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門』 南雲堂（最新版）¥2,090							
参考書・資料							
なし							
教科書以外にかかる費用(自己負担)							
特になし							
課題に対するフィードバック							
教科書の練習問題はほぼ全てを授業中に受講学生に順番に課し、一問ずつ答えてもらう。その答えの正否と模範解答をその場で黒板に清書しながら解説する。							
履修上の注意・備考・メッセージ							
・必ず辞書を持参すること。							

授業のスケジュール

回	項目	内 容	担当者
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	/
	事前学習 15分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書6ページについて復習する	
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	/
	事前学習 60分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書8,9ページについて復習する	
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	/
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書10ページについて復習する	
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	/
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書12,13ページについて復習する	
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	/
	事前学習 60分	教科書15ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書14~17ページについて復習する	
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	/
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書18ページについて復習する	
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	/
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書20,21ページについて復習する	

8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書22ページについて復習する	
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書24, 25ページについて復習する	
10	特殊な文(1)	There (is) are～の文、There (was) were～の文、命令文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書26ページについて復習する	
11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書28, 29ページについて復習する	
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書30ページについて復習する	
13	未来形(2)／進行形(1)	be going to～、現在進行形、過去進行形、疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31, 35ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書32, 33, 34～37ページについて復習する	
14	進行形(2)／まとめ	be going to～、現在進行形、過去進行形、疑問文とその答え方、否定文／全体の振り返り	
	事前学習 60分	教科書32, 33, 34～37ページを再度読んでくる	
	事後学習 60分	これまでの学習内容を振り返り、教科書1～37ページを復習する	

講座名	担当教員	開講時期
情報技術活用講座	まえだ やすし 前田 康智	1,2前学期・後学期
受講条件	情報技術（情報技術Ⅰ）受講者、またはビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）・ビジネスワード・ビジネスパワーポイント・情報技術Ⅲ・情報技術Ⅳ受講者で、パソコン操作や資格取得に意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。	

講座の概要
Microsoft Word, Excel, PowerPointの各機能について、特に難しい操作について、繰り返し練習する。Wordであれば、特にインデント、タブ、図形の作成について、Excelであれば、特に構成比、関数（順位、四捨五入、検索）の操作について、PowerPointであれば、特にインデント、スライドマスター等の操作についてそれぞれ繰り返し練習する。前学期は情報技術（情報技術Ⅰ）受講者を対象に6～7回程度、後学期はビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）、ビジネスワード、ビジネスパワーポイント、情報技術Ⅲ、情報技術Ⅳ受講者を対象に8回程度実施する予定。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	なし（各授業で使用した資料や教科書を使用し、必要に応じてプリントを配布する）
参考書資料	特になし

講座についてのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑に双方向のコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を十分に理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・プレゼンテーションのために構成を考えて論理のある原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・話者の話を「聴く」ことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、文献を基に自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手にも配慮しながら状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】

講座名	担当教員	開講時期
ファッション資格支援講座	はた くみこ 畑 久美子	1,2前学期・後学期
受講条件	ファッションやアパレル系企業への就職を目指し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」を履修し、「ファッション販売能力検定」または「ファッション色彩能力検定」または「色彩検定」を受験する者。	

講座の概要
検定主催者が提供するテキストと問題集を使用し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」で得た知識を復習しながら繰り返し演習を行い知識の定着を図る。過去問題を解き、実際の検定試験対策を確実に合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」の授業で使用している教科書
参考書資料	適宜授業内で配布、または指示する

講座についてのメッセージ
ファッションやアパレル系の企業への就職を考えている場合、「ファッション販売能力検定」「ファッション色彩能力検定」「色彩検定」などの検定に合格することが望ましい。繰り返し問題を解くことで着実に合格に近づくので、合格への意志を持ち受講に臨むこと。

講座名	担当教員	開講時期
フード系資格支援講座	よねやま ようこ 米山 陽子	1,2年前学期・後学期
受講条件	フード系資格を取得希望者 (3級レストランサービス技能士、家庭料理検定、食品衛生責任者等)	

講座の概要
<p>フード系資格取得のための支援をします。レストランサービス技能試験（筆記試験）対策は過去問題を重点的に行います。</p> <p>家庭料理検定は筆記試験対策を行い、筆記試験合格後は実技試験対策も行う。</p>

教科書・参考書・参考資料	
教科書	各試験に対応した教科書、過去問題集
参考書資料	適宜授業内で配布、または指示する

講座についてのメッセージ
<p>試験受験希望者は早めに申しでること。日程調整はいたします。疑問点を解決し合格へと結びつけます。</p> <p>家庭料理検定を取得する過程で、技術も上達することが出来、自信が付きます。</p>

講座名	担当教員	開講時期
医療事務支援講座	なかの みやこ 中野 都	1,2年前学期
受講条件	医療事務サービス論・医療事務サービス演習を履修し、技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
<p>「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務サービス論の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。</p>

教科書・参考書・参考資料	
教科書	「医療事務サービス論」の授業で使用している教科書
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 最新版

講座についてのメッセージ
<p>医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務サービス論」の授業内容を確実に理解し、練習問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、「医療事務サービス論」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題に取り組んでいくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。</p>

講座名	対象者	開講時期	授業	担当教員
パティシエ実習Ⅱ（講座）	両専攻	2年前学期	実習	もりさき まゆか 森崎 繭香
受講条件				
両専攻（食物栄養、生活デザイン専攻）とも履修可能。 パティシエ実習Ⅰを履修した学生が、パティシエ実習Ⅱを履修できる。（R5年度は製菓製パン実習Ⅰを履修した学生）ただし、調理師資格を取得（高校等で取得）している学生は、パティシエ実習Ⅱから履修可能。				
授業の概要				
製菓の材料の取り扱い方、混ぜ方や混合のタイミング、泡立て方などの基礎的な技術をもとに、さらに高度な製菓技術を用いた菓子を習得する。それぞれの製菓の特徴をより深く学ぶことで、一人で再現でき、自在に応用できるようになる。 授業では一人一台、または二人一台で、計量から仕上げまでをおこなう。				
教科書				
なし				
参考書・資料				
毎回プリントを配布□				
教科書以外にかかる費用(自己負担)				
材料費（仮）				
受講の注意・備考・メッセージ				
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションやマナーの必要性を説明することができ、短大生として円滑に双方向のコミュニケーションをとることができるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・社会生活に必要なマナー・社会常識を十分に理解し、状況に応じて使うことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・プレゼンテーションのために構成を考えて論理性的のある原稿を作成し、聴衆の前で模範的なスピーチをすることができる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・話者の話を「聴く」ことができ、質問することができるようになる。【DP3：主体性、多様性、協働性】 ・レポートの書き方や文献の検索方法を理解したうえで、必要条件を満たし、文献を基に自分の考えを含めた内容のレポートが提出できるようになる。【DP1：知識・技能】【DP2：思考力・判断力・表現力等】 ・主体的にプロジェクト学習を進め、相手にも配慮しながら状況に応じた内容の文章を書くことができるようになる。【DP2：思考力・判断力・表現力等】【DP3：主体性、多様性、協働性】 				
回	項目	内容		
1	オリエンテーション/スポンジケーキ	注意事項伝達/製菓製パン実習Ⅰの復習：スポンジケーキ		
2	チョコレートのお菓子	生チョコ、トリュフ		
3	和菓子	黒糖まんじゅう		
4	フライパンで作れるケーキ	ミルクレープ		
5	パイ生地を使ったタルト	アプリコットタルト		
6	クッキー生地を使ったタルト	フルーツタルト		
7	小さな焼菓子①	フィナンシェ		
8	ゼラチンを使ったケーキ①	レアチーズケーキ		
9	小さな焼菓子②	レモンケーキ		
10	スポンジ生地（別立て）のデコレーション	ロールケーキ		
11	スポンジ生地（共立て）のデコレーション①	ショートケーキ		
12	スポンジ生地（共立て）のデコレーション②	チョコとダークチェリーのケーキ		
13	ゼラチンを使ったケーキ②	キャラメルムース		
14	チーズケーキ/皿盛りデザート	チーズテリーヌ/皿盛りデザート		